

熊谷市大幡公民館解体等工事

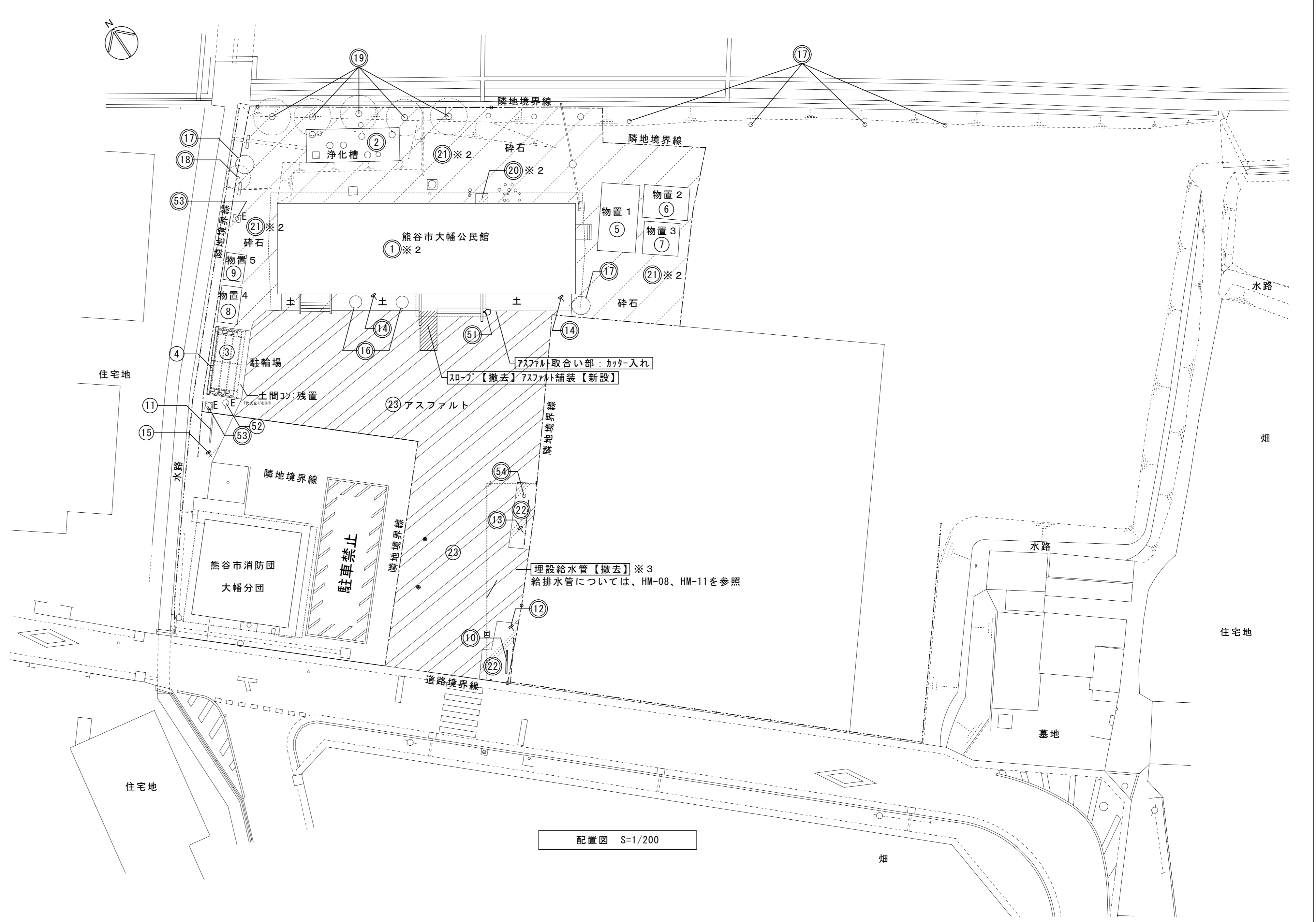
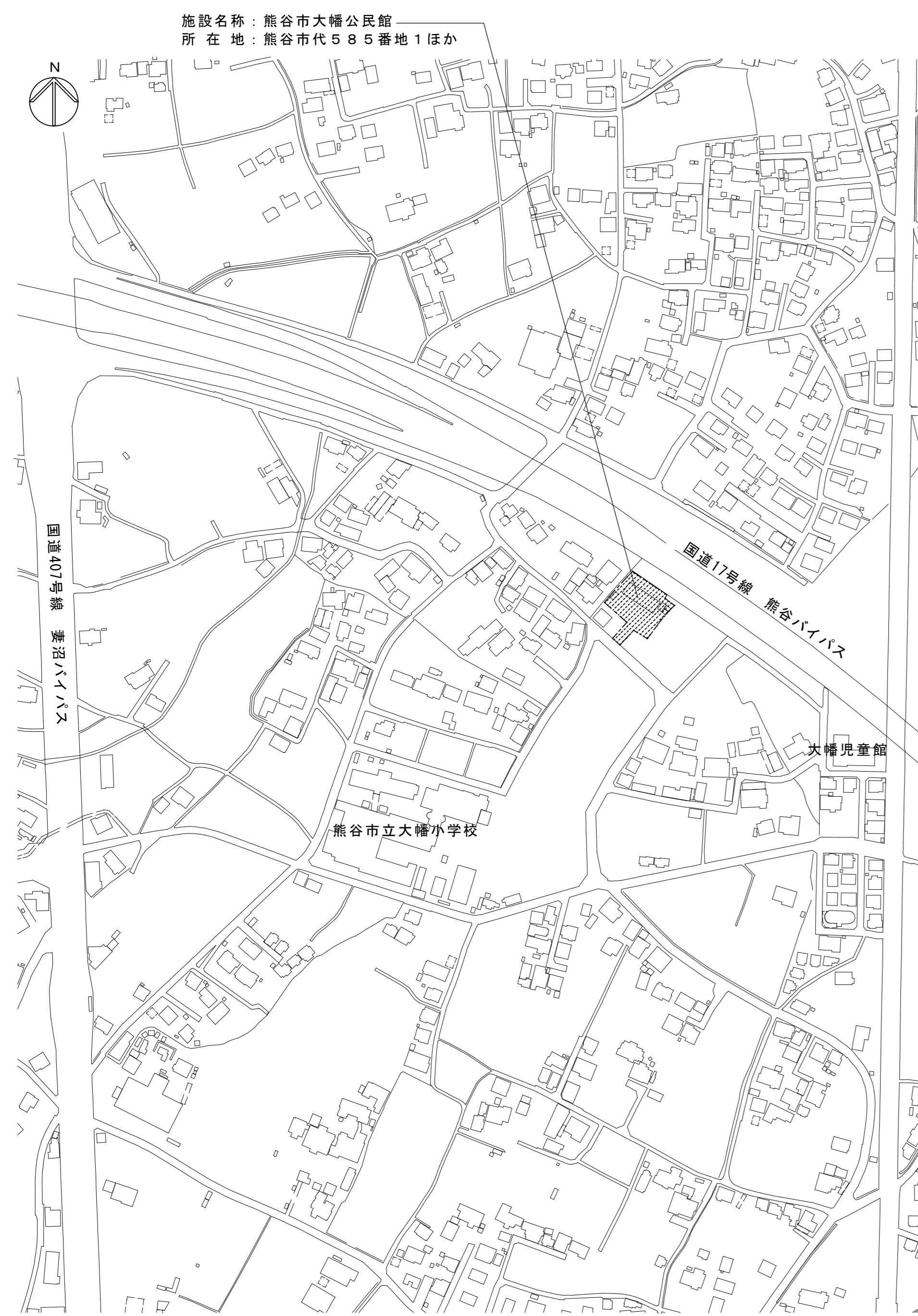
図面番号	図面名称	図面着称	図面名称	図面着称	図面名称	図面番号	図面名称
HA-01	特記仕様書1	HM-01	基礎伏図	HE-01	電気設備工事特記仕様書	HM-01	機械設備工事特記仕様書(1)
HA-02	特記仕様書2	HM-02	小屋伏図	HE-02	電気設備1階平面図	HM-02	機械設備工事特記仕様書(2)
HA-03	特記仕様書3	HM-03	鉄骨軸組図	HE-03	電気設備2階平面図	HM-03	機械設備工事特記仕様書(3)
HA-04	案内図、配置図、解体・改修リスト	HM-04	階段架構造、部材リスト	HE-04	構内配電線路図(改修前)	HM-04	配管凡例・解体工事特記事項
HA-05	建物概要・仕上表1	HM-05	鉄骨矩計図	HE-05	構内配電線路図(改修後)	HM-05	既存機器表・器具表・樹リスト
HA-06	建物概要・仕上表2	HM-06	木造軸組図1			HM-06	空調換気設備1階平面図
HA-07	平面図	HM-07	木造軸組図2			HM-07	空調換気設備2階平面図
HA-08	立面図					HM-08	既存配置図・外構平面図
HA-09	矩計図	HG-01	案内図・外構配置図			HM-09	給排水衛生設備1階平面図
HA-10	階段詳細図	HG-02	外構詳細図1			HM-10	給排水衛生設備2階平面図
HA-11	和室詳細図	HG-03	外構詳細図2			HM-11	給水管分水止め・引込み 外構平面図
HA-12	天井伏図	HG-04	外構詳細図3				
HA-13	建具キープラン	HG-05	転倒防止柵参考詳細図				
HA-14	建具表						
HA-15	展開図1						
HA-16	展開図2						
HA-17	浄化槽詳細図						
HA-18	仮設計画図(参考図)						

令和8年3月

株式会社 サナクト

<p>③ 特別管理産業廃棄物の処理</p> <table border="1"> <tr> <td>特別管理産業廃棄物の種類</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>○廃石綿等</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○PCBを含む機器類</td> <td>電気設備図による</td> </tr> <tr> <td>・ PCB含有シーリング材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 廃油</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 廃酸/廃アルカリ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ダイオキシン類</td> <td></td> </tr> </table> <p>処理施設 ・ 監督員と協議</p> <p>4 PCBを含む機器類 引渡しを要する機器類 (5.4.1)</p> <p>5 PCB含有シーリング材 除去処理工事 除去範囲 ※図示 撤去方法 「標準施工要領書（日本シーリング工事業協同組合連合会/日本シーリング材工業会）」による。</p> <p>6 ダイオキシン類 廃棄物の焼却施設の解体 解体方法 (5.4.1) 処分方法</p>	特別管理産業廃棄物の種類	備考	○廃石綿等		○PCBを含む機器類	電気設備図による	・ PCB含有シーリング材		・ 廃油		・ 廃酸/廃アルカリ		・ ダイオキシン類		<p>8 リフラクトリーセラミックファイバーの処理 除去処理対象物 除去対象範囲 ※図示 除去方法 ・ 埋立処分（安定型最終処分場） ・ 近隣説明及び諸官庁への届出は受注者が行い、事前に監督員と協議をすること。</p> <p>9 その他</p>	<p>7 特殊な建設副産物の処理</p> <table border="1"> <tr> <td>分析調査を行う特殊な建設副産物の種類</td> <td>採取する部位・箇所数</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>部位 ※図示</td> <td>箇所数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>部位 ※図示</td> <td>箇所数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>部位 ※図示</td> <td>箇所数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>部位 ※図示</td> <td>箇所数</td> <td></td> </tr> <tr> <td>部位 ※図示</td> <td>箇所数</td> <td></td> </tr> </table> <p>2 回収及び処分</p> <table border="1"> <tr> <td>回収及び処分を行う特殊な建設副産物の種類</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>・ フロン（冷媒）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 建材用断熱材フロン</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ ハロン</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ イオン化式感知器</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 六ふっ化硫黄（SF6）ガス</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ PFOS（ペルフルオロ（パーフルオ））</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 特定化学物質（ ）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ その他の特殊な建設副産物（ ）</td> <td></td> </tr> </table> <p>回収又は処分 ・ 機械設備図による</p>	分析調査を行う特殊な建設副産物の種類	採取する部位・箇所数	備考	部位 ※図示	箇所数		部位 ※図示	箇所数		部位 ※図示	箇所数		部位 ※図示	箇所数		部位 ※図示	箇所数		回収及び処分を行う特殊な建設副産物の種類	備考	・ フロン（冷媒）		・ 建材用断熱材フロン		・ ハロン		・ イオン化式感知器		・ 六ふっ化硫黄（SF6）ガス		・ PFOS（ペルフルオロ（パーフルオ））		・ 特定化学物質（ ）		・ その他の特殊な建設副産物（ ）		<p>(写真撮影) 第4条 前2条に規定する事前調査に当たっては、改ざん（修正、書き込み、削除等）の防止措置を講じたうえで写真撮影するものとする。この場合において、写真撮影が困難な箇所又はスケッチによることが適当と認められる箇所については、スケッチによることができるものとする。 2 第2条の一般的事項の調査においては、損傷の有無にかかわらず、原則として、次の箇所を撮影するものとする。 一 四方からの外部及び屋根 二 各室 三 前条の損傷調査において計測する箇所は、撮影対象箇所を指示棒等により指示し、次の事項を明示した黒板等と同時に撮影するものとする。 一 調査番号、建物番号及び建物等所有者の氏名 二 損傷名及び損傷の程度（計測） 三 撮影年月日、写真番号及び撮影対象箇所 (事後調査における損傷調査) 第5条 事前調査を行った損傷箇所の変化及び工事によって新たに発生した損傷については、その状態及び程度を前3条（第10条第2項を除く。）の定めるところにより調査するものとする。 2 第3条の事前調査の調査区域外であって、事後調査の対象となったものについては、同条の事前調査における一般的事項に準じた調査を行った上で損傷箇所を調査するものとする。 (事前調査書等の作成) 第6条 事前調査を行ったときは、次の調査書及び図面を作成するものとする。 一 調査区域位置図 二 調査区域平面図 三 建物等調査一覧表 四 建物等調査図（平面図・立面図等） 五 建物等調査書 六 損傷調査書 七 写真台帳 (事前調査書及び図面) 第7条 前条の調査書及び図面は、次により作成するものとする。 一 調査区域位置図は、工事の工区単位ごとに作成するものとし、調査区域と工事箇所を併せて表示する。この場合の縮尺は、5,000分の1又は10,000分の1程度とする。 二 調査区域平面図は、調査区域内の建物等の配置を示す平面図で工事の工区単位又は調査単位ごとに次により作成する。 イ 調査を実施した建物等については、建物等調査一覧表で付した調査番号及び建物番号（同一所有者が2棟以上の建物所有している場合）を記載し、建物の構造別に色分けし、建物の外縁（外壁）を着色する。この場合の構造別色分けは、木造を赤色、非木造を緑色とする。 ロ 縮尺は、500分の1又は、1,000分の1程度とする。 三 建物等調査一覧表は、工事の工区単位又は調査単位ごとに調査を実施した建物について調査番号、建物番号の順に建物の所在地、所有者及び建物の概要等必要な事項を記入する。また、工作物に損傷があった場合には、建物に準じて記入する。 四 建物の建物等調査図（平面図、立面図等）は、第2条及び第3条の事前調査の結果を基に建物ごとに次により作成するものとする。 イ 建物等調査は、縮尺100分の1で作成し、写真撮影を行った位置を表示するとともに建物等平面図及び立面図の図面並にこれらの計算式を記入する。 ロ 建物等立面図は、縮尺100分の1により、原則として、四面（東西南北）作成し、外壁の亀裂等の損傷位置を記入する。 ハ その他調査図（基礎伏図、屋根伏図及び展開図）は、発生している損傷を表示する必要がある場合に作成し、縮尺は100分の1又は10分の1程度とする。この場合において写真撮影が困難であり、又は詳細（スケッチ）図を作成することが適当であると認められたものについては、スケッチによる調査図を作成する。 五 工作物の建物等調査図（平面図、立面図等）は、損傷の状況及び程度により前号に準じて作成する。 六 損傷調査書は、第2条及び第3条の事前調査の結果に基づき、建物等ごとに建物の所在地、所有者名、各室の名称、各部仕上材、写真番号及び損傷の状況等を記載して作成するものとする。なお、写真番号については、次号の写真番号と合わせるものとし、損傷の状況については、事前調査欄に損傷の状況（亀裂、沈下、傾斜等）及び程度（幅、長さ及び箇所数）を記載する。 七 写真台帳は、写真番号、撮影対象箇所及び損傷名を記載し、整理するものとする。 (事後調査書等の作成) 第8条 事後調査を行ったときは、第6条の調査書及び図面を基に損傷箇所の変化及び新たに発生した損傷について、事前調査までの成果を基に、第6条第一号及び第二号については図面を明示し、同条第三号から第七号までについては事前調査成果を転記し、前条に準じて第6条各号の調査書及び図面を作成するものとする。</p> <p>対象エリア及び建物リスト等 ※図示による（ 2棟 ）</p> <p>※共同住宅の内部調査については、各戸調査を行う ※「外部」の調査は、足場等を設置せず、地上からの目視により行う。</p> <p>この契約による業務を履行するため個人情報を取り扱う場合は、「個人情報取扱特記事項」を遵守しなければならない。</p>	<p>③ アスファルト舗装</p> <p>アスファルト舗装の構成及び厚さ ※図示 (22.4.2~4、6) (表22.4.1、4) 材料及び種類 アスファルト ○再生アスファルト G (標準仕様書 表22.4.11による種類： ・ 60~80 ・ 80~100) ・ ストレートアスファルト ・ 道路用砕石 ・ アスファルトコンクリート再生骨材 G 加熱アスファルト混合物等の種類 ○密粒度アスファルト混合物 (13) ・ 細粒度アスファルト混合物 (13) ・ 密粒度アスファルト混合物 (13F) 試験 アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない 舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度</p> <p>4 コンクリート舗装</p> <p>構成及び厚さ (22.5.2~4) (表22.5.1~3)</p> <table border="1"> <tr> <th>舗装の種類</th> <th>部位</th> <th>構成</th> <th>厚さ(mm)</th> </tr> <tr> <td>コンクリート舗装</td> <td>・ 車路、駐車場</td> <td>※図示</td> <td>・ 図示</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・ 歩行者用通路</td> <td>※図示</td> <td>※70</td> </tr> </table> <p>材料 コンクリート ※普通コンクリート 標準仕様書表22.5.1による ・ 以下による コンクリートの種類 設計基準強度(N/mm²) 所定のランプ(cm) ※8 粗骨材の最大寸法(mm) 早強ポルトランドセメント ・ 使用する ・ 使用しない 注入目地材料 ※低弾性タイプ ・ 高弾性タイプ 目地 種類 ※標準仕様書表22.5.3による 間隔 ※標準仕様書表22.5.3による 構造 ※標準仕様書表22.5.1による 図示 舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度</p> <p>5 カラー舗装</p> <p>・ 加熱系カラー舗装 (22.6.2~4) 構成及び厚さ ※図示 加熱系混合物の結合材 ・ アスファルト混合物 ・ 石油樹脂系混合物 顔料の添加量 (%) 添加材 着色骨材 () 自然石 13 ・ 常温系カラー舗装 工法 ・ ニート工法（配合その他： ） ・ 塗布工法（配合その他： ） 着色部の下部 ・ アスファルト舗装 ・ コンクリート舗装 舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度</p> <p>6 透水性舗装</p> <p>・ 透水性アスファルト舗装 (22.7.2、3、6) 舗装の構成及び厚さ ※図示 骨材 ・ 道路用砕石 ・ アスファルトコンクリート再生骨材 G (標準仕様書 表22.4.11による種類： ・ 60~80 ・ 80~100) 舗装の平坦性 ※著しい不陸がないもの 試験 開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない ・ 透水性コンクリート舗装 (22.5.2~4、6) コンクリート舗装に対する基準値</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>基準値</th> </tr> <tr> <td>最大粒径 (mm)</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>空隙率 (%)</td> <td>20以上</td> </tr> <tr> <td>透水係数 (cm/s)</td> <td>1×10⁻²以上</td> </tr> <tr> <td>目地の間隔</td> <td>版厚の20倍程度</td> </tr> </table> <p>出典：構内舗装・排水設計基準の資料（H27）、舗装施工便覧（H18） 構成、厚さはコンクリート舗装による</p> <p>・ 不織布（ジオテキスタイル） 敷設位置 ※フィルター層と路床の間敷設 ・ 図示 単位面積質量 ・ 60g/m²以上 厚さ (mm) ・ 0.5~1.0 引張強さ ・ 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 透水係数 ・ 1.5×10⁻¹cm/sec以上</p> <p>・ 透水性コンクリート平板舗装 (22.8.2、3) 透水性コンクリート平板舗装は、ブロック系舗装による</p> <p>・ 透水性インターロッキングブロック舗装 (22.8.2、3) 透水性インターロッキングブロック舗装は、ブロック系舗装による</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>種類</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>表層</td> <td>半たわみ性舗装用アスファルト混合物1型(13)</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>基層</td> <td>再生粗粒度アスファルト混合物(20)</td> <td>40</td> </tr> </table> <p>試験 半たわみ性舗装用アスファルト混合物等の抽出試験 ・ 行う ・ 行わない</p> <p>材料 浸透用セメントミルクの標準的な性状</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>性状</th> <th>試験方法</th> </tr> <tr> <td>フロー値 (P-ロード) 砂</td> <td>10~14</td> <td>舗装調査・試験法便覧 (C041)</td> </tr> <tr> <td>圧縮強度 (7日養生) MPa</td> <td>9.8~29.4</td> <td>JIS R 5201</td> </tr> <tr> <td>曲げ強度 (7日養生) MPa</td> <td>2.0以上</td> <td>舗装調査・試験法便覧 (C042)</td> </tr> </table> <p>配合 半たわみ性舗装用アスファルト混合物の標準配合</p> <table border="1"> <tr> <th>ふるいの呼び名</th> <th>ふるい通過質量百分率 (%)</th> </tr> <tr> <td>19.0 mm</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>13.2 mm</td> <td>95~100</td> </tr> <tr> <td>4.75 mm</td> <td>10~35</td> </tr> <tr> <td>2.36 mm</td> <td>5~22</td> </tr> <tr> <td>600 μm</td> <td>4~15</td> </tr> <tr> <td>300 μm</td> <td>3~12</td> </tr> <tr> <td>75 μm</td> <td>1~6</td> </tr> <tr> <td>アスファルト量 (%)</td> <td>3~4.5</td> </tr> </table> <p>半たわみ性舗装用アスファルト混合物のマッシュ安定度試験に対する基準値</p> <table border="1"> <tr> <th>項目</th> <th>基準値</th> </tr> <tr> <td>密度 (g/cm³)</td> <td>1.9以上</td> </tr> <tr> <td>安定度 (kN)</td> <td>2.94以上</td> </tr> <tr> <td>フロー値 (1/100cm)</td> <td>20~40</td> </tr> <tr> <td>空隙率 (%)</td> <td>20~28</td> </tr> <tr> <td>突固め回数 (回)</td> <td>50</td> </tr> </table>	舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)	コンクリート舗装	・ 車路、駐車場	※図示	・ 図示		・ 歩行者用通路	※図示	※70	項目	基準値	最大粒径 (mm)	13	空隙率 (%)	20以上	透水係数 (cm/s)	1×10 ⁻² 以上	目地の間隔	版厚の20倍程度	区分	種類	厚さ (mm)	表層	半たわみ性舗装用アスファルト混合物1型(13)	40	基層	再生粗粒度アスファルト混合物(20)	40	項目	性状	試験方法	フロー値 (P-ロード) 砂	10~14	舗装調査・試験法便覧 (C041)	圧縮強度 (7日養生) MPa	9.8~29.4	JIS R 5201	曲げ強度 (7日養生) MPa	2.0以上	舗装調査・試験法便覧 (C042)	ふるいの呼び名	ふるい通過質量百分率 (%)	19.0 mm	100	13.2 mm	95~100	4.75 mm	10~35	2.36 mm	5~22	600 μm	4~15	300 μm	3~12	75 μm	1~6	アスファルト量 (%)	3~4.5	項目	基準値	密度 (g/cm ³)	1.9以上	安定度 (kN)	2.94以上	フロー値 (1/100cm)	20~40	空隙率 (%)	20~28	突固め回数 (回)	50
	特別管理産業廃棄物の種類	備考																																																																																																																													
○廃石綿等																																																																																																																															
○PCBを含む機器類	電気設備図による																																																																																																																														
・ PCB含有シーリング材																																																																																																																															
・ 廃油																																																																																																																															
・ 廃酸/廃アルカリ																																																																																																																															
・ ダイオキシン類																																																																																																																															
分析調査を行う特殊な建設副産物の種類	採取する部位・箇所数	備考																																																																																																																													
部位 ※図示	箇所数																																																																																																																														
部位 ※図示	箇所数																																																																																																																														
部位 ※図示	箇所数																																																																																																																														
部位 ※図示	箇所数																																																																																																																														
部位 ※図示	箇所数																																																																																																																														
回収及び処分を行う特殊な建設副産物の種類	備考																																																																																																																														
・ フロン（冷媒）																																																																																																																															
・ 建材用断熱材フロン																																																																																																																															
・ ハロン																																																																																																																															
・ イオン化式感知器																																																																																																																															
・ 六ふっ化硫黄（SF6）ガス																																																																																																																															
・ PFOS（ペルフルオロ（パーフルオ））																																																																																																																															
・ 特定化学物質（ ）																																																																																																																															
・ その他の特殊な建設副産物（ ）																																																																																																																															
舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)																																																																																																																												
コンクリート舗装	・ 車路、駐車場	※図示	・ 図示																																																																																																																												
	・ 歩行者用通路	※図示	※70																																																																																																																												
項目	基準値																																																																																																																														
最大粒径 (mm)	13																																																																																																																														
空隙率 (%)	20以上																																																																																																																														
透水係数 (cm/s)	1×10 ⁻² 以上																																																																																																																														
目地の間隔	版厚の20倍程度																																																																																																																														
区分	種類	厚さ (mm)																																																																																																																													
表層	半たわみ性舗装用アスファルト混合物1型(13)	40																																																																																																																													
基層	再生粗粒度アスファルト混合物(20)	40																																																																																																																													
項目	性状	試験方法																																																																																																																													
フロー値 (P-ロード) 砂	10~14	舗装調査・試験法便覧 (C041)																																																																																																																													
圧縮強度 (7日養生) MPa	9.8~29.4	JIS R 5201																																																																																																																													
曲げ強度 (7日養生) MPa	2.0以上	舗装調査・試験法便覧 (C042)																																																																																																																													
ふるいの呼び名	ふるい通過質量百分率 (%)																																																																																																																														
19.0 mm	100																																																																																																																														
13.2 mm	95~100																																																																																																																														
4.75 mm	10~35																																																																																																																														
2.36 mm	5~22																																																																																																																														
600 μm	4~15																																																																																																																														
300 μm	3~12																																																																																																																														
75 μm	1~6																																																																																																																														
アスファルト量 (%)	3~4.5																																																																																																																														
項目	基準値																																																																																																																														
密度 (g/cm ³)	1.9以上																																																																																																																														
安定度 (kN)	2.94以上																																																																																																																														
フロー値 (1/100cm)	20~40																																																																																																																														
空隙率 (%)	20~28																																																																																																																														
突固め回数 (回)	50																																																																																																																														
<p>6 石綿含有建材の事前調査</p> <p>石綿含有建材の事前調査 (1.4.1) 工事着手に先立ち目視及び貸与する設計図書等により石綿を含有している吹き付け材、成形板、建築材料等の使用の有無について調査し、監督員に報告する。 調査範囲 () ※図示 貸与資料 (石綿含有建材事前調査報告書)</p> <p>2 石綿含有分析調査 (1.4.1) 分析による石綿含有建材の調査 分析対象 アモサイト、クリソタイル、クロソライト、アクチノライト、アンソノライト、トレモライト</p> <p>分析方法</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">材 料 名</th> <th colspan="2">定性分析方法</th> <th colspan="2">定量分析方法</th> </tr> <tr> <td>JIS A 1481-1</td> <td>JIS A 1481-2</td> <td>JIS A 1481-3</td> <td>JIS A 1481-4</td> </tr> <tr> <td>・ 7メッシュ防水(屋根)</td> <td>※ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>※ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>※ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> <td>・ 箇所</td> </tr> </table> <p>サンプル数 1箇所あたり3サンプル 吹付け材及び保温材等は ※ 10cm² /箇所 ・ /箇所 とする。 成形板は ※ 100cm² /箇所 ・ /箇所 とする。 採取箇所 ※ 図示 分析結果については監督員に提出すること。</p> <p>③ 石綿粉じん濃度測定 (6.1.3)</p> <table border="1"> <tr> <th>測定時期、場所及び測定点</th> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定点</th> </tr> <tr> <td>適用 測定1</td> <td>測定1</td> <td>処理作業室内 (処理作業区ごと)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※ ※ 測定1</td> <td>測定1</td> <td>施工区画周辺又は敷地境界 4方向各1点 () 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※ ※ 測定2</td> <td>測定2</td> <td>処理作業室内 () 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※ ※ 測定4</td> <td>測定4</td> <td>仕上り開口 () 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※ 測定5</td> <td>測定5</td> <td>集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合) 各1点 () 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※ 測定6</td> <td>測定6</td> <td>施工区画周辺又は敷地境界 4方向各1点 () 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※ ※ ※ 測定7</td> <td>測定7</td> <td>処理作業室内 各2点 (※※は各1点) () 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※ ※ ○ 測定8</td> <td>測定8</td> <td>施工区画周辺又は敷地境界 4方向各1点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>測定9</td> <td>測定9</td> <td>処理作業室内 () 点</td> <td></td> </tr> <tr> <td>測定10</td> <td>測定10</td> <td>施工区画周辺又は敷地境界 () 点</td> <td></td> </tr> </table> <p>さいたま市内で測定を行う場合は市条例を遵守して実施すること。</p> <p>測定方法 測定5のみ ※ベネチカ粉じん計、粉じん相対温度計(7メッシュ粉じん計)、繊維状粒子自動計測器 (7メッシュモニター) 等、排気の粉じん濃度を迅速に計測できる機器にて測定</p> <p>測定5以外は下表による</p> <table border="1"> <tr> <th></th> <th>測定3</th> <th>測定1,4,7,9</th> <th>測定2,6,8,10</th> </tr> <tr> <td>7メッシュの直径 (mm)</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>47</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引流量 (L/min)</td> <td>※1</td> <td>※5</td> <td>※5</td> </tr> <tr> <td>試料の吸引時間 (min)</td> <td>※5</td> <td>※120</td> <td>※240</td> </tr> </table>	材 料 名	定性分析方法		定量分析方法		JIS A 1481-1	JIS A 1481-2	JIS A 1481-3	JIS A 1481-4	・ 7メッシュ防水(屋根)	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	測定時期、場所及び測定点	測定時期	測定場所	測定点	適用 測定1	測定1	処理作業室内 (処理作業区ごと)		※ ※ 測定1	測定1	施工区画周辺又は敷地境界 4方向各1点 () 点		※ ※ 測定2	測定2	処理作業室内 () 点		※ ※ 測定4	測定4	仕上り開口 () 点		※ 測定5	測定5	集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合) 各1点 () 点		※ 測定6	測定6	施工区画周辺又は敷地境界 4方向各1点 () 点		※ ※ ※ 測定7	測定7	処理作業室内 各2点 (※※は各1点) () 点		※ ※ ○ 測定8	測定8	施工区画周辺又は敷地境界 4方向各1点		測定9	測定9	処理作業室内 () 点		測定10	測定10	施工区画周辺又は敷地境界 () 点			測定3	測定1,4,7,9	測定2,6,8,10	7メッシュの直径 (mm)	25	25	47	試料の吸引流量 (L/min)	※1	※5	※5	試料の吸引時間 (min)	※5	※120	※240	<p>8 周辺建築物等調査 (調査)</p> <p>第1条 建物等の調査は、事前調査と事後調査に区分して行うものとする。 2 事前調査及び事後調査にあたっては、原則として建物等の所有者及び所有権以外の権利所有者（以下「所有者等」という。）の立会いのうえ行い、地盤変動影響調査等仕様書で定める様式に署名、押印を求めものとする。 3 前項の調査は、情報通信技術その他の先端的な技術を活用して行うことができるものとする。 (事前調査における一般的事項) 第2条 事前調査の実施に当たっては、調査区域内に存する建物等につき、建物等の所有者ごとに次の事項について調査を行うものとする。 一 建物の敷地ごとに建物等（工作物については主たるもの）の敷地内の位置関係 二 建物等ごとに実測による間取り平面及び立面 三 建物等の所在及び地盤並びに建築年月並びに所有者の氏名及び住所 四 その他第8条の調査書及び図面の作成に必要な事項 2 前項第三号の所有者の氏名及び住所が現地調査において確認できないときは、必要に応じて登記事項証明書を請求する等の方法により調査できるものとする。 (事前調査における損傷調査) 第3条 前条の一般的事項の調査が完了したときは、当該建物等の既存の損傷箇所の調査を行うものとし、当該調査は、原則として、次の部位別に行うものとする。 一 基礎 二 軸部 三 開口部 四 床 五 天井 六 内壁 七 外壁 八 屋根 九 水回り 十 外構 2 基礎についての調査は、次により行うものとする。 一 建物の全体又は一部の傾斜若しくは沈下の状況を把握するため、原則として、当該建物基礎の四方向を水準測量で計測する。この場合において、事後調査の基準点とするため、沈下等のおそれのない堅固な物件を定め併せて計測を行う。 二 コンクリート基礎等に亀裂等が生じているときは、建物の外周について、亀裂等の発生箇所及び状況（最大幅及び長さ）を計測する。 三 基礎のモルタル塗り部分に剥離又は浮き上がりが生じているときは、発生箇所及び状況（大きさ）を計測する。 四 計測の単位は、幅についてはミリメートル、長さについてはセンチメートルとする。 3 軸部（柱及び敷居）についての調査は、次により行うものとする。 一 原則として、すべての傾斜の程度を傾斜角で計測する。 二 柱の傾斜の計測位置は、直交する二方向の床（敷居）から1メートルの高さの点とする。 三 敷居の傾斜の計測位置は、柱から1メートル離れた点とする。 四 計測の単位は、ミリメートルとする。 4 開口部（建具等）についての調査は、次により行うものとする。 一 原則として、当該建物で建付不良となっている数量調査を行った後、不良箇所すべてを計測する。 二 計測箇所は、柱又は窓枠と建具との隙間との最大値の点とする。 三 建具の開閉が滑らかに行えないもの若しくは不能なもの又は機能不良が生じているものはその程度を数量を調査する。 四 計測の単位はミリメートルとする。 5 床についての調査は、次により行うものとする。 一 えん甲板張り等の居室（畳敷の居室を除く。）について、気泡水準器で直交する二方向の傾斜を計測する。 二 床仕上げ材に亀裂、縁切れ、剥離又は破損が生じているときは、それらの箇所及び状況（最大幅、長さ又は大きさ）を計測する。 三 床、大引又は根太等床材に緩みが生じているときは、その程度を調査する。 四 計測の単位は、幅についてはミリメートル、長さ及び大きさについてはセンチメートルとする。 6 天井に亀裂、縁切れ、雨漏り等のシミ等が発生しているときの調査は、内壁の調査に準じて行うものとする。 7 内壁にちり切れ（柱及び内法材と壁との分離）が発生しているときの調査は、次により行うものとする。 一 原則として、すべてのちり切れを計測する。 二 計測の単位は、幅についてはミリメートルとする。 8 内壁に亀裂が発生しているときの調査は、次により行うものとする。 一 原則として、全ての亀裂の計測（最大幅、長さ及び分岐点幅）をする。 二 計測の単位は、幅についてはミリメートル、長さについてはセンチメートルとする。 三 亀裂が一壁面に多数発生している場合にはその状態をスケッチするとともに、壁面に雨漏り等のシミが生じているときは、その形状及び大きさの調査をする。 9 外壁に亀裂等が発生しているときの調査は、次により行うものとする。 一 四方の立面に生じている亀裂等の数量、形状等をスケッチするとともに、一方の最大の亀裂から2か所程度を計測する。 二 計測の単位は、幅についてはミリメートルとし、長さについてはセンチメートルとする。 10 屋根（庇、雨樋を含む。）に亀裂又は破損等が発生しているときの調査は、当該建物の屋根伏図を作成し、次により行うものとする。 一 仕上げ材ごとに、その損傷の程度を計測する。 二 計測の単位は、原則として、センチメートルとする。ただし、亀裂等の幅についてはミリメートルとする。 11 水回り（浴槽、台所、洗面所等）に亀裂、破損、漏水等が発生しているときの調査は、次により行うものとする。 一 浴槽、台所、洗面所等の床、壁、壁面のタイル張り等に亀裂、剥離、目地切れ等が生じているときの調査は、全ての損傷について第8項に準じて行う。 二 給水、排水等の配管に緩み、漏水等が生じているときは、その状況等を調査する。 12 外構（テラス、コンクリートデッキ、ベンダ、犬走り、池、浄化槽、門柱、塀、擁壁等の構造物）に損傷が発生しているときの調査は、前11項に準じて、その状況等の調査を行うものとする。</p>	<p>② 調査対象範囲</p> <p>③ 個人情報の保護</p> <p>9 ① 路床 (22.2.2、3、5) (表22.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>材料</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>・ 盛土</td> <td>・ A種 ○B種 ・ C種 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土 G</td> <td>・ 図示</td> </tr> <tr> <td>・ 凍上抑制層</td> <td>・ 再生クラッシュラン G ・ クラッシュラン ・ 切込み砂利 ・ 砂（標準仕様書表21.2.2による）</td> <td>・ 図示</td> </tr> <tr> <td>・ フィルター層</td> <td>・ 標準仕様書表22.2.3(3)による</td> <td>・ 図示</td> </tr> </table> <p>(凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験) ・ 行う ・ 行わない</p> <p>・ 路床安定処理 安定処理の方法 ・ 安定処理工法 ・ 置き換え工法 添加材による安定処理 種類 ・ 普通ポルトランドセメント ・ 高炉セメントB種 G ・ フライアッシュセメントB種 ・ 生石灰（・特号・1号） 添加量 ・ kg/m³ (CBR ・ 3以上)</p> <p>・ 不織布（ジオテキスタイル） 単位面積質量 ・ 60g/m²以上 厚さ (mm) ・ 0.5~1.0 引張強さ ・ 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 透水係数 ・ 1.5×10⁻¹cm/sec以上</p> <p>試験 路床土の支持力比 (CBR) 試験 ・ 行う (箇所) ・ 行わない 横断CBR試験 ・ 行う (箇所) ・ 行わない 安定処理土のCBR試験 ・ 行う ・ 行わない 路床締め度試験 ・ 行う (箇所) ・ 行わない 六価クロム抽出試験 ・ 行う</p> <p>② 路盤 (22.3.2、3) (表22.3.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>砕石</td> <td>○クラッシュラン ○粒度調整砕石</td> </tr> <tr> <td>再生材</td> <td>○再生クラッシュラン G ○再生粒度調整砕石 G</td> </tr> <tr> <td>鉄鋼スラグ</td> <td>○クラッシュラン鉄鋼スラグ G ○粒度調整鉄鋼スラグ G ○水硬性粒度調整鉄鋼スラグ G</td> </tr> </table>	種別	材料	厚さ (mm)	・ 盛土	・ A種 ○B種 ・ C種 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土 G	・ 図示	・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシュラン G ・ クラッシュラン ・ 切込み砂利 ・ 砂（標準仕様書表21.2.2による）	・ 図示	・ フィルター層	・ 標準仕様書表22.2.3(3)による	・ 図示	種別	厚さ (mm)	砕石	○クラッシュラン ○粒度調整砕石	再生材	○再生クラッシュラン G ○再生粒度調整砕石 G	鉄鋼スラグ	○クラッシュラン鉄鋼スラグ G ○粒度調整鉄鋼スラグ G ○水硬性粒度調整鉄鋼スラグ G																					
		材 料 名	定性分析方法		定量分析方法																																																																																																																										
JIS A 1481-1	JIS A 1481-2		JIS A 1481-3	JIS A 1481-4																																																																																																																											
・ 7メッシュ防水(屋根)	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																																																																																																																											
・	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																																																																																																																											
・	※ 箇所	・ 箇所	・ 箇所	・ 箇所																																																																																																																											
測定時期、場所及び測定点	測定時期	測定場所	測定点																																																																																																																												
適用 測定1	測定1	処理作業室内 (処理作業区ごと)																																																																																																																													
※ ※ 測定1	測定1	施工区画周辺又は敷地境界 4方向各1点 () 点																																																																																																																													
※ ※ 測定2	測定2	処理作業室内 () 点																																																																																																																													
※ ※ 測定4	測定4	仕上り開口 () 点																																																																																																																													
※ 測定5	測定5	集じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合) 各1点 () 点																																																																																																																													
※ 測定6	測定6	施工区画周辺又は敷地境界 4方向各1点 () 点																																																																																																																													
※ ※ ※ 測定7	測定7	処理作業室内 各2点 (※※は各1点) () 点																																																																																																																													
※ ※ ○ 測定8	測定8	施工区画周辺又は敷地境界 4方向各1点																																																																																																																													
測定9	測定9	処理作業室内 () 点																																																																																																																													
測定10	測定10	施工区画周辺又は敷地境界 () 点																																																																																																																													
	測定3	測定1,4,7,9	測定2,6,8,10																																																																																																																												
7メッシュの直径 (mm)	25	25	47																																																																																																																												
試料の吸引流量 (L/min)	※1	※5	※5																																																																																																																												
試料の吸引時間 (min)	※5	※120	※240																																																																																																																												
種別	材料	厚さ (mm)																																																																																																																													
・ 盛土	・ A種 ○B種 ・ C種 ・ D種 ・ 建設汚泥から再生した処理土 G	・ 図示																																																																																																																													
・ 凍上抑制層	・ 再生クラッシュラン G ・ クラッシュラン ・ 切込み砂利 ・ 砂（標準仕様書表21.2.2による）	・ 図示																																																																																																																													
・ フィルター層	・ 標準仕様書表22.2.3(3)による	・ 図示																																																																																																																													
種別	厚さ (mm)																																																																																																																														
砕石	○クラッシュラン ○粒度調整砕石																																																																																																																														
再生材	○再生クラッシュラン G ○再生粒度調整砕石 G																																																																																																																														
鉄鋼スラグ	○クラッシュラン鉄鋼スラグ G ○粒度調整鉄鋼スラグ G ○水硬性粒度調整鉄鋼スラグ G																																																																																																																														
<p>株式会社 サナクト</p> <p>一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (4) 第10060号 設計者 一級建築士 第267371号 菅野 孝</p>	<p>熊谷市建設部管轄課</p> <p>担当 出</p>	<p>熊谷市大幡公民館解体等工事</p> <p>特記仕様書 2</p>	<p>図面番号 HA-O2</p> <p>縮尺 - (A1) - (A3)</p>																																																																																																																												

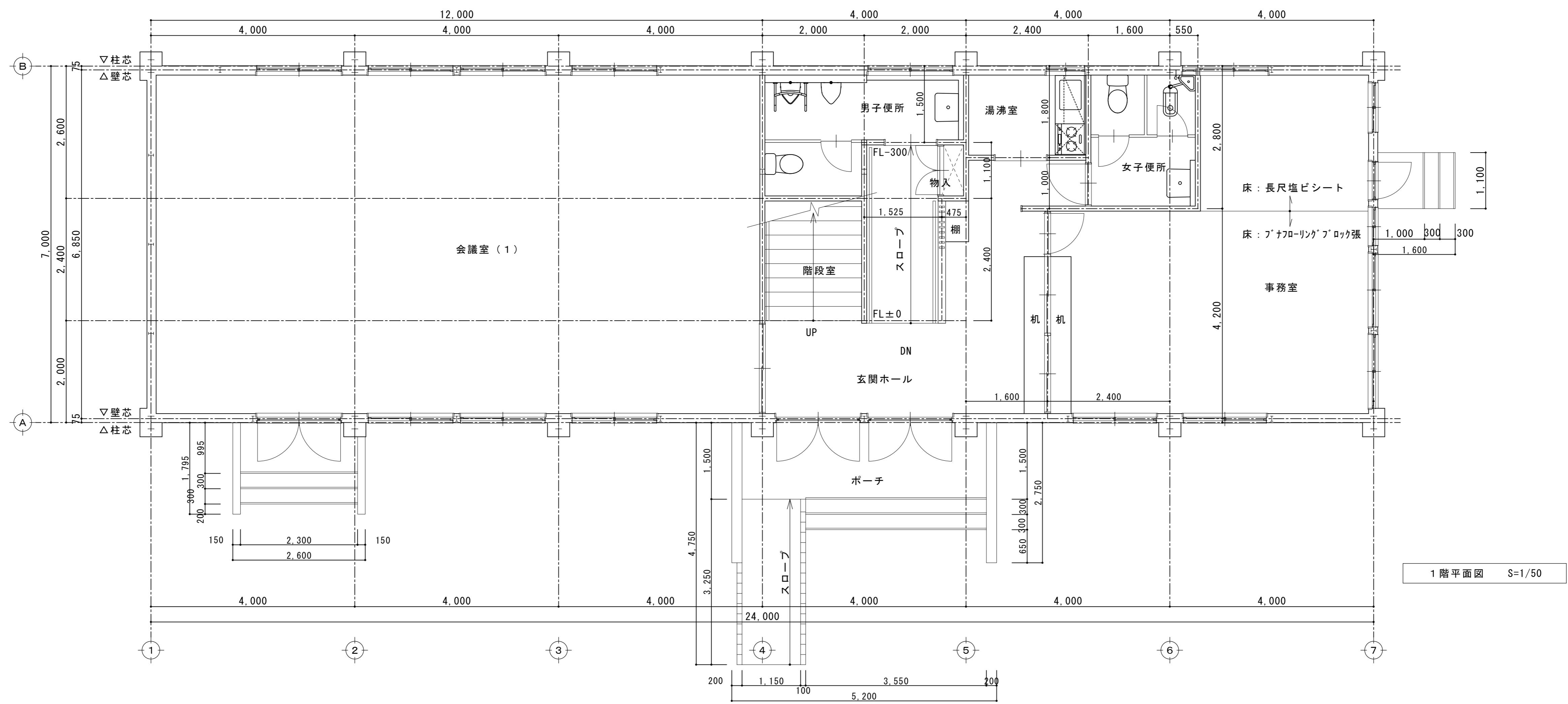
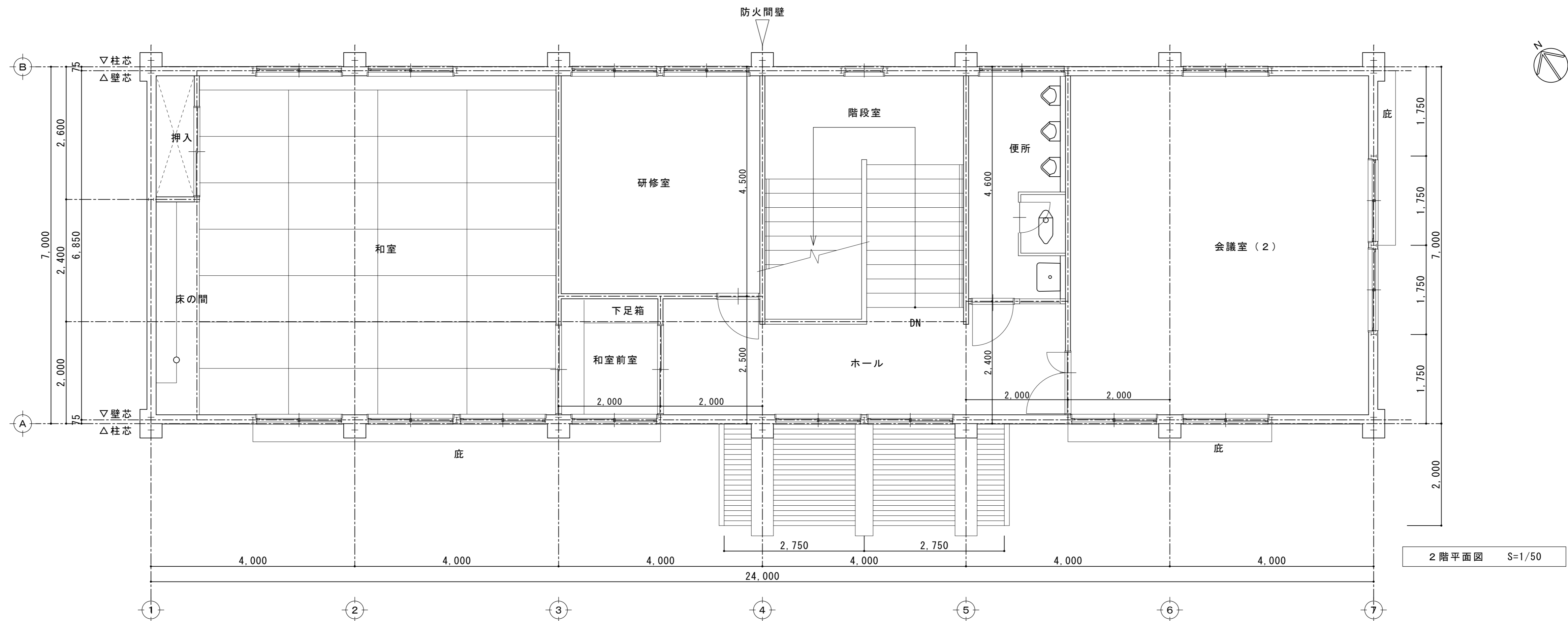
9 舗装工事	<p>施工 半たわみ性舗装用アスファルト混合物等の施工は、標準仕様書22.4.5による。 浸透用セメントミルクの施工は、(1)から(5)による。 (1) 浸透用セメントミルクの製造は、一般に移動式ミキサーによって行うが、工事規模が大きい場合には専用の移動式や固定式の混合プラントを用いることもある。 (2) 浸透用セメントミルクの施工は、一般に舗装体表面の温度が50℃程度以下にならなければならない。その場合、舗装体にごみ、泥、水などが残っていないことを確認する。浸透作業は、一般に振動ローラ等により行う。 (3) セメントミルクが舗装表面に残っていると、路面のすべり抵抗値を低下させることがあるので、舗装表面の骨材の凹凸が現れる程度にセメントミルクをゴムローラー等で除去する。特にすべり止め対策を必要とするときは、珪砂の使用及び強制セメントミルクのよりいっそうの除去等、材料や施工法等で対処するか、場合によっては施工後ショットブラスト等で表面を粗くすることが必要である。 (4) 交通開放までの一般的な養生期間は、下表に示すとおりである。 <table border="1"> <tr> <td>セメントミルクの種類</td> <td>養生期間</td> </tr> <tr> <td>普通タイプ</td> <td>約 3 日</td> </tr> <tr> <td>早強タイプ</td> <td>約 1 日</td> </tr> <tr> <td>超速硬タイプ</td> <td>約 3 時間</td> </tr> </table> (5) 浸透用セメントミルクを注入する前に交通開放すると、骨材の剥離や飛散、またはごみ、泥等による汚れが生じることがあるので、基本的には注入前に交通開放を行わないようにする。</p> <p>締固め度 標準仕様書22.4.2(2)による 舗装厚さの許容差 ※標準仕様書 22.4.2(3) による 舗装の平坦性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度</p> <p>弾性舗装 (歩行者用通路) の構成及び厚さ ※図示</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>種類</th> <th>厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>表層</td> <td>弾性舗装材</td> <td>15~20</td> </tr> <tr> <td>基層</td> <td>再生密粒度アスファルト混合物 (13)</td> <td>30</td> </tr> </table> <p>加熱アスファルト混合物は、アスファルト舗装による</p> <p>・コンクリート平板舗装 (G) (22.8.2、3) ※図示</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>寸法 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>目地材</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>※普通平板 (N) ・透水平板 (P) ・保水性平板 (M)</td> <td>※300角</td> <td>※60</td> <td>※砂 ・モルタル</td> <td>表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し</td> </tr> <tr> <td>敷砂層</td> <td>・砂 ・空練りモルタル</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>クッション材 ※砂 ・空練りモルタル 普通平板は (G) (再生材料を用いた舗装用ブロック)、 透水平板は (G) (透水性コンクリート) とする。</p> <p>仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。</p> <p>・インターロッキングブロック舗装 (G)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>部位</th> <th>形状寸法</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>曲げ強度 (N/mm²)</th> <th>横断面勾配</th> <th>目地材</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>※普通ブロック (N) ・透水性ブロック (P) ・保水性ブロック (M)</td> <td>車路、 ・図示 駐車場</td> <td>・図示</td> <td>80</td> <td>※5.0</td> <td>2%</td> <td>砂</td> <td>色彩、表面加工 ・標準品</td> </tr> <tr> <td>※普通ブロック (N) ・透水性ブロック (P) ・保水性ブロック (M)</td> <td>歩行者 ・図示 用通路</td> <td>・図示</td> <td>60</td> <td>※3.0</td> <td>1.5~2%</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>クッション材 ※砂 ・空練りモルタル 歩行者用通路に使用する普通ブロックは (G) (再生材料を用いた舗装用ブロック)、 透水性ブロックは (G) (透水性コンクリート) とする。</p> <p>仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内とする。</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>部位</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>種類</th> </tr> <tr> <td>敷砂層</td> <td>・車路、 ・図示 駐車場 ・歩行者用通路</td> <td>20 30</td> <td>砂</td> </tr> <tr> <td>フィルター層</td> <td></td> <td>100</td> <td>川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量6%以下)</td> </tr> </table> <p>・不織布 (ジオテキスタイル) 敷設位置 ※図示 ・敷砂層と路盤の間に敷設 ・フィルター層と路床の間に敷設 単位面積質量 ・60g/m²以上 厚さ (mm) ・0.5~1.0 引張強さ ・98N/5cm(10kgf/5cm)以上 透水係数 ・1.5×10⁻¹cm/sec以上 舗装の割付 (車路、駐車場) ・ヘリンボンボンド(45°) ・ヘリンボンボンド(90°) 仕上り面の平坦性 ※走行、歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内とする。</p> <p>・鋪石舗装</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>形状・寸法 (mm)</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>張り方</th> <th>基層</th> <th>基層の厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>・花こう岩</td> <td>・割石・図示</td> <td></td> <td>・うろこ張り</td> <td>・コンクリート版</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>・7x7x7t混合物</td> <td>※70</td> </tr> </table> <p>クッション材 ※砂 ・空練りモルタル 仕上り面の平坦性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、鋪石間の段差は3mm以内とする。</p>	セメントミルクの種類	養生期間	普通タイプ	約 3 日	早強タイプ	約 1 日	超速硬タイプ	約 3 時間	区分	種類	厚さ (mm)	表層	弾性舗装材	15~20	基層	再生密粒度アスファルト混合物 (13)	30	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	備考	※普通平板 (N) ・透水平板 (P) ・保水性平板 (M)	※300角	※60	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し	敷砂層	・砂 ・空練りモルタル				種類	部位	形状寸法	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm ²)	横断面勾配	目地材	備考	※普通ブロック (N) ・透水性ブロック (P) ・保水性ブロック (M)	車路、 ・図示 駐車場	・図示	80	※5.0	2%	砂	色彩、表面加工 ・標準品	※普通ブロック (N) ・透水性ブロック (P) ・保水性ブロック (M)	歩行者 ・図示 用通路	・図示	60	※3.0	1.5~2%			区分	部位	厚さ (mm)	種類	敷砂層	・車路、 ・図示 駐車場 ・歩行者用通路	20 30	砂	フィルター層		100	川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量6%以下)	種類	形状・寸法 (mm)	厚さ (mm)	張り方	基層	基層の厚さ (mm)	・花こう岩	・割石・図示		・うろこ張り	・コンクリート版	※70					・7x7x7t混合物	※70	<p>11 コンクリート工事</p> <p>① コンクリートの種類等 (6.2.1)</p> <p>種類 ※I類 (JIS A 5308 への適合を認証されたコンクリート) ・II類 (JIS A 5308 に適合したコンクリート)</p> <p>普通コンクリート (6.2.1~6.2.4)</p> <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 (N/mm²)</th> <th>気乾単位容積質量 (t/m³)</th> <th>スラブ</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○24</td> <td>2.3程度</td> <td>・15又は18</td> <td>○8</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>構造体強度補正值 (S) (6.3.2) ※標準仕様書 表6.3.2による 補正值 S = 3 (3月11日~11月20日) S = 6 (11月21日~3月10日)</p> <p>② セメント (6.3.1)</p> <p>種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 適用箇所 (※下記以外全て) 普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210 に示された規定の他、水和熱が7日目で 352J/g以下、かつ28日目で 402J/g以下のものとする。 ・高炉セメントB種 (G) 適用箇所 (・1FLより下部 (立上り部含む)) ・フライアッシュセメントB種 (G) 適用箇所 (・)</p> <p>③ 骨材 (6.3.1)</p> <p>アルカリシリカ反応性による区分 ※A ・B (コンクリート中のアルカリ総量が 3.0 kg/m³ 以下)</p> <p>④ 混和材料 (6.3.1)</p> <p>○混和剤の種類 混和剤の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(a)による ○混和材の種類 混和材の種類 ※標準仕様書6.3.1(4)(b)による</p> <p>⑤ 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継ぎ目地 (6.6.4)</p> <p>打継ぎの位置 梁及びスラブ ※スパンの中央又は端から1/4の付近 ・図示による () 柱及び壁 ※スラブ、壁梁又は基礎の上端 ・図示による ()</p> <p>目地の寸法 (6.6.4)(6.8.1)(9.7.3) ・標準仕様書 9.7.3(1)(7)による ※ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し部で処理する ・図示による ()</p> <p>ひび割れ誘発目地の位置、形状、寸法 (6.8.1) ・図示による ()</p> <p>⑥ 湿潤養生 (6.7.2)</p> <p>湿潤養生の期間 ・セメントの種類が普通エコセメントの場合 () 日</p> <p>⑦ コンクリートの仕上り (6.2.5)(6.8.2)</p> <p>合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ</p> <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・ A種 ※図示による ()</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ B種 ※図示による ()</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ C種 ※図示による ()</td> <td></td> </tr> </table> <p>コンクリートの仕上りの平坦さ</p> <table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・ a種 ※図示による ()</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ b種 ※図示による ()</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ c種 ※図示による ()</td> <td></td> </tr> </table> <p>⑧ 打増し厚さ (打放し仕上げ部) (6.8.1)</p> <p>打増し厚さ ・打放し仕上げの打増し厚さ(外部に面する部分に限る) ・20mm ・打放し仕上げの打増し厚さ(内部に面する部分に限る) ・10mm ・20mm ・外装タイル後張り面の打増し処理 ・20mm</p> <p>打増し範囲 ・図示による ()</p> <p>⑨ 型枠 (6.8.2)</p> <p>せき板の材料及び厚さ (6.8.2) ○合板 (※12mm) (G) コンクリート打設時の充填性の確認のため、型枠の一部に透明型枠等を使用する場合は、強度、変形等について、事前に監督員と協議する。 ・断熱材を兼用した型枠の使用 適用箇所 ・図示による () ・M C R工法用シートの使用 適用箇所 ・図示による () 打増し厚さ ・20mm 打増し範囲 ・図示による () スリーブの材種・規格等 ・図示による ()</p> <p>⑩ 貯留期間及び取外し (6.8.4) ※標準仕様書6.8.4による ・普通エコセメントの場合 (※図示による ())</p> <p>⑩ 軽量コンクリート (6.10.1、2)</p> <p>適用箇所 ・図示による () 種類 ・1種 ・2種 気乾単位容積質量 ・標準仕様書 表6.10.11による スラブ ※21cm</p> <p>⑪ 寒中コンクリート (6.11.1、2)</p> <p>適用期間 (月 日~ 月 日) 構造体強度補正值 (S) を積算温度を基に定める場合 ・図示による ()、S = ()</p> <p>⑫ 暑中コンクリート (6.12.2)</p> <p>適用期間 (7月15日~9月5日) 構造体強度補正值 (S) ※6N/mm² ・図示による ()、S = ()</p> <p>⑬ マスクコンクリート (6.13.1、2)</p> <p>適用箇所 ・図示による () セメントの種類 ・普通ポルトランドセメント ・中庸熟ポルトランドセメント ・低熟ポルトランドセメント ・高炉セメントB種 ・フライアッシュセメントB種 ・シリカセメント 混和材料の適用 ・あり (・標準仕様書6.13.2(2)(7)による ・標準仕様書6.13.2(4)による)</p> <p>スラブ ※15cm 構造体強度補正值 (S) ※標準仕様書表6.13.11による</p>	設計基準強度 (N/mm ²)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	スラブ	適用箇所	○24	2.3程度	・15又は18	○8	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	種 別	適用箇所	・ A種 ※図示による ()		○ B種 ※図示による ()		・ C種 ※図示による ()		種 別	適用箇所	・ a種 ※図示による ()		・ b種 ※図示による ()		・ c種 ※図示による ()		<p>14 無筋コンクリート (6.14.1)</p> <p>コンクリートの種類 (6.14.1) ※普通コンクリート セメントの種類 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種 ・高炉セメントB種 (G) ・フライアッシュセメントB種 (G) 設計基準強度 ※18 (N/mm²) スラブ ※15cm又は18cm 適用箇所 ※標準仕様書6.14.1(4)による箇所 ・図示による ()</p> <p>15 コンクリートの単位水量測定</p> <p>実施要領 (1)単位水量の測定は、150m³に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2)単位水量の上限値は、標準仕様書6.3.2(4)(c)による。 (3)単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1)測定した単位水量が、計画調査書の設計値(以下、「設計値」という。)±15kg/m³の範囲にある場合はそのまま施工する。 2)測定した単位水量が、設計値±15kg/m³の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値±15kg/m³以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3)設計値±20kg/m³を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値±20kg/m³以内であることを確認する。更に、設計値±15kg以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 4)3)の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。 (4)単位水量管理についての記録を書面(計画調査書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等)と写真により提出する。 (5)単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法(電子レンジ法)、ITメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。</p>	<p>⑬ その他等</p> <p>① 解体工事全般 (6.14.1)</p> <p>○基礎解体にあたっては、解体後の新築等次工事の支持地盤を荒らさないよう慎重に施工すること。 ○大型レッカーを使用する場合は、必要な地耐力が得られるよう必要な養生を行うこと。 ○工事に破損した存置構造物、境界標等は必ず現状復旧すること。 ○仮設工事等に伴って発生した穴等は工事完了後、必ず復旧すること。 ○重機や大型の工事車両の出入の際は必要に応じて交通誘導員等を配置し、安全に配慮すること。 ○作業員の新規入場教育は徹底し、名簿は常備すること。 ○適宜仮囲いや足場周囲に問題が生じていないかの巡回確認を行うこと。 また、工事状況により、安全・保安仮設材を設置すること。 ○その他特記仕様書、図示記載事項、現場説明書を良く熟知し施工にあたること。 ○近隣に配慮して、走行速度、歩行者保護の安全走行、騒音防止、不正軽油の監視、排ガス適合低振動低騒音車両などに注意し場内でのアイドリングストップを守ること。また資材の搬入、搬出時の車両に対しても注意を徹底させること。 ○仮設トイレの設置場所は充分配慮した位置とし、臭気や目隠しに対する対策を行うこと。 ○軽微な変更は両者の協議により行い、請負代金額の変更は行わない。 ○施工にあたり設計図書により施工するも、設計図書に明示していない事項で、工事の性質上当然必要と思われるものは、監督員の指示に従い請負代金額の範囲内で施工する。 ○現場監督用として、製本図(設計図書)A3二つ折り製本を4部提出する。 ○各工事の工程検査は、その工事工程ごとに行い監督員の検査を受けた後、次の工程に経ること。 ○工事に必要な官公署、その他への手続きは、受注者の負担にて遅滞なく行うこと。 ○重機については低騒音型重機を使用し、騒音対策を行うこと。 ○建物内にある残置物・備品等に関しては、特記なき限り全て処分とする。</p>	<p>株式会社 サナクト</p> <p>一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (4) 第 10060 号 設計者 一級建築士 第 267371 号 菅野 孝</p> <p>熊谷市建設部 管轄課</p> <p>熊谷市大幡公民館解体等工事</p> <p>特記仕様書 3</p> <p>図面番号 H A - 0 3</p> <p>図面名 概 略 図</p> <p>担当者 菅野 孝</p>
	セメントミルクの種類	養生期間																																																																																																																																	
	普通タイプ	約 3 日																																																																																																																																	
	早強タイプ	約 1 日																																																																																																																																	
	超速硬タイプ	約 3 時間																																																																																																																																	
	区分	種類	厚さ (mm)																																																																																																																																
	表層	弾性舗装材	15~20																																																																																																																																
	基層	再生密粒度アスファルト混合物 (13)	30																																																																																																																																
	種類	寸法 (mm)	厚さ (mm)	目地材	備考																																																																																																																														
	※普通平板 (N) ・透水平板 (P) ・保水性平板 (M)	※300角	※60	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し																																																																																																																														
敷砂層	・砂 ・空練りモルタル																																																																																																																																		
種類	部位	形状寸法	厚さ (mm)	曲げ強度 (N/mm ²)	横断面勾配	目地材	備考																																																																																																																												
※普通ブロック (N) ・透水性ブロック (P) ・保水性ブロック (M)	車路、 ・図示 駐車場	・図示	80	※5.0	2%	砂	色彩、表面加工 ・標準品																																																																																																																												
※普通ブロック (N) ・透水性ブロック (P) ・保水性ブロック (M)	歩行者 ・図示 用通路	・図示	60	※3.0	1.5~2%																																																																																																																														
区分	部位	厚さ (mm)	種類																																																																																																																																
敷砂層	・車路、 ・図示 駐車場 ・歩行者用通路	20 30	砂																																																																																																																																
フィルター層		100	川砂、海砂又は良質な山砂 (75µmふるい通過量6%以下)																																																																																																																																
種類	形状・寸法 (mm)	厚さ (mm)	張り方	基層	基層の厚さ (mm)																																																																																																																														
・花こう岩	・割石・図示		・うろこ張り	・コンクリート版	※70																																																																																																																														
				・7x7x7t混合物	※70																																																																																																																														
設計基準強度 (N/mm ²)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	スラブ	適用箇所																																																																																																																																
○24	2.3程度	・15又は18	○8																																																																																																																																
・	・	・	・																																																																																																																																
・	・	・	・																																																																																																																																
・	・	・	・																																																																																																																																
・	・	・	・																																																																																																																																
種 別	適用箇所																																																																																																																																		
・ A種 ※図示による ()																																																																																																																																			
○ B種 ※図示による ()																																																																																																																																			
・ C種 ※図示による ()																																																																																																																																			
種 別	適用箇所																																																																																																																																		
・ a種 ※図示による ()																																																																																																																																			
・ b種 ※図示による ()																																																																																																																																			
・ c種 ※図示による ()																																																																																																																																			
10 砂利敷き	<p>種類 ・A種 (施工範囲:・図示 通路) ○B種 (施工範囲:○図示 建物周囲他)</p> <p>(22.9.2)(表22.9.1)</p>	<p>⑩ 砂利敷き</p>																																																																																																																																	
11 路面標示用塗料	<p>路面標示用塗料は JIS K 5665 による。</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>施工</th> <th>適用</th> <th>色</th> <th>幅 (mm)</th> <th>塗布厚さ (mm)</th> </tr> <tr> <td>・1種 (G)</td> <td>常温</td> <td>液状</td> <td>○白</td> <td>○150</td> <td>・1.0</td> </tr> <tr> <td>・2種 (G)</td> <td>加熱</td> <td></td> <td>○青</td> <td>・100</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※3種 1号</td> <td>溶解</td> <td>粉体状</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(G) 低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料</p>	種類	施工	適用	色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)	・1種 (G)	常温	液状	○白	○150	・1.0	・2種 (G)	加熱		○青	・100		※3種 1号	溶解	粉体状				<p>⑪ 路面標示用塗料</p>																																																																																																									
種類	施工	適用	色	幅 (mm)	塗布厚さ (mm)																																																																																																																														
・1種 (G)	常温	液状	○白	○150	・1.0																																																																																																																														
・2種 (G)	加熱		○青	・100																																																																																																																															
※3種 1号	溶解	粉体状																																																																																																																																	



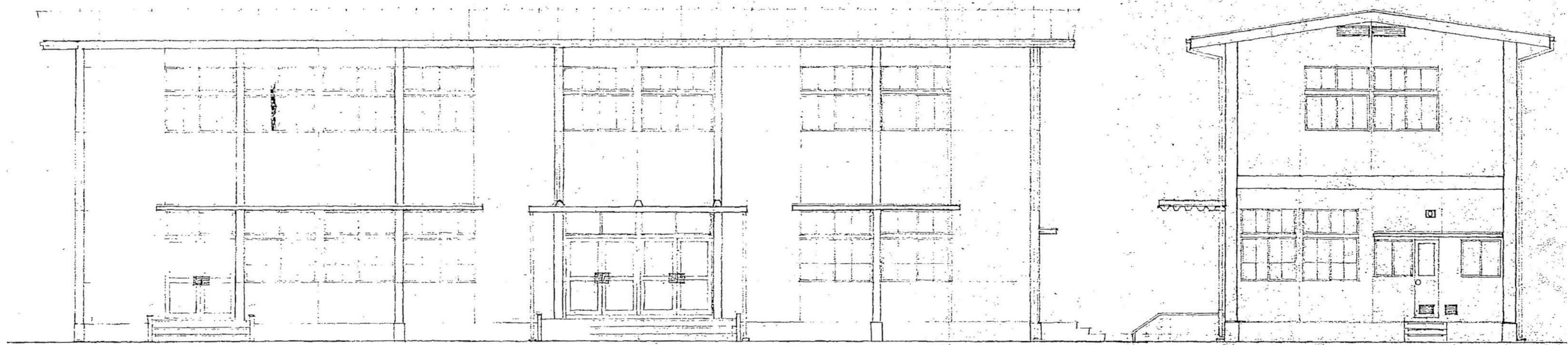
解体・改修リスト					案内図 S=1/2500												
記号	名称	工事内容	数量	単位	備考	記号	名称	工事内容	数量	単位	備考	記号	名称	工事内容	数量	単位	備考
①	熊谷市大幡公民館	【撤去】	1	式	-	⑩	掲示板 1	【撤去】	1	ヶ所	看板(屋根・ガラス付き): 1200x900xD110 支柱: 100口鋼材 H2300 (埋込部H600) 屋根: アルミ押出型材 ガラス: 強化ガラスt5	⑳	舗装: 土間コンクリート	【撤去】	1	式	表層: 土間コンクリート t100 路盤材: 砕石 t100
②	浄化槽	【撤去】	1	式	浄化槽詳細図 参照。	⑪	掲示板 2	【残置】	1	ヶ所	看板(屋根・ガラス付き): 1800x1200xD110 支柱: 100口鋼材 H2500 (埋込部H600) 屋根: アルミ押出型材 ガラス: 強化ガラスt5	㉑	舗装: 砕石	【撤去】	1	式	表層: 砕石 t50
③	駐輪場	【残置】	1	ヶ所	屋根: 波板垂鉛メッキ鋼板 5300x2500 母屋: C-50x100鋼材 L2000x2ヶ所 L5200x4ヶ所 梁: 50x100鋼材 L2200 3ヶ所 支柱: 50口鋼材 H2500 3ヶ所 50x100鋼材 H2300 3ヶ所 コンクリート基礎: 300口xH400 鉄筋D10@200(タテヨコ) 砕石t50 床: 土間コンクリート	⑫	看板 1	【撤去】	1	ヶ所	看板: アルミ複合版t3 300x1000 支柱: 30口鋼材 H1800 (埋込部H300)	㉒	舗装: 砕石	【撤去】	1	式	表層: アスファルト混合物 t 50 中間: プライムコートPK-3 路盤材: 砕石 t150
④	C B 壁 (駐輪場)	【残置】	1	ヶ所	CB-400x200xH200 長手: L14列xH7段 短手: L4列xH7段 2ヶ所 コンクリート布基礎: I 型 120xH450 D10@200 砕石t50	⑬	看板 2	【撤去】	1	ヶ所	看板: アルミ複合版t3 500x400 支柱: 30口鋼材 H1800 (埋込部H300)	㉓	舗装: アスファルト	【新設】	1	式	
⑤	物置 1	【残置】	1	ヶ所	スチール製 5450x3100xH2200	⑭	看板 3	【撤去】	2	ヶ所	看板: アルミ複合版t3 800x600 支柱: 30口鋼材 H1800 (埋込部H300)	㉔	舗装: アスファルト	【残置】	1	式	
⑥	物置 2	【残置】	1	ヶ所	スチール製 3700x2700xH2200	⑮	看板 4	【残置】	1	ヶ所	看板: アルミ複合版t3 500x400 支柱: 30口鋼材 H1800 (埋込部H300)	㉕	外洗い場	【撤去】	1	式	
⑦	物置 3	【残置】	1	ヶ所	スチール製 2900x2650xH2000	⑯	樹木 1	【撤去】	2	ヶ所	低木 株立ち 枝張り1mφ 高さ1m	㉖	電柱 (E)	【残置】	1	式	
⑧	物置 4	【残置】	1	ヶ所	スチール製 3000x1600xH2000	㉑	樹木 2	【撤去】	6	ヶ所	低木 株立ち 枝張り1.5mφ 高さ1.5m	㉗	電柱 (E)	【撤去】	1	式	
⑨	物置 5	【残置】	1	ヶ所	スチール製 2200x1600xH2000	㉒	樹木 3	【撤去】	1	ヶ所	高木 単幹 幹回り0.2m 枝張り2mφ 高さ4m	㉘	電灯	【撤去】	1	式	
						㉓	樹木 4	【撤去】	5	ヶ所	高木 単幹 幹回り0.5m 枝張り3mφ 高さ4m						

※1: 敷地内の建築物、電気設備、機械設備、工作物、舗装は、特記なき限り【撤去】とする。
 ※2: ㉑、㉒及び建物撤去後の舗装は特記なき限り、地均しの上 砕石 (パーজন材) 【新設】とする。
 ※3: 給水管撤去に伴い、既存アスファルト部分はカッター入れのうえ、アスファルト舗装 (表層・路盤) 撤去、復旧とする。

				設 備 工 事 仕 様 概 要	
	3. 衛生設備	器具 別記一覧表による。 浄化槽 浄化槽は基準型とし設計人員は2名として設けること。 槽の排水は0.4%の排水ポンプを使用する。これに必要は動力電気設備一式		1. 衛生器具電	洗面器 2 L-230D 止水栓1個 附屋銀一式 寸法300×400 化粧用53, 水栓入。 大便器 3 C-115 紙巻器1.2階ハ19シワP470Z 附屋銀一式 小便器 6 U-29 附屋銀一式 ハ19シワP470Z
	4. 配管設備	指示の設計図は使用する電力器具の種類、容量、配置等について示してあるので、これに基づき、関係法規にしたがい設計せよとする。 施工前設計等の承認を得た後工事と着工すること。 引込に前担金を要する場合は請負人の負担とする。		2. 配管工事取組	配管施工前他の設備管類との間隔を検討の上位置の決定を行う。 建物内配管は所定の釣金具、支持金具等を用い、スラックを設ける場合は要所に支台を用い浮動を防ぐ。管持合前管内の掃除をして、狭くつかぬ地を除去すること。
	5. ガス設備	使用ガスはプロパンガスを使用するも別途設計図によつて施工する。 ポンプ 量場 別記設計図による。 ガス配管 別記設計図に示す。既設用、管理用、アネキ管として示す。他にガスカラン(公民館用240)1ヶ所、管理用(240)1ヶ所(170)1ヶ所を取付ける。 ポンプ ポンプは別記とする。		3. 水圧試験	施工完了後最終管末に至るまで満水して、1時間以上加压して試験を行う。
	6. 系統配管	別記設計図指示により、管部用配管を行う。直管は別記		4. 防露工事	埋設給水管 地中深さ 40cm以上埋設のこと。 屋内 防露巻の上ビニールテープ巻又は綿テープ巻のEP仕上 屋内排水管 同 工 但しV.Pは除く。
その他事項	土壌改良	本工程は土壌改良剤を撒布し改良する		5. 土中埋設管	土管、ヒューム管類 持ち手はモルタル模めとし、勾配は現場係員と協議の上決定する。
	コンクリート強度	210kg/cm ² とする 既設コンクリート 120kg/cm ²		6. 排水枘	雑排水枘は既製品にて可、蓋はコンクリート製 鉄筋入とする。 汚水枘は現場用3ヶ所以上製とし鉄筋入(既製品可)、蓋は防臭型鋳鉄製とする。
				7. 器具のメーカー指定	衛生器具 東洋陶器 伊奈製陶 並記による 汚水ポンプ 極東、瀬川、花泉 照明器具 松下電工、東芝、日立、リード、三菱

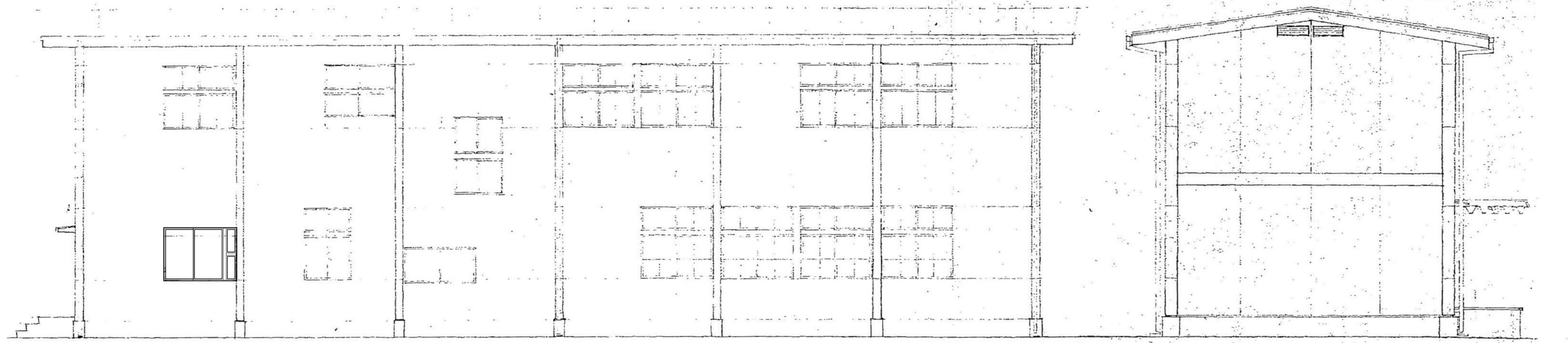


特記	株式会社 サナクト	熊谷市建設部営繕課	図面番号	HA-07
	一級建築士事務所 埼玉県知事登録(4)第10060号 設計者 一級建築士 第267371号 菅野 孝		縮尺	1:50 (A1) 1:100 (A3)
		担当者	平面図	



⑤ 立面図 S=1/50

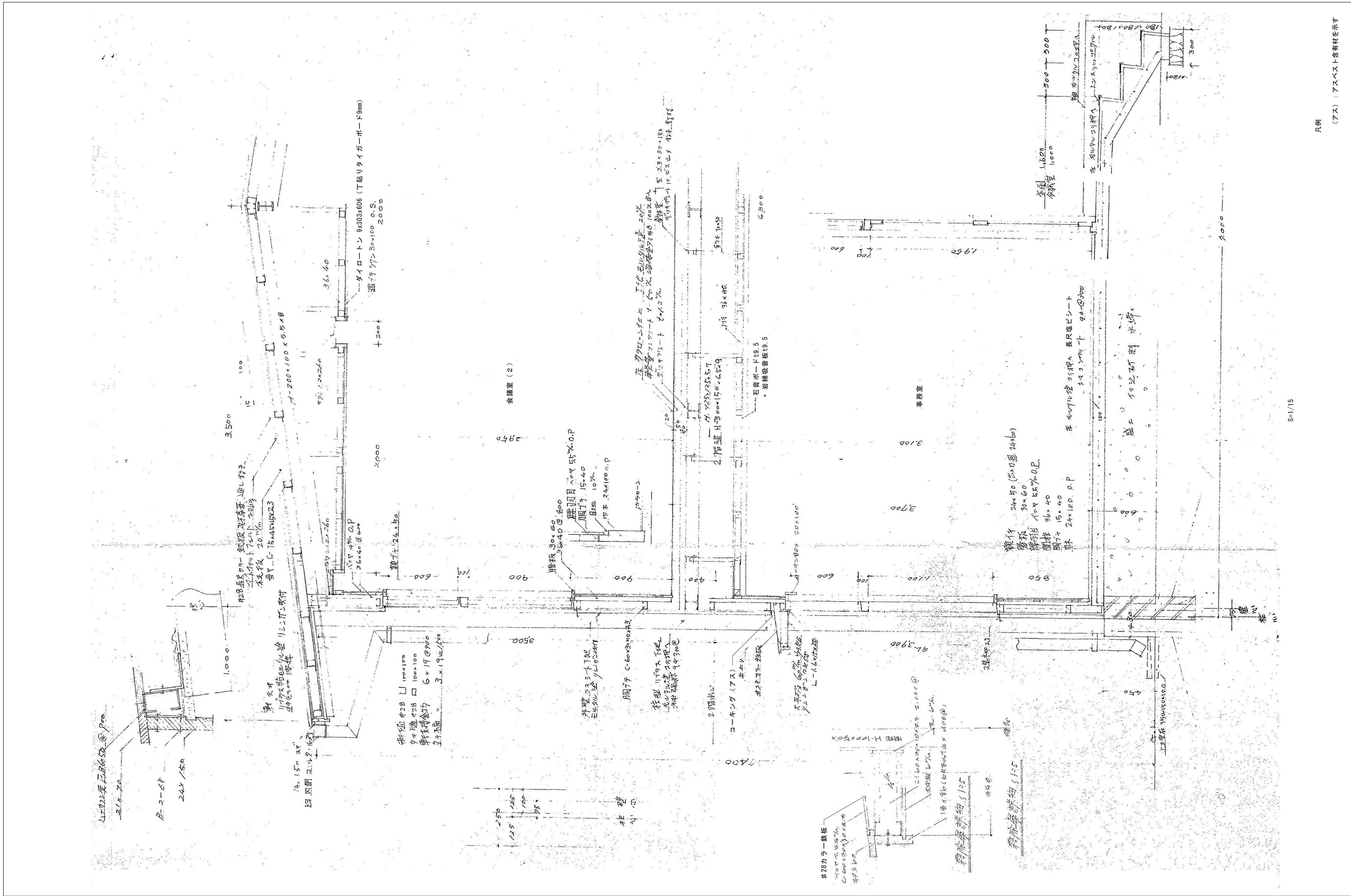
⑥ 立面図 S=1/50



⑦ 立面図 S=1/50

⑧ 立面図 S=1/50

特 記	株式会社 サナクト		熊谷市建設部営繕課		図 名	熊谷市大幡公民館解体等工事	図 番 号	HA-08
	一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (4) 第 10060 号 設計者 一級建築士 第 267371 号 菅野 孝		担 当		縮 尺	立面図	縮 尺	1:50 (A1) 1:100 (A3)

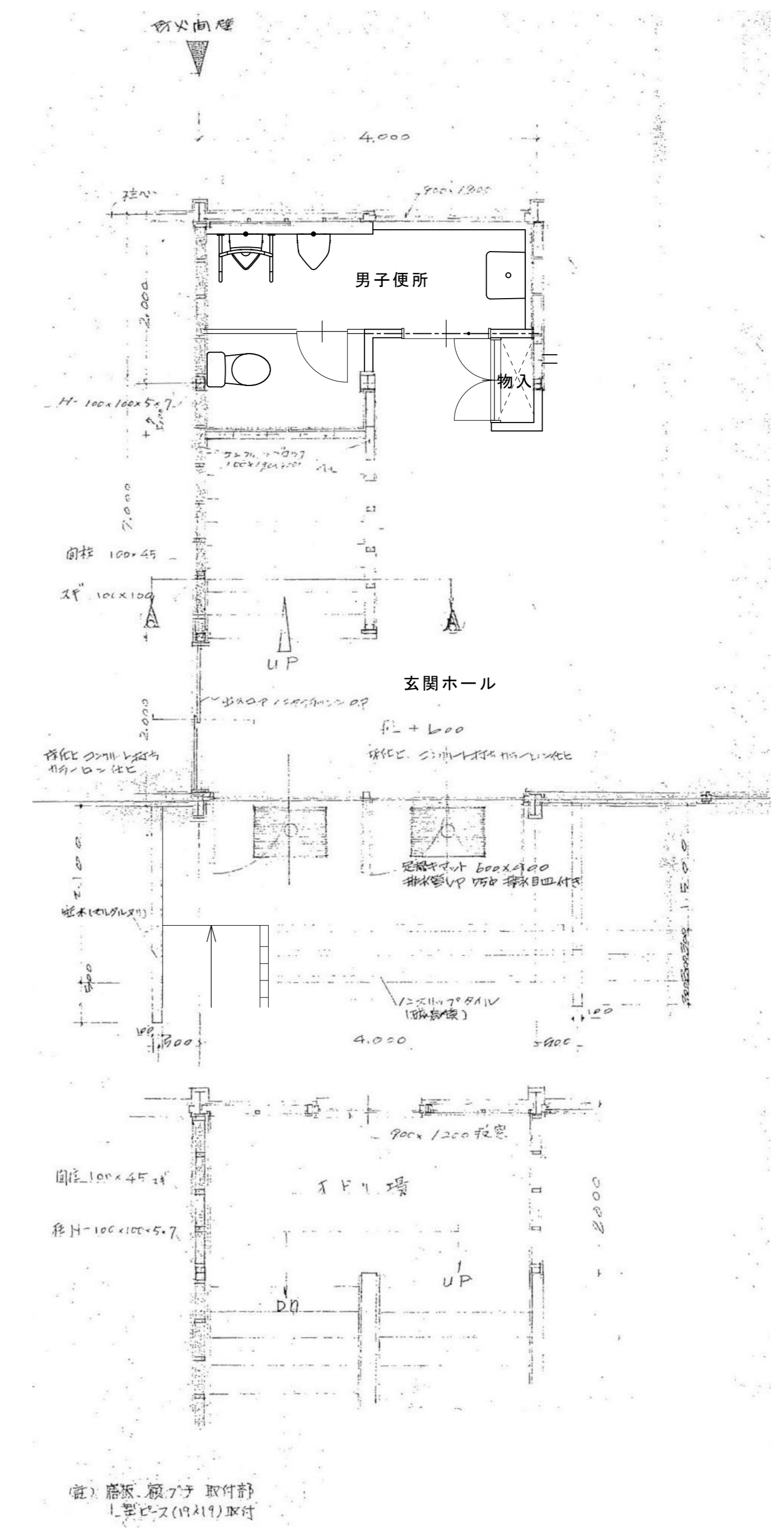
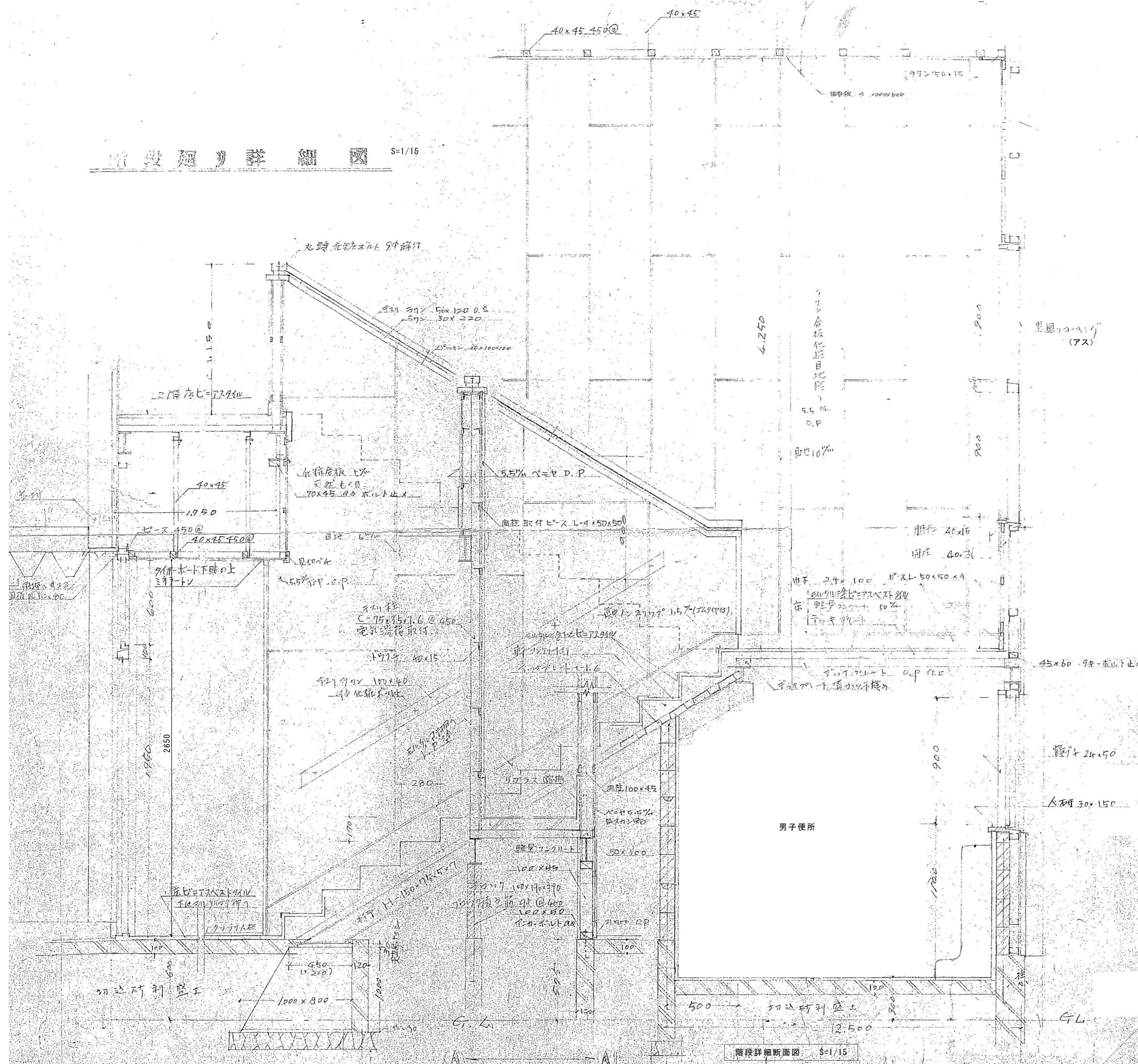


S=1/15

凡例

(アス) : アスベスト含有材を示す

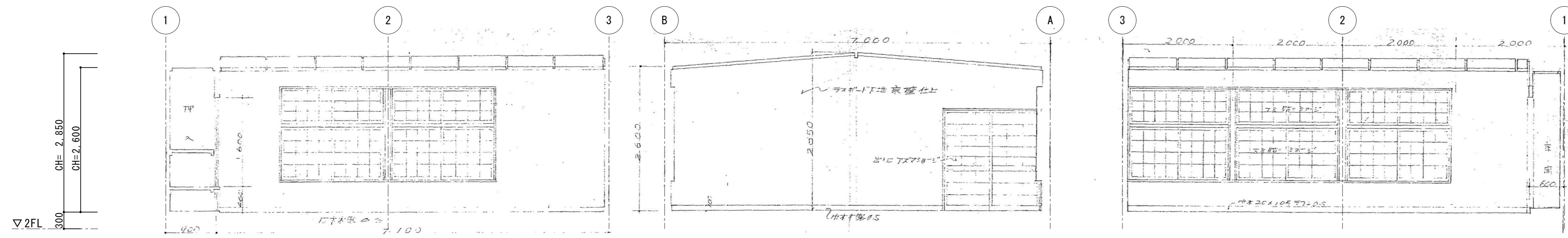
特記	株式会社 サナクト	熊谷市建設部管轄課	熊谷市大幡公民館解体等工事	図面番号	HA-09
	一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (4) 第10060号 設計者 一級建築士 第267371号 菅野 孝		矩計図	縮尺	1:15 (A1) 1:30 (A3)



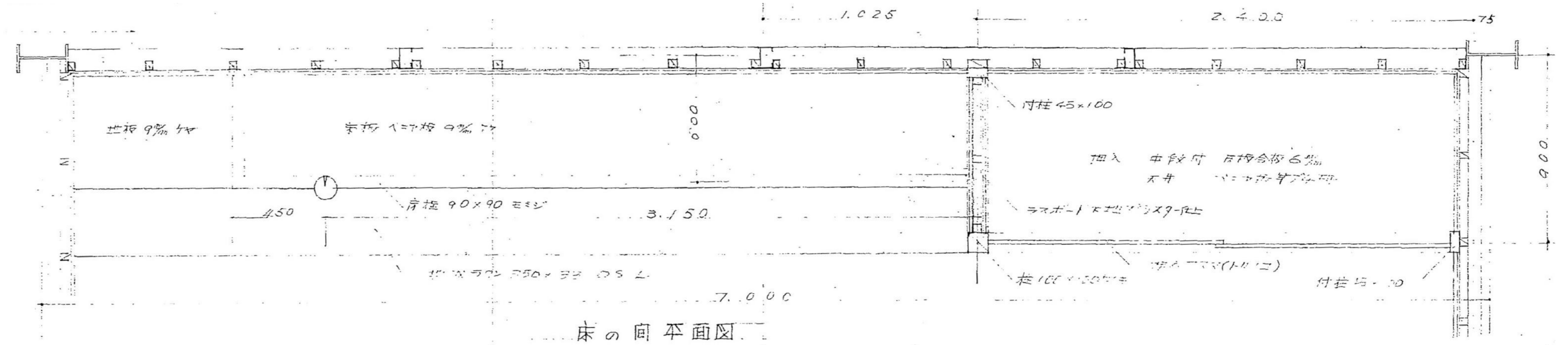
階段詳細平面図 S=1/50

凡例
(アス) : アスベスト含有材を示す

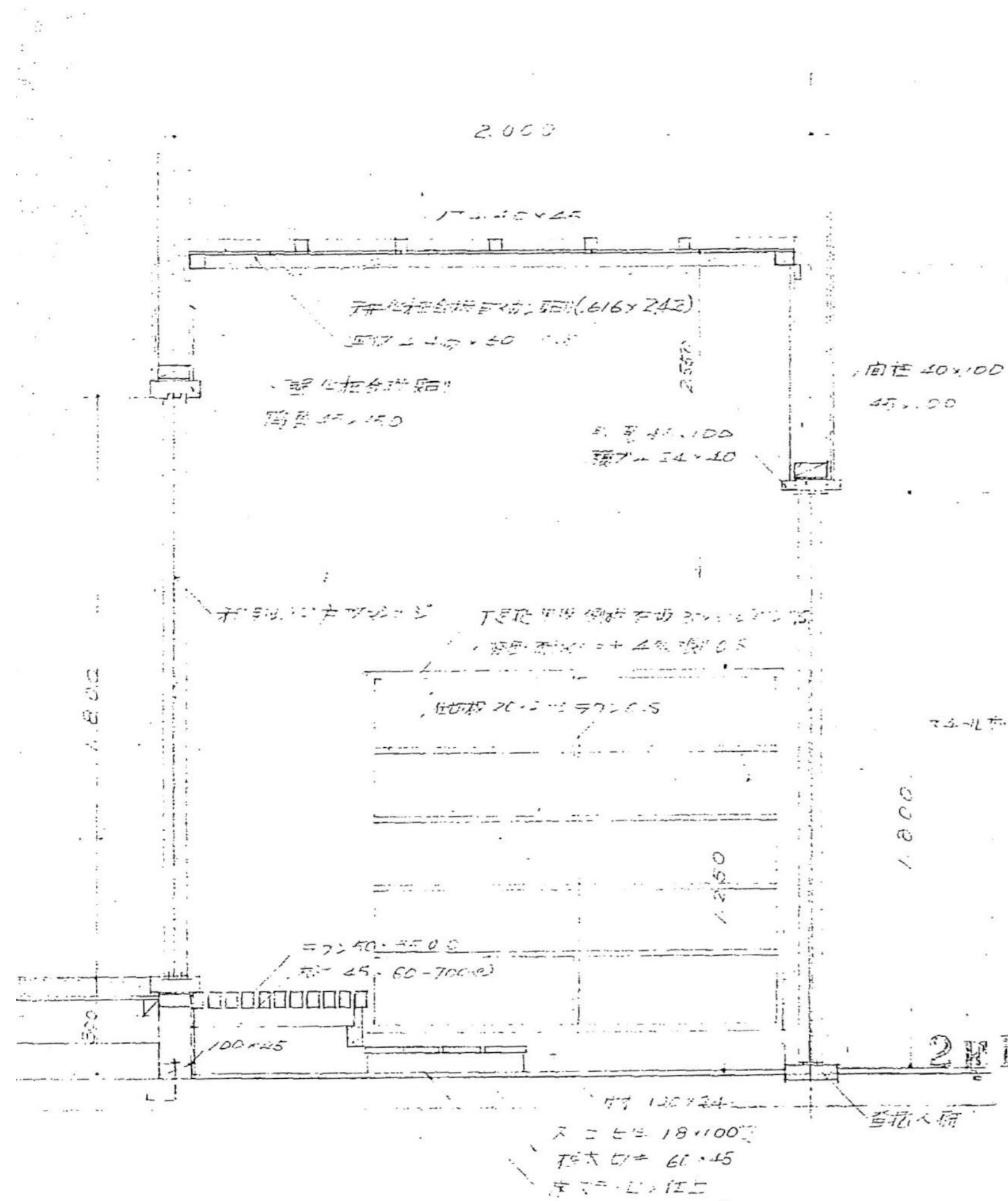
特記	株式会社 サナクト	熊谷市建設部 管轄課	熊谷市大幡公民館解体等工事	図面番号 HA-10
	一級建築士事務所 埼玉県知事登録(4)第10060号 設計者 一級建築士 第267371号 菅野 孝		階段詳細図	縮尺 1:15, 50 (A1) 1:30, 100 (A3)



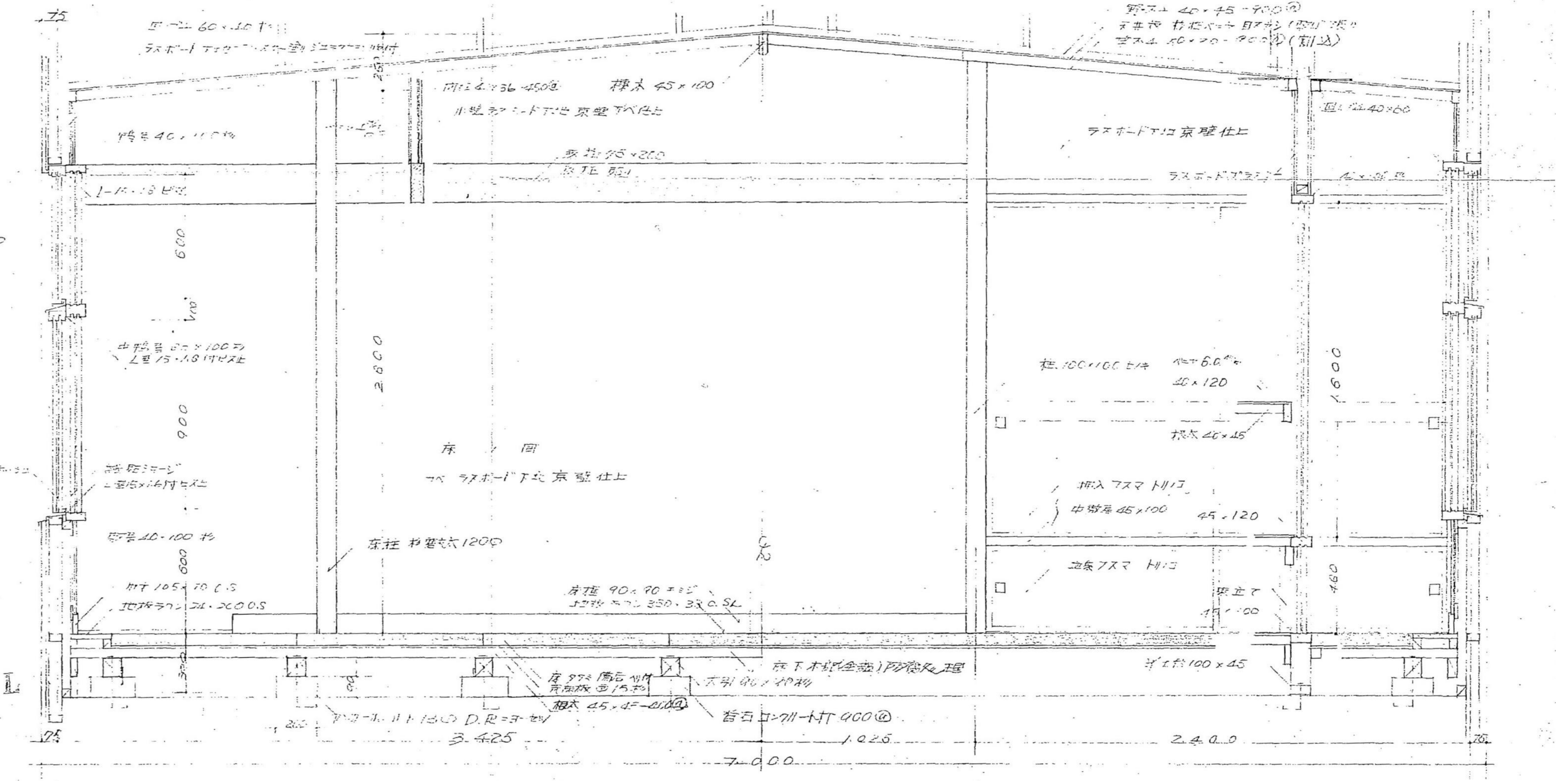
和室廻り展開図 S=1/50



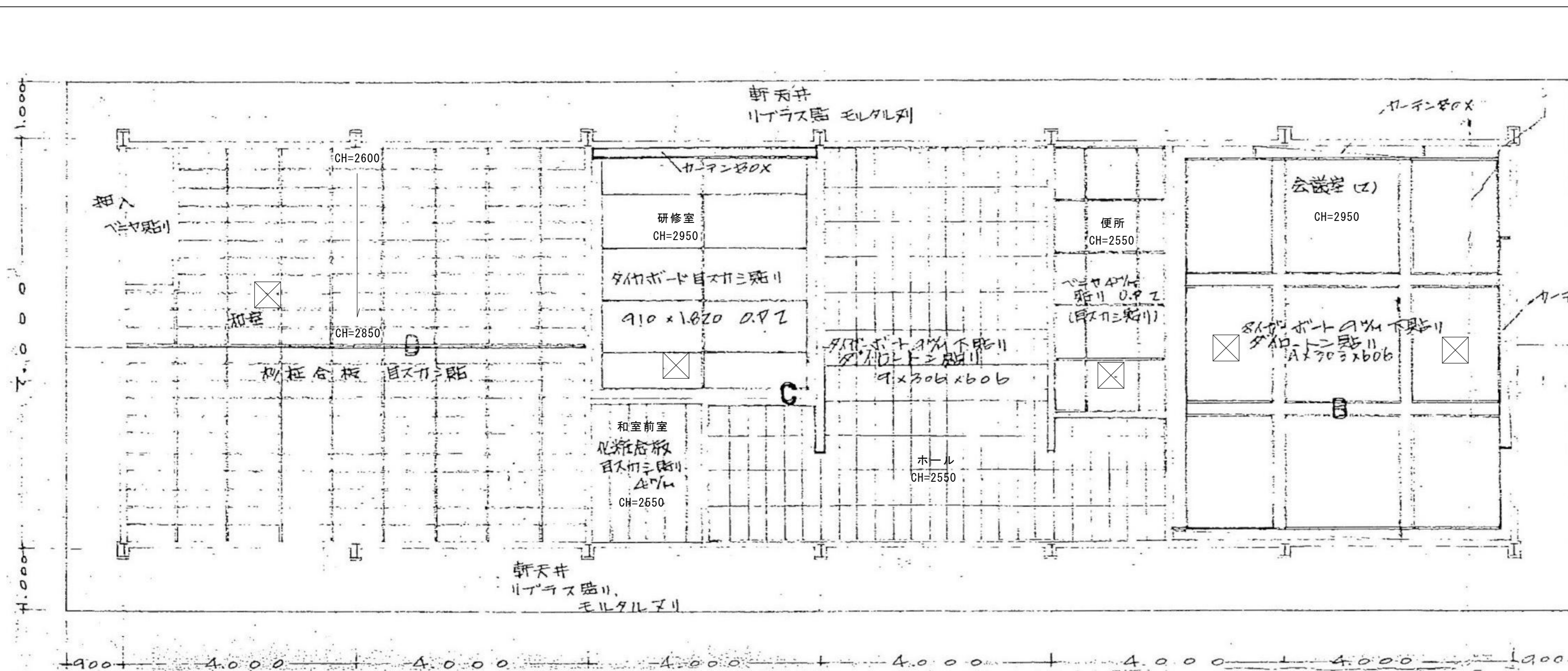
和室の床間平面図



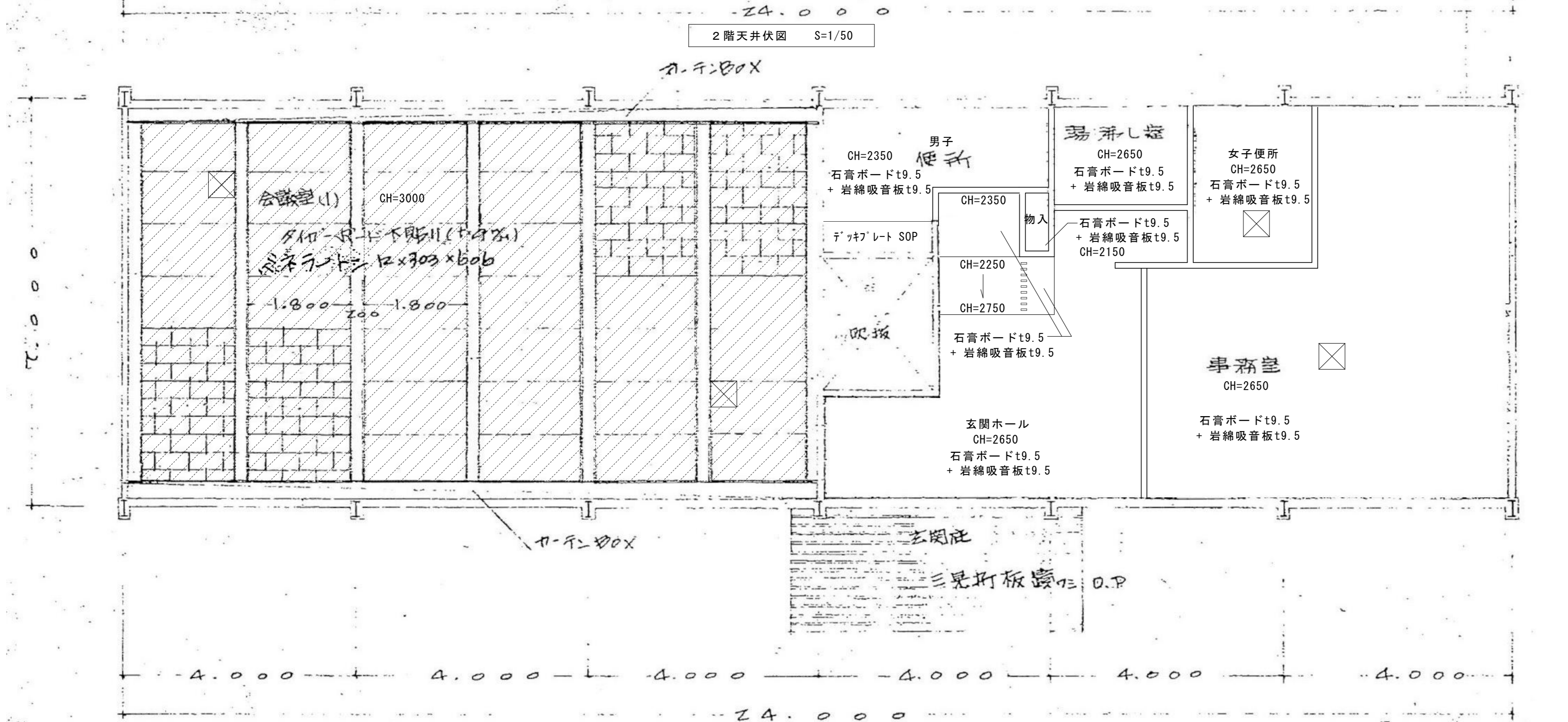
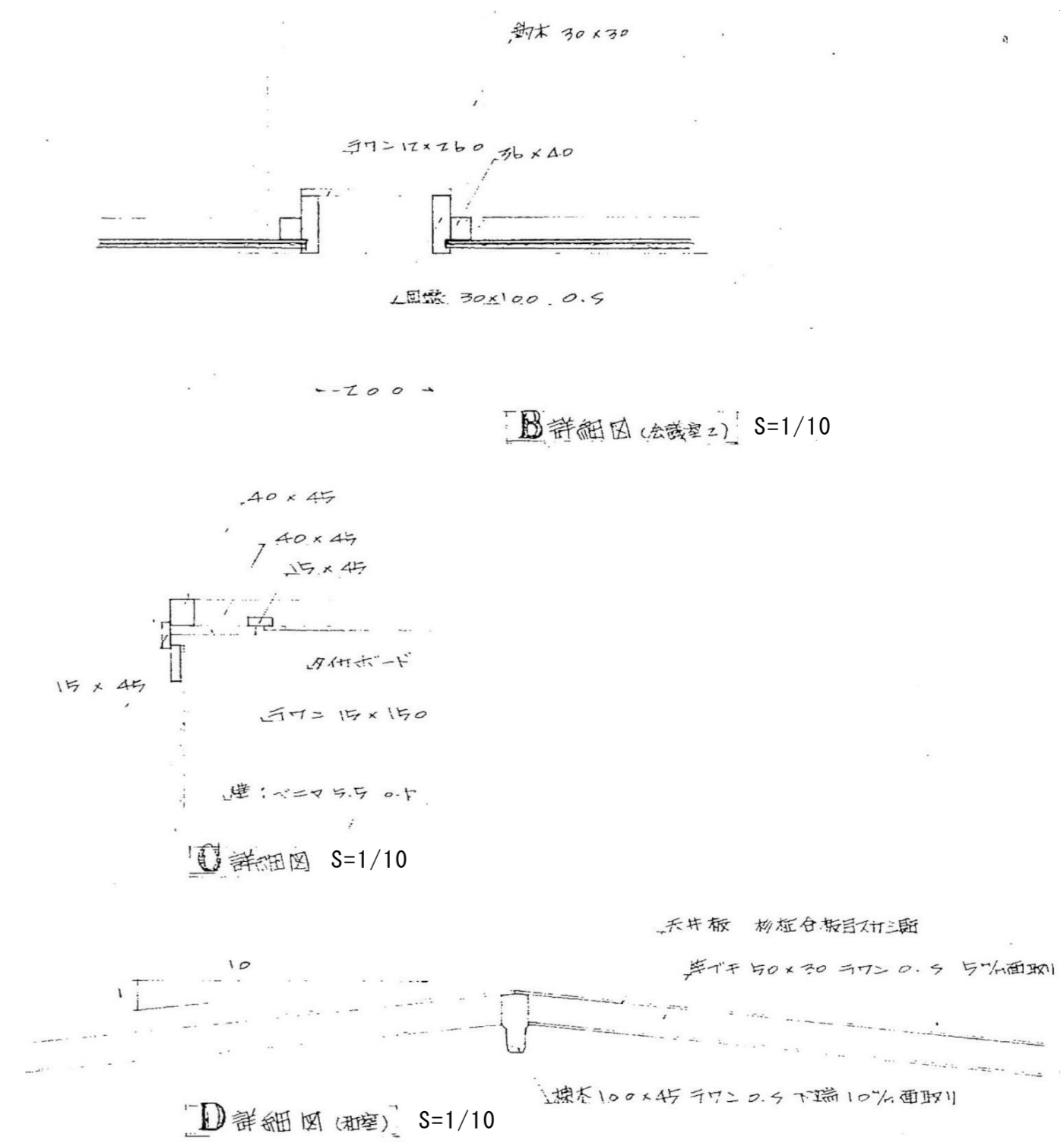
和室前室(下足室)詳細 S=1/15



和室断面詳細 S=1/15



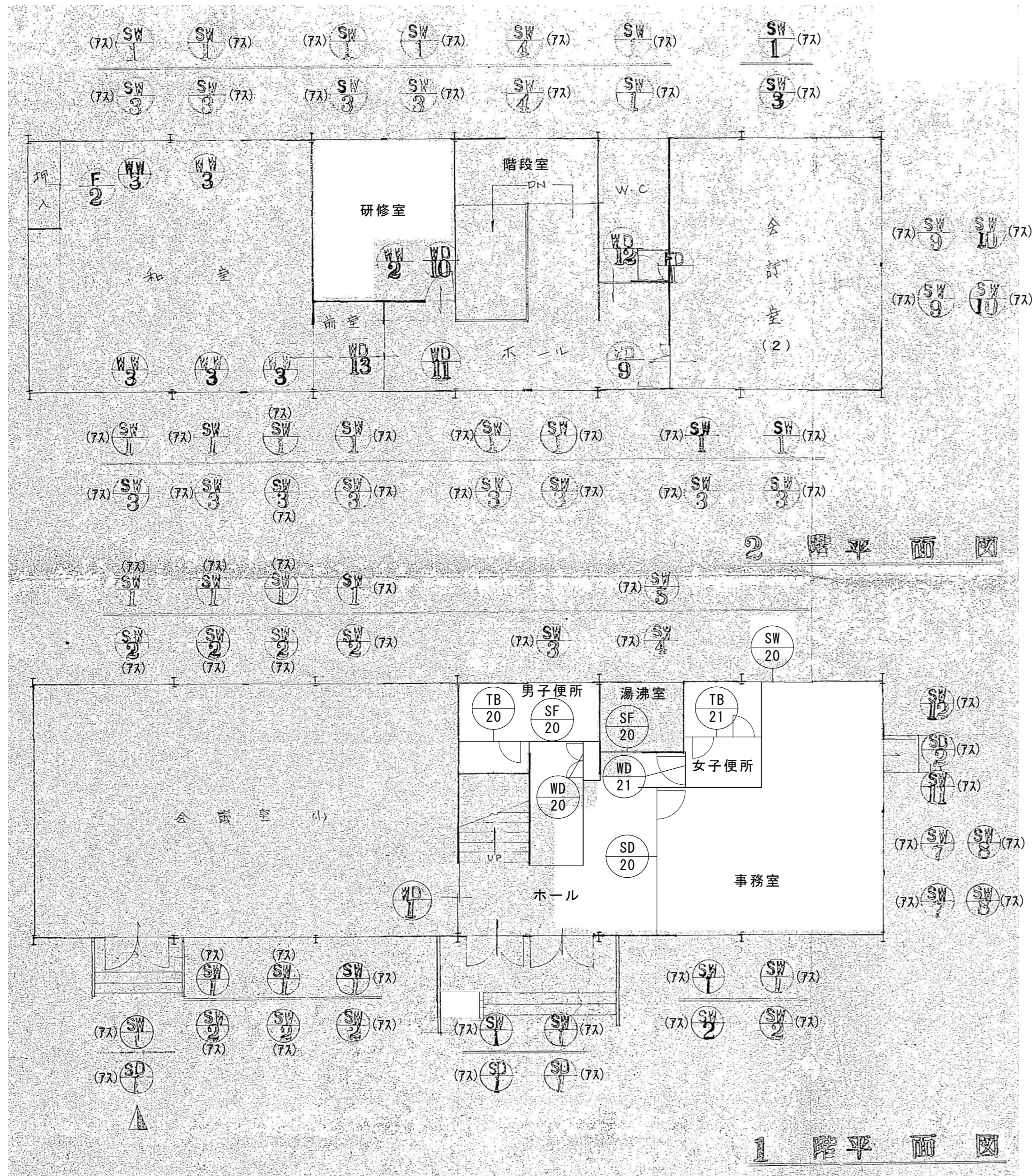
2階天井伏図 S=1/50



1階天井伏図 S=1/50

- 凡例
- 点検口 450口
 - アスベスト含有範囲を示す

特記	株式会社 サナクト	熊谷市建設部営繕課	熊谷市大幡公民館解体等工事	図面番号 HA-12
	一級建築士事務所 埼玉県知事登録(4)第10060号 設計者 一級建築士 第267371号 菅野 孝	担当	天井伏図	縮尺 1:50.10 (A1) 1:100.20 (A3)



建具キープラン S=1/100

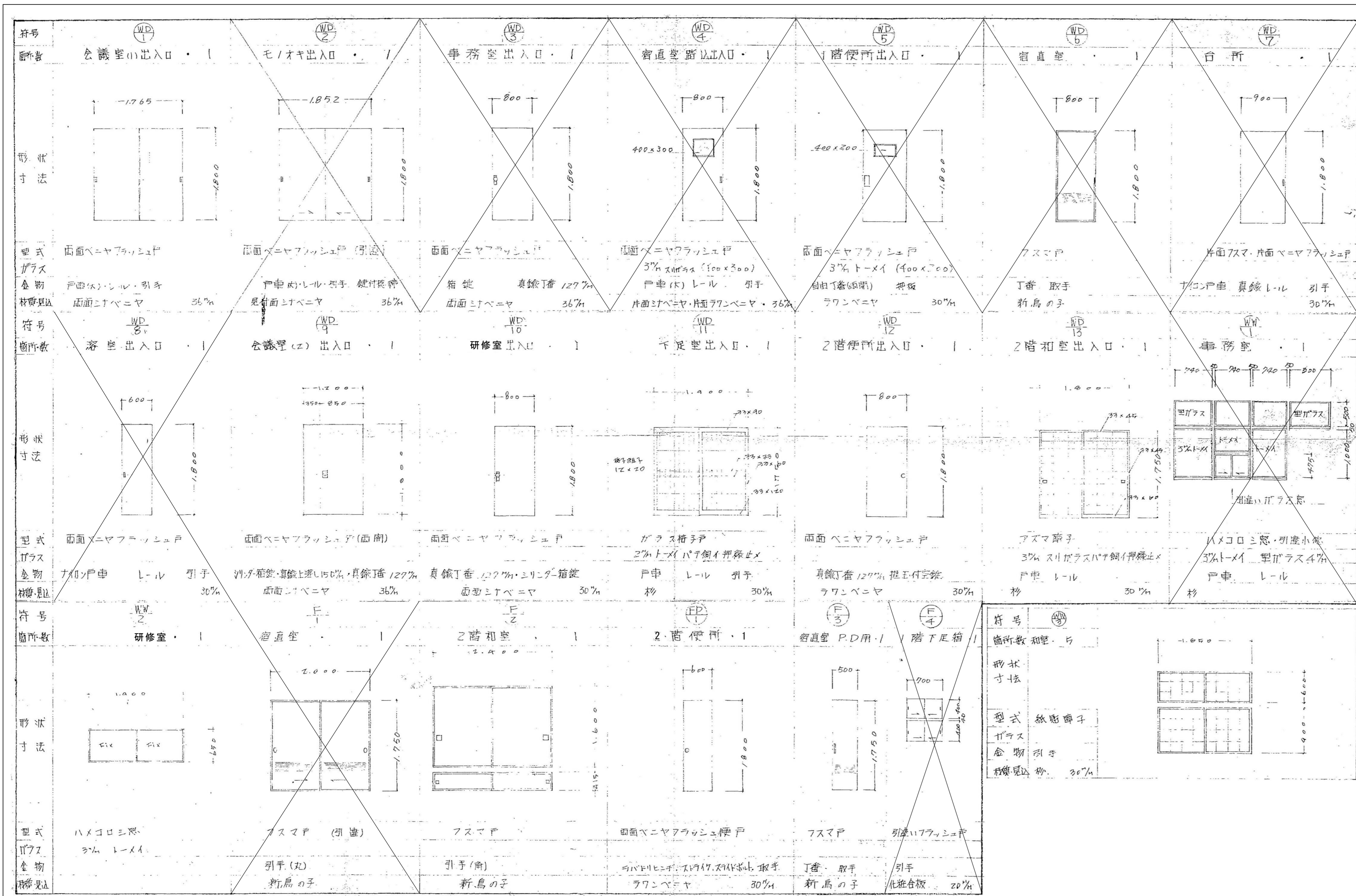
鋼製建具表

符号	H x W	数量	取付箇所	備考
SD-1 (7A)	1950 x 1800 7/8	3	会議室の出入口・玄関	オーダーメイド 20x15mm シーリング 止滑り金物・シリコン 充填
SD-2 (7A)	1800 x 600 7/8	1	台所出入口	オーダーメイド 真鍮1番・シリコン 充填
SW-1 (7A)	600 x 1800 7/8	27	会議室(1)・事務室・廊下・階段室	レジャーメイド
SW-2 (7A)	1100 x 1800 7/8	9	会議室(1)・事務室	
SW-3 (7A)	900 x 1800 7/8	14	階段室・会議室(2)・廊下・2階下階段室	
SW-4 (7A)	900 x 1200 7/8	3	湯沸室・階段室	
SW-5 (7A)	600 x 1200 7/8	1	湯沸室	
SW-6	1300 x 1800 7/8	1	宿直室	
SW-7 (7A)	600 x 1400 7/8	2	事務室	
SW-8 (7A)	1100 x 1400 7/8	2	事務室	
SW-9 (7A)	600 x 1600 7/8	2	会議室(2)	
SW-10 (7A)	900 x 1600 7/8	2	会議室(2)	
SD-11 (7A)	900 x 930 7/8	1	台所	オーダーメイド
SW-12 (7A)	900 x 1000 7/8	1	浴室	オーダーメイド

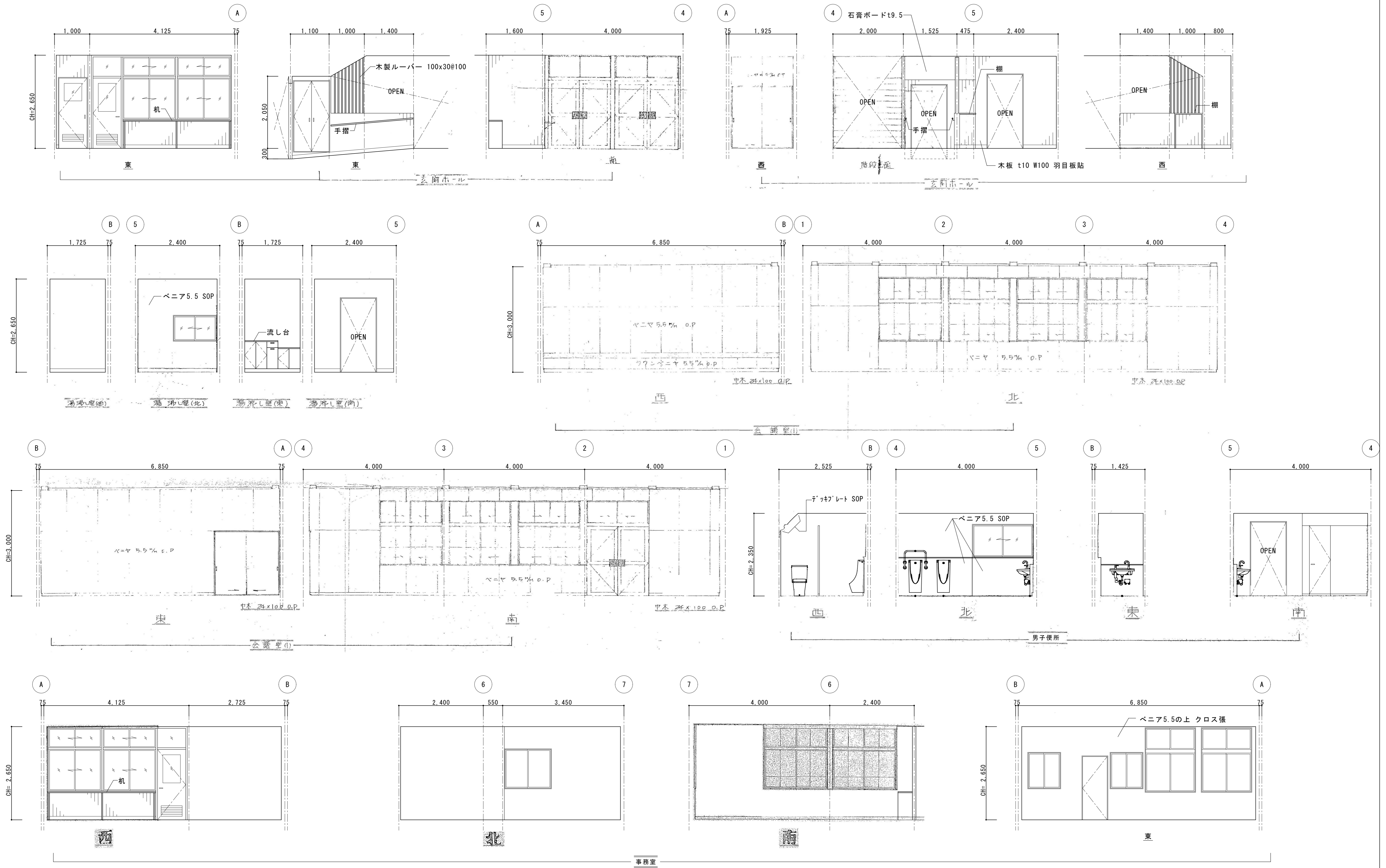
レジャーメイド製品メーカー 三機 日本建飲 同製品

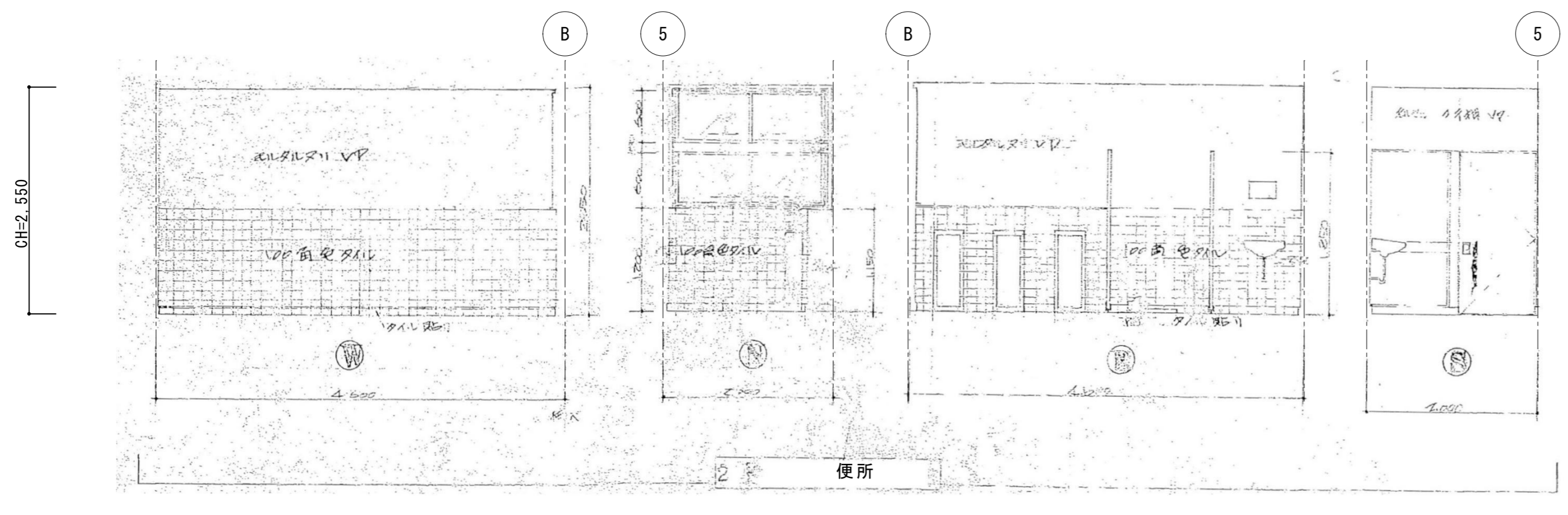
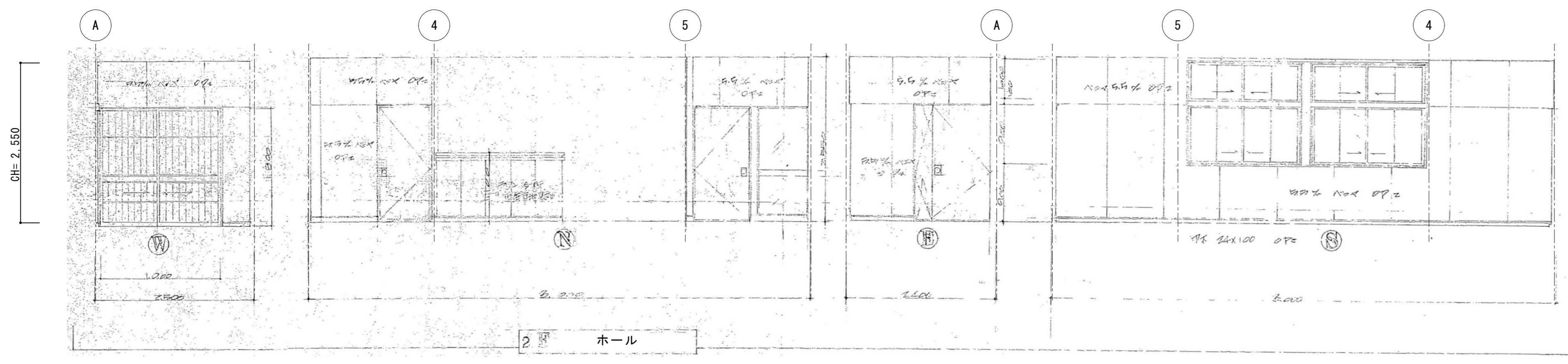
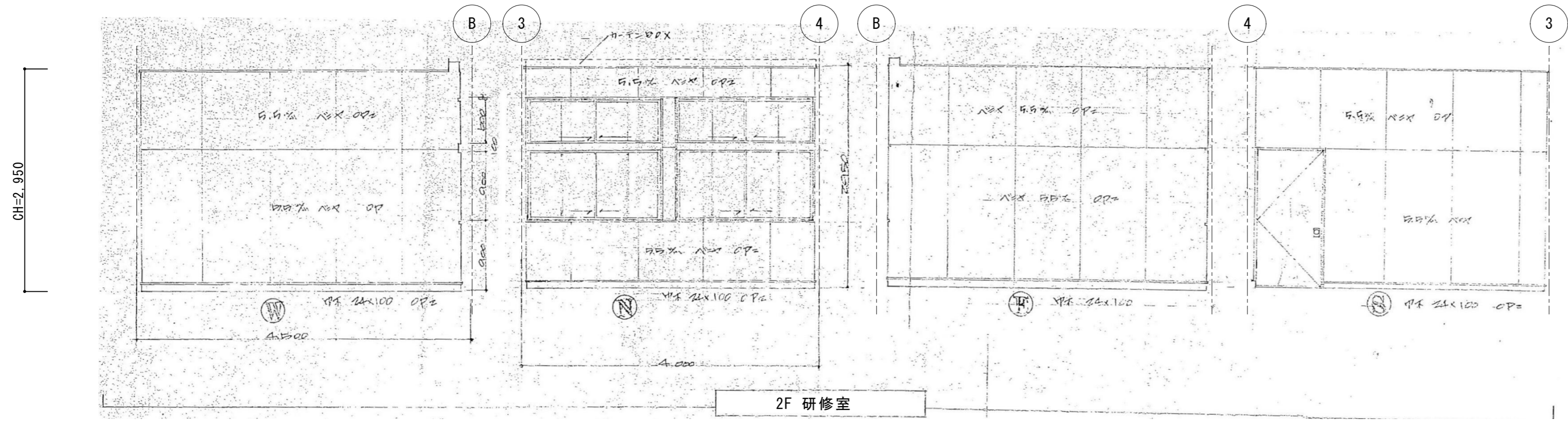
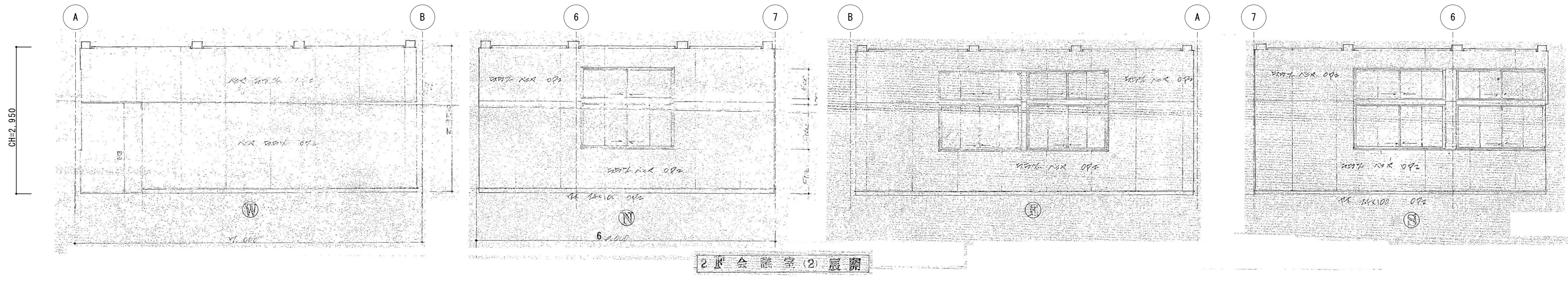
オーダーメイドスチールサッシ詳細 S: 1/50

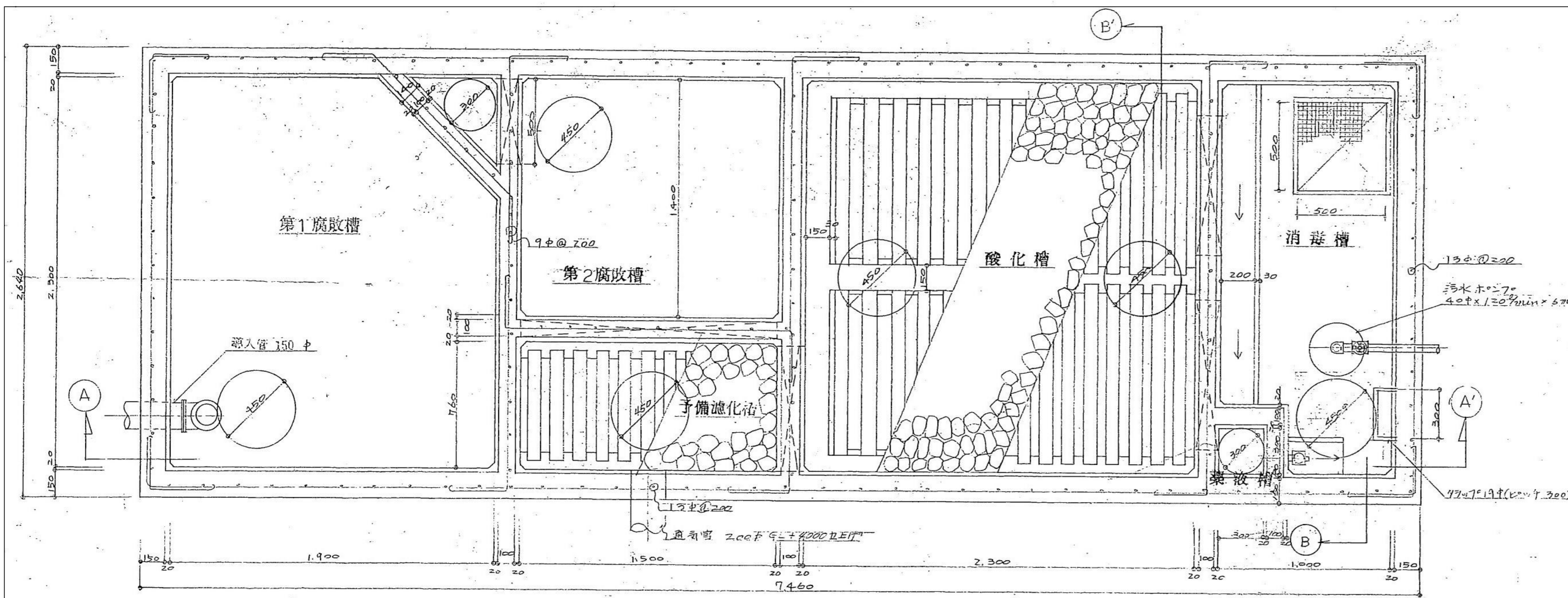
凡例
 (7A) 建具周リシーリング 10x15 (アスベスト含有)
 + 水切りシーリング 20x15 (アスベスト含有)
 がある建具を示す。



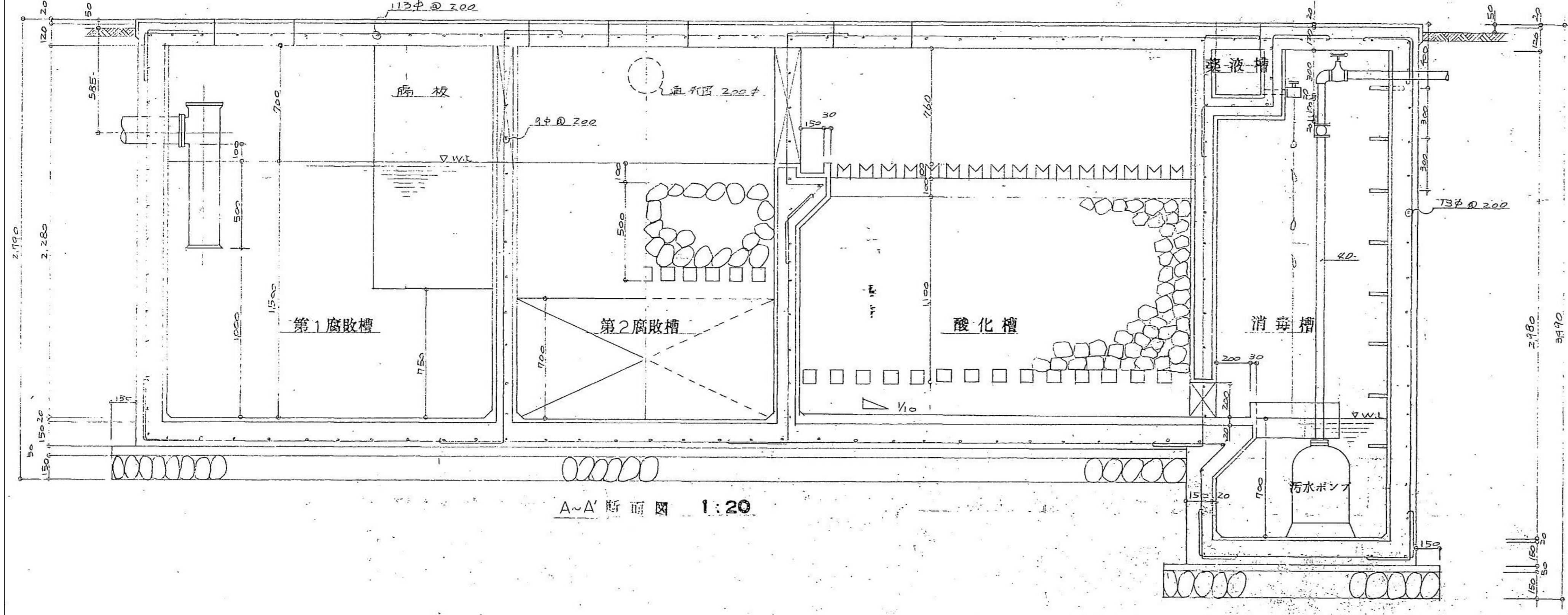
符号	SD 20	SW 20	SF 20	WD 20	WD 21	TB 20	TB 21	
箇所・数	事務室 1	事務室、女子便所 1	湯沸室、男子便所 2	スロープ 1	女子便所 1	男子便所 1	女子便所 1	
寸法 形状								
形式	スチール製 片開き戸 引違い窓 FIX窓	スチール製 引違い窓 内倒し窓	スチール製 三方枠	両面ベニアフラッシュ戸	両面ベニアフラッシュ戸	トイレブース	トイレブース	
ガラス	トーメイ 3mm	トーメイ 3mm 型ガラス 4mm	-	-	型ガラス 4mm	-	-	
金物	付属金物一式	付属金物一式	-	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	付属金物一式	
材質・見込	- 70	- 70	- 120	両面シナベニア 36	両面シナベニア 36	両面シナベニア 40	高圧メラミン化粧板 40	







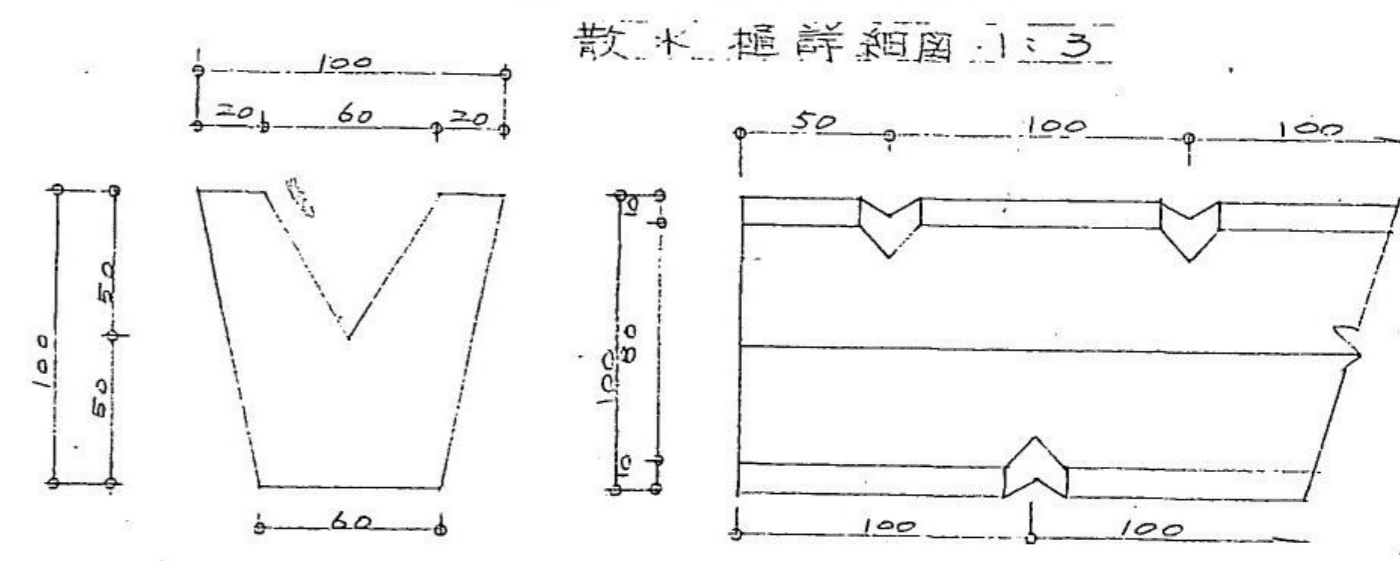
平面図 1:20



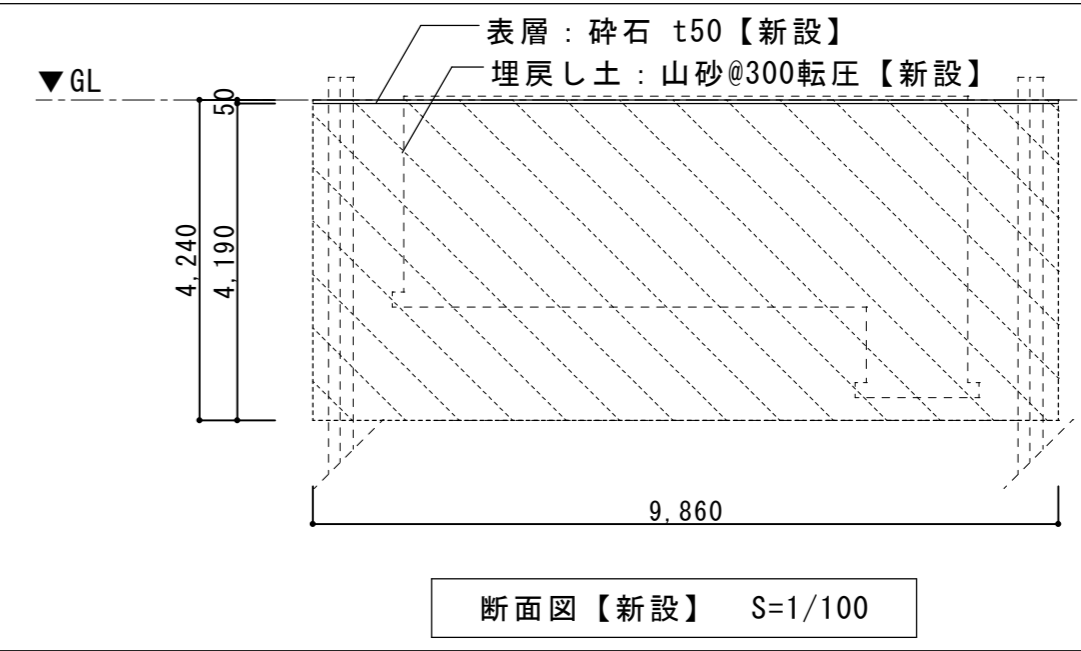
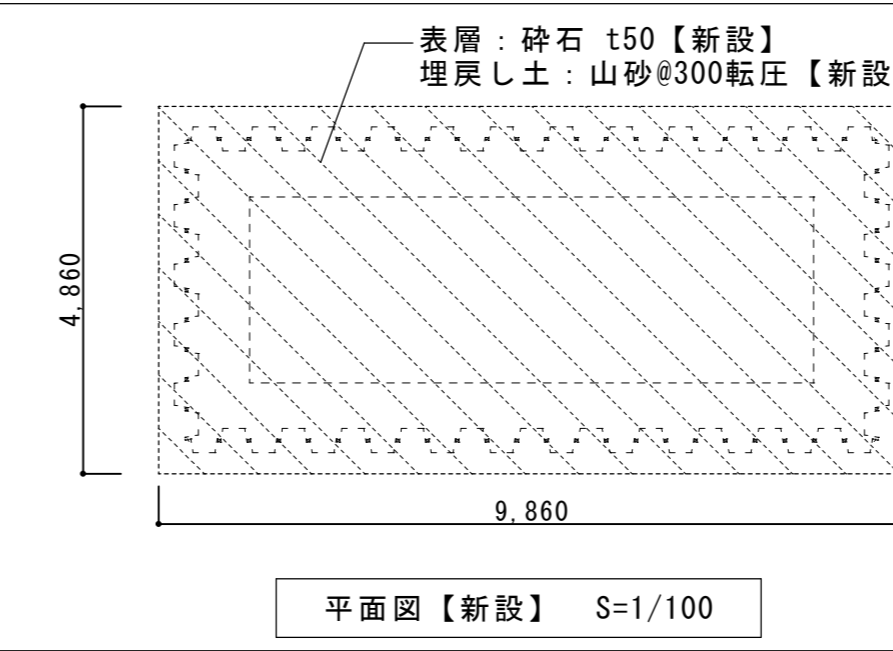
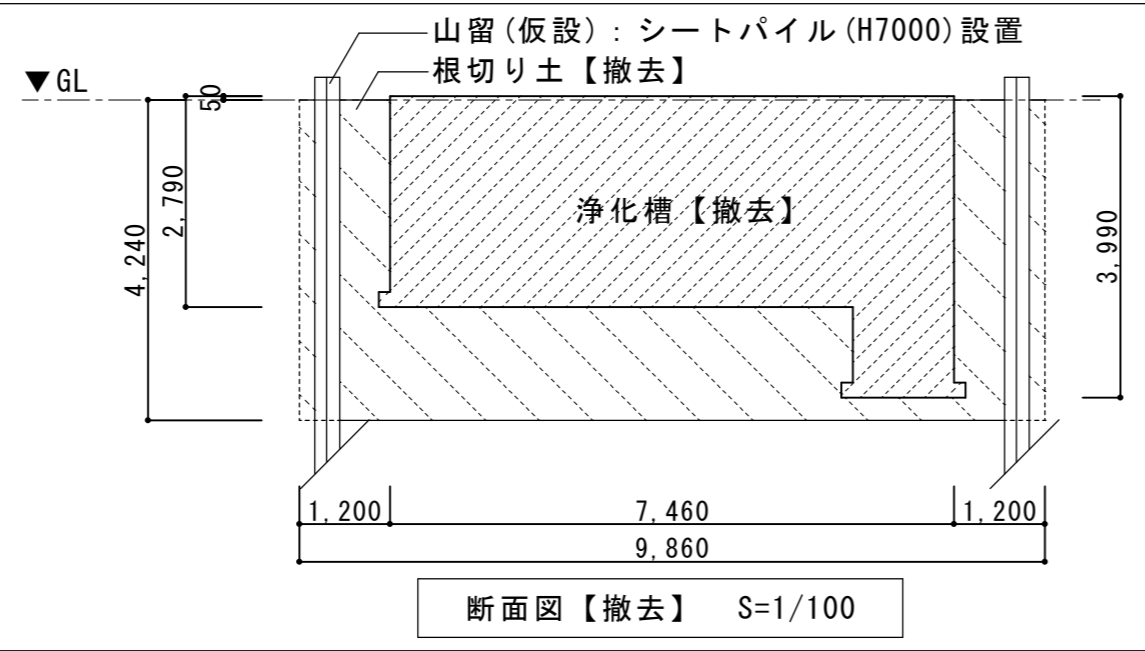
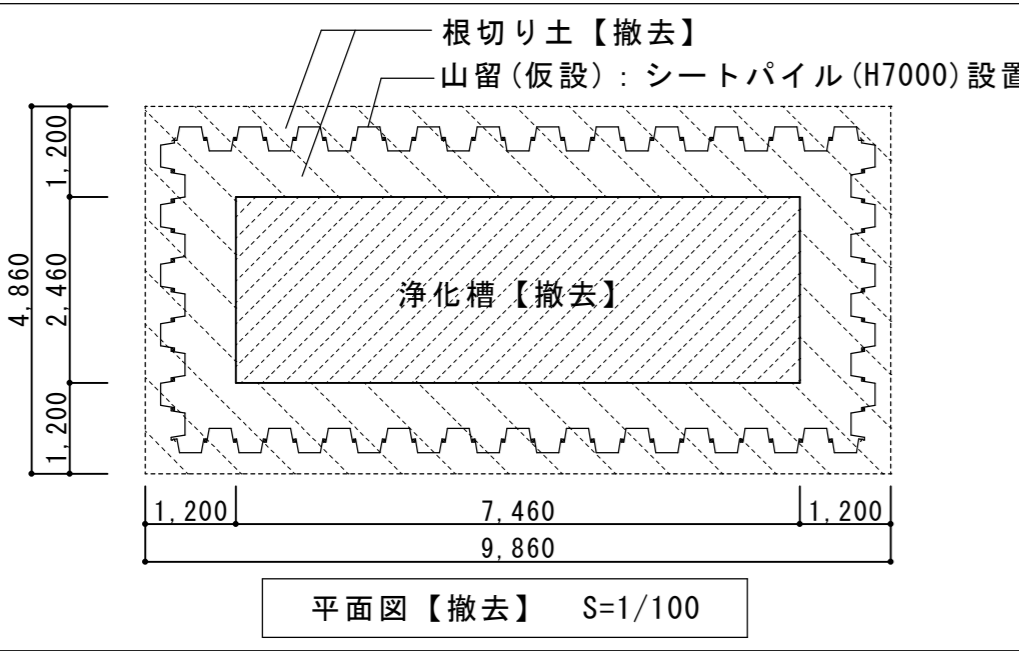
A~A' 断面図 1:20

浄化槽容積表 (100人分)

名称	内法長米	内法長中	有効深米	容積立方米
第1腐敗槽	1.900	2.300	1.500	6.555
第2腐敗槽	1.500	2.160	1.500	4.860
予備濾化槽	(1.500)	(0.760)	(1.500)	(1.710)
腐敗槽 総容積				11.415
酸化槽	2.300	2.300	1.100	5.819
酸化槽 容積				5.819
薬液槽	0.300	0.300	0.300	0.027
消毒槽	1.000	2.300	0.700	1.610



浄化槽【撤去】・撤去後の舗装【新設】図



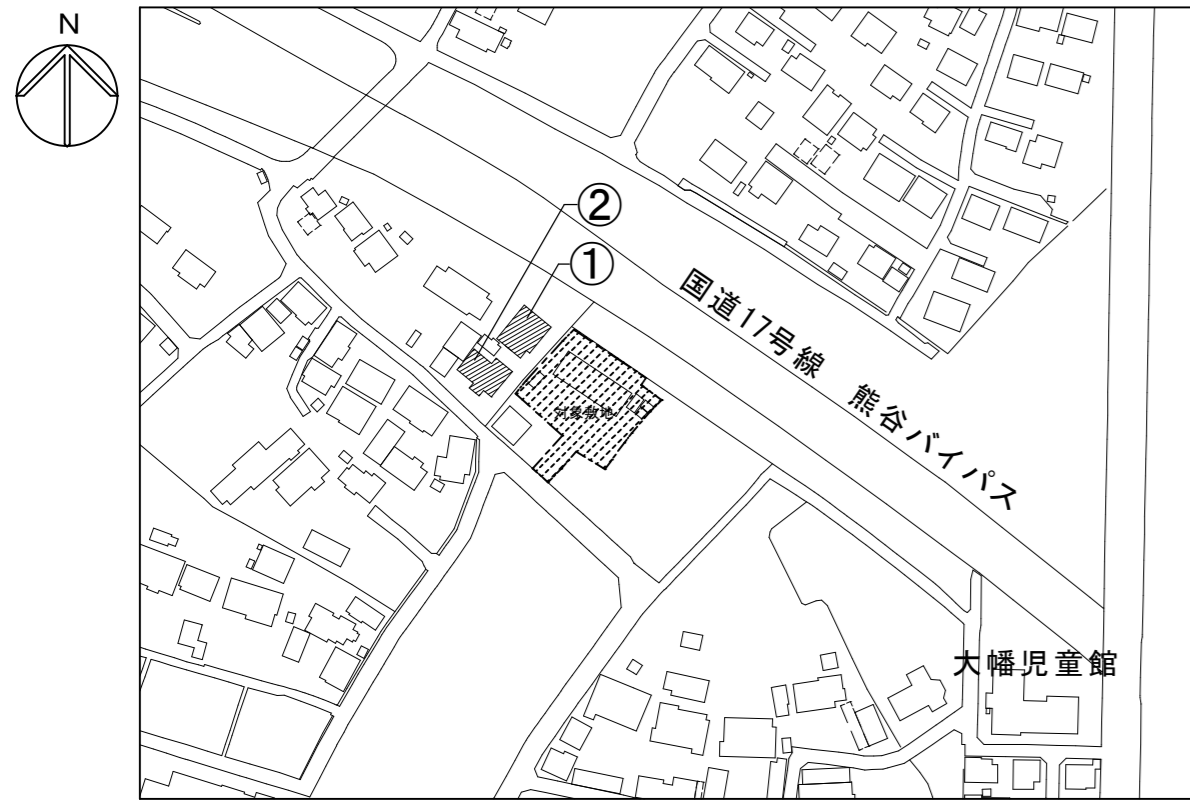
※山留(仮設)は参考図とし、監督職員、管理者と協議の上決定すること。

特記事項
撤去後、駐車場となるため
沈下しないように密な転圧を行うこと。

凡例

	キャストゲート W3.6m H2.0m
	仮囲い ガードフェンス H1800
	くさび足場 建材900x1800 (防音シート養生)
	交通誘導員 1人
	騒音・振動測定位置 (1箇所) 表示板付きとする。

※本仮設計画図は参考図とし、監督職員、管理者と協議の上決定すること。
 ※隣地に利用中の建築物があるため、粉塵・騒音・振動の発生には特に注意を払うこと。
 ※施工及び敷地の状況から敷鉄板が必要な場合は、適宜敷設を行うこと。
 ※解体作業時には随時散水を行い、粉塵の抑制に努めること。
 ※工事完了後は、現況レベルに合わせて埋戻しを行い、砕石（パーজন材）敷とし、整地を行うこと。



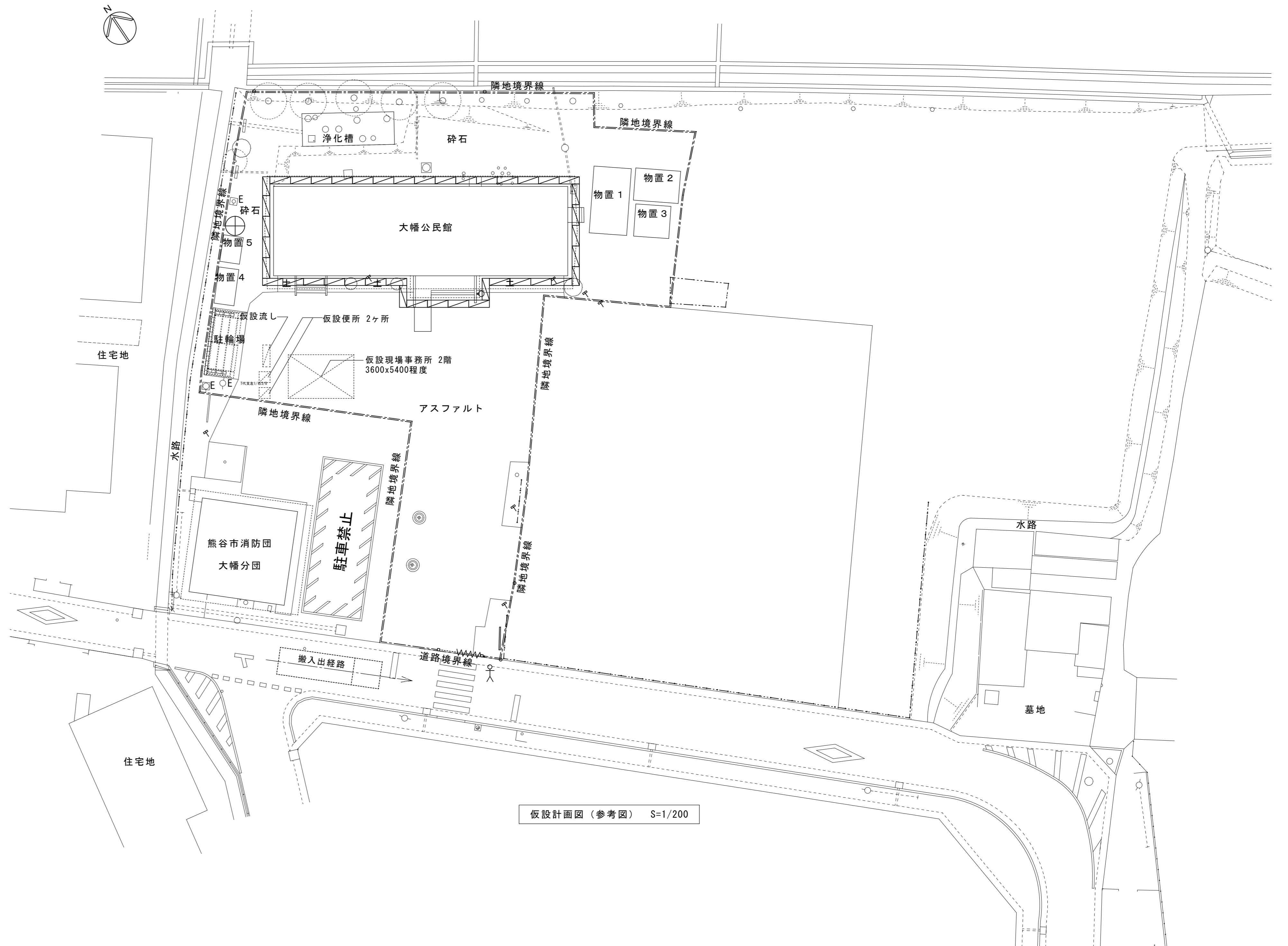
家屋調査対象建築物位置図 S:N.S

特記事項

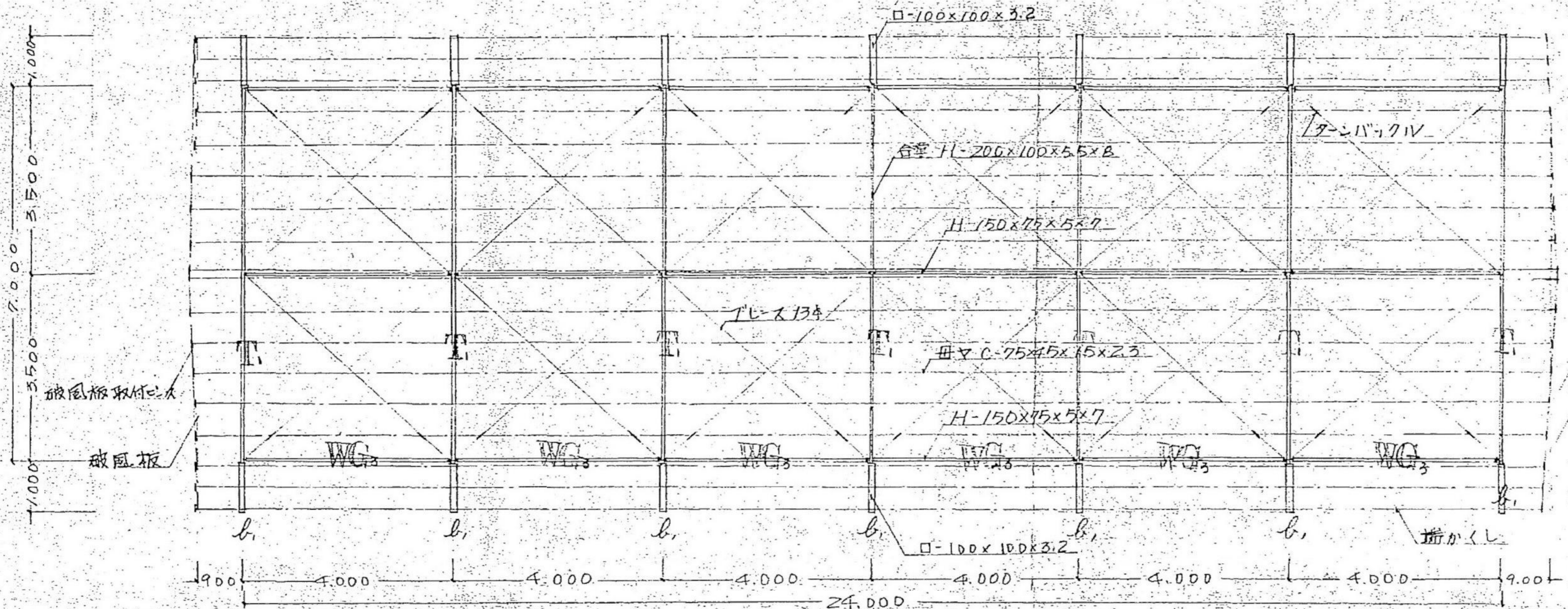
家屋調査対象建築物について、特記仕様書に基づき、事前調査・事後調査を行う
 ただし、調査の実施については建物所有者の意向に従うこととする。

家屋調査対象建築物リスト

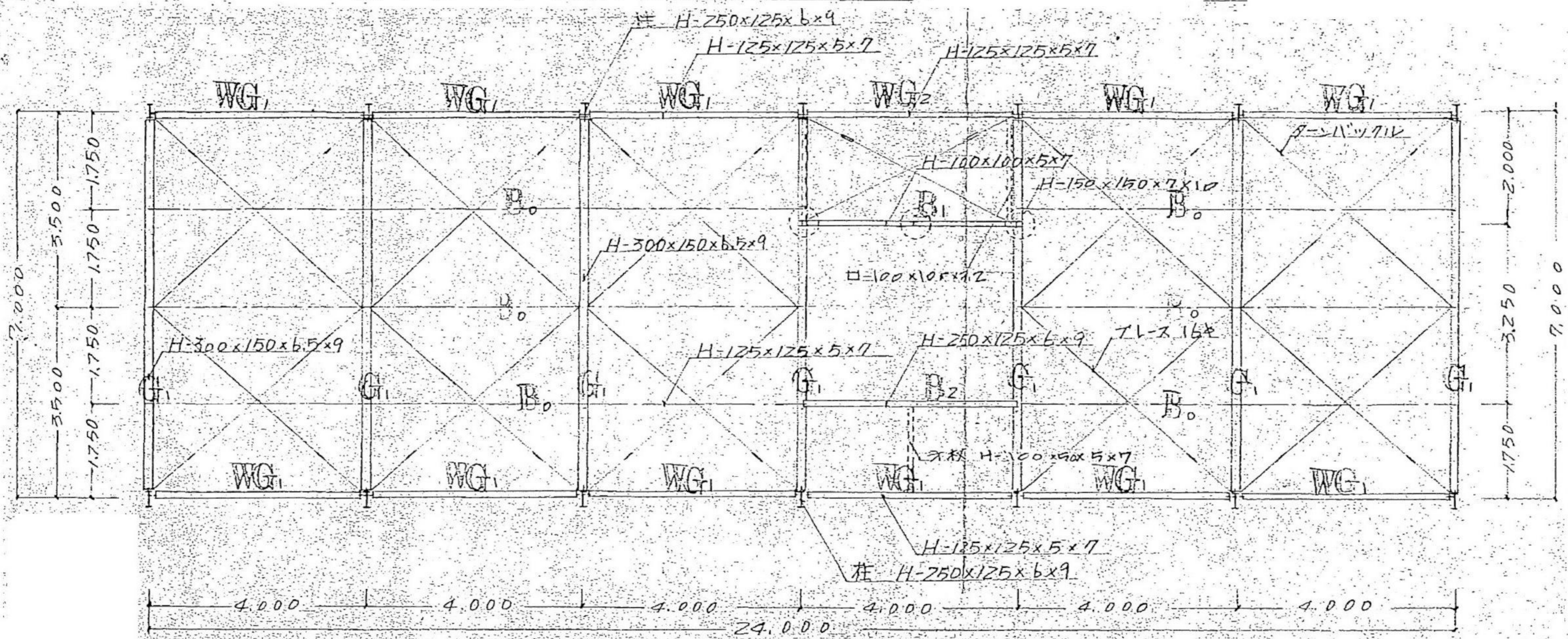
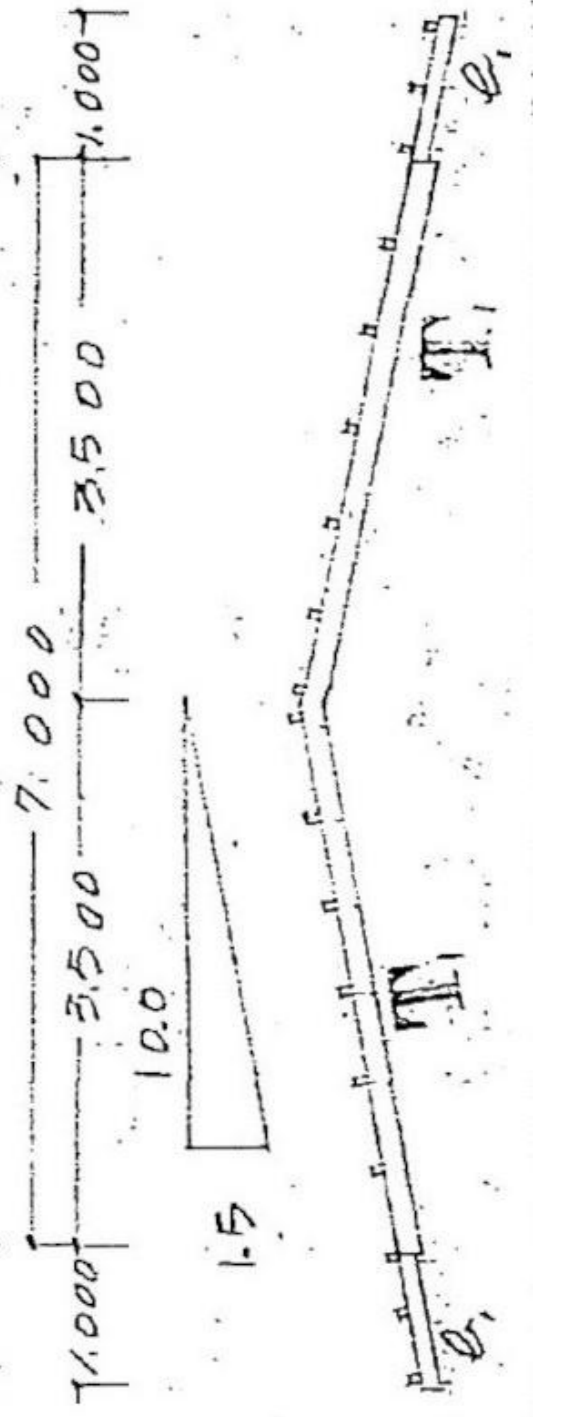
番号	構造	階数	用途	延べ床面積 (㎡)
①	鉄骨造	平屋建て	倉庫(想定)	約160㎡
②	木造	2階建て	住宅	約150㎡



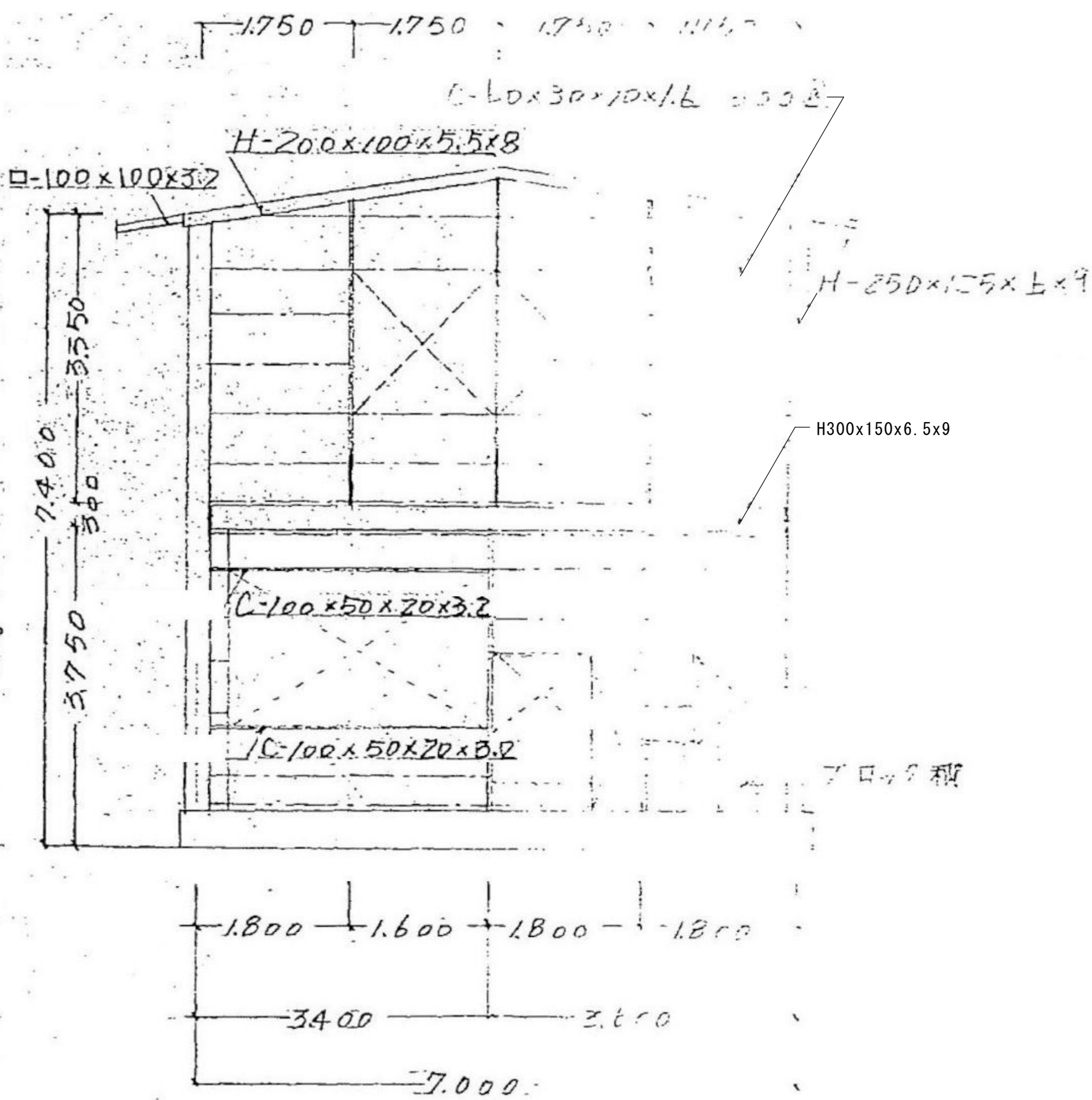
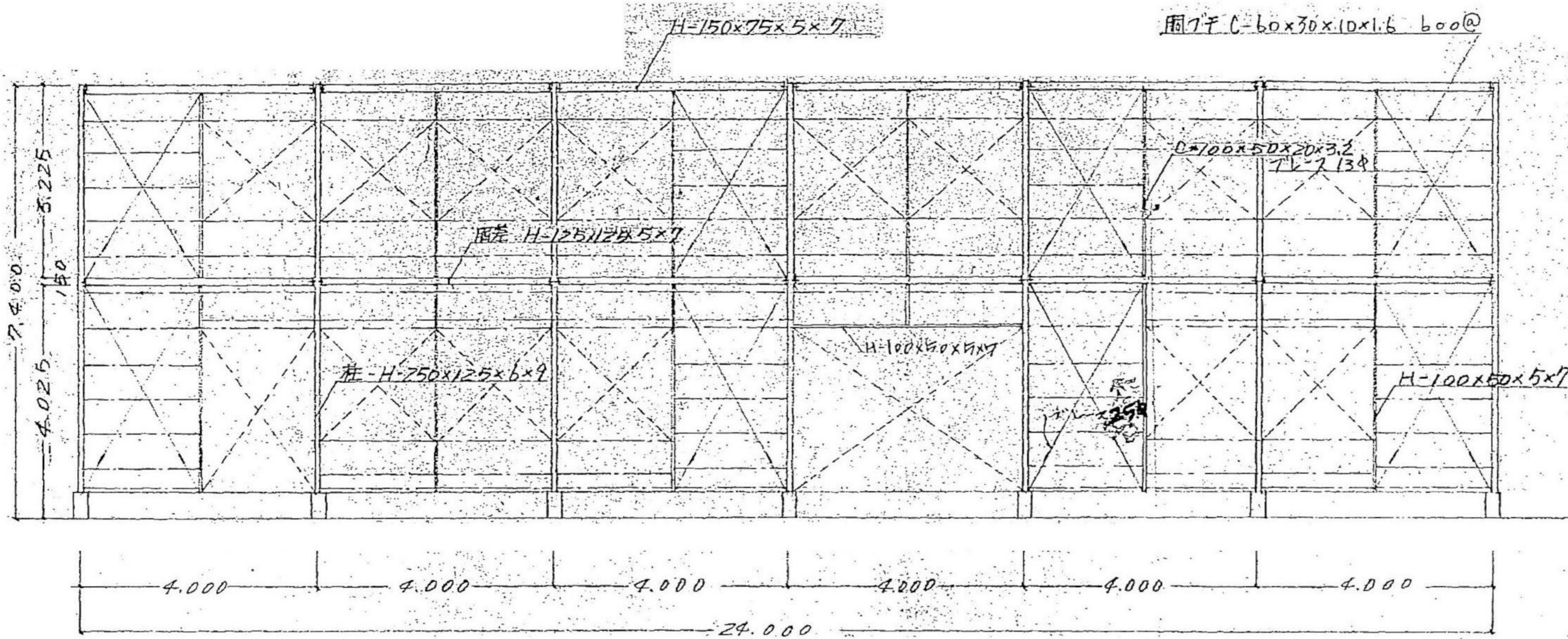
仮設計画図 (参考図) S=1/200



小 屋 伏 図 S=1/50

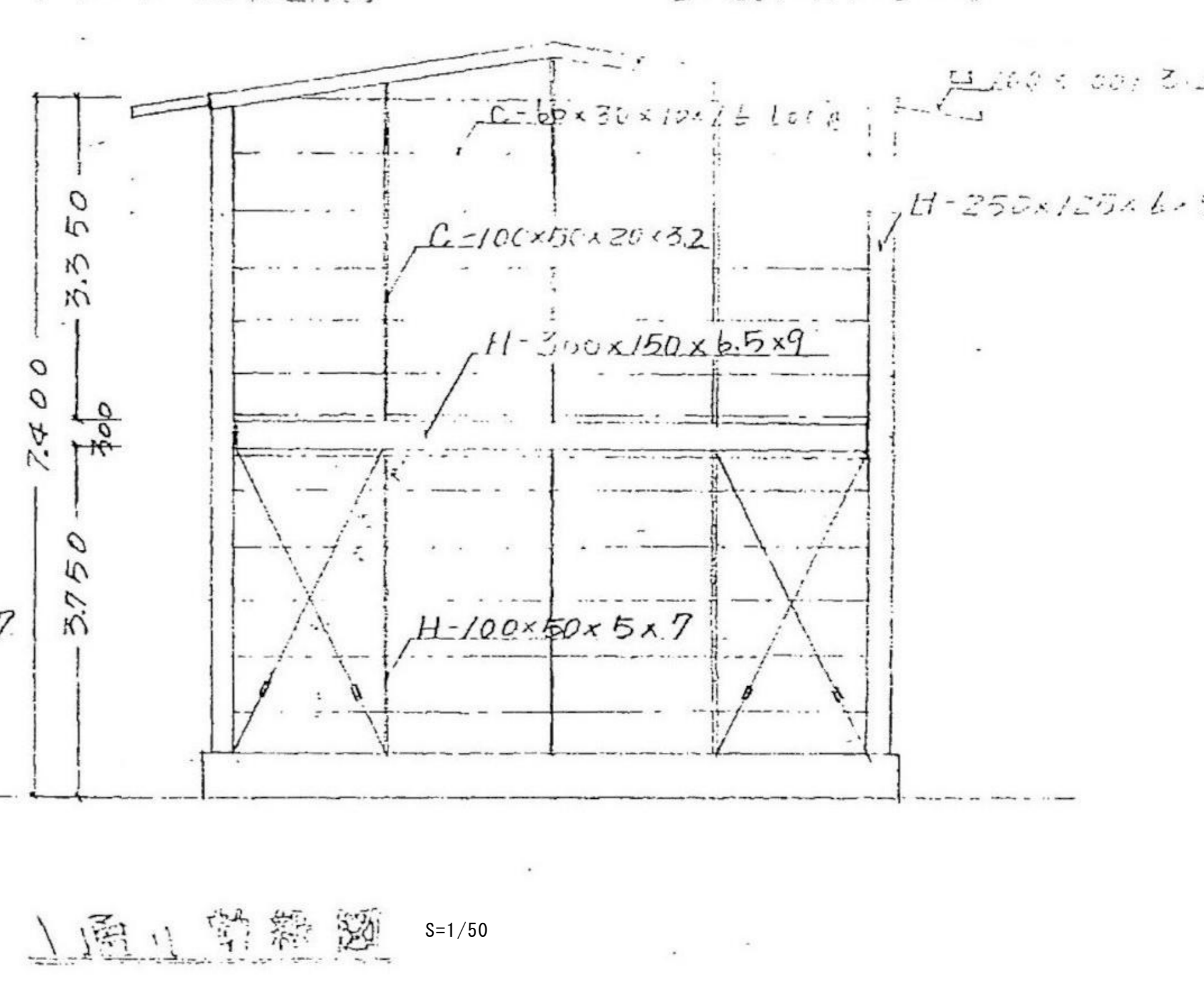
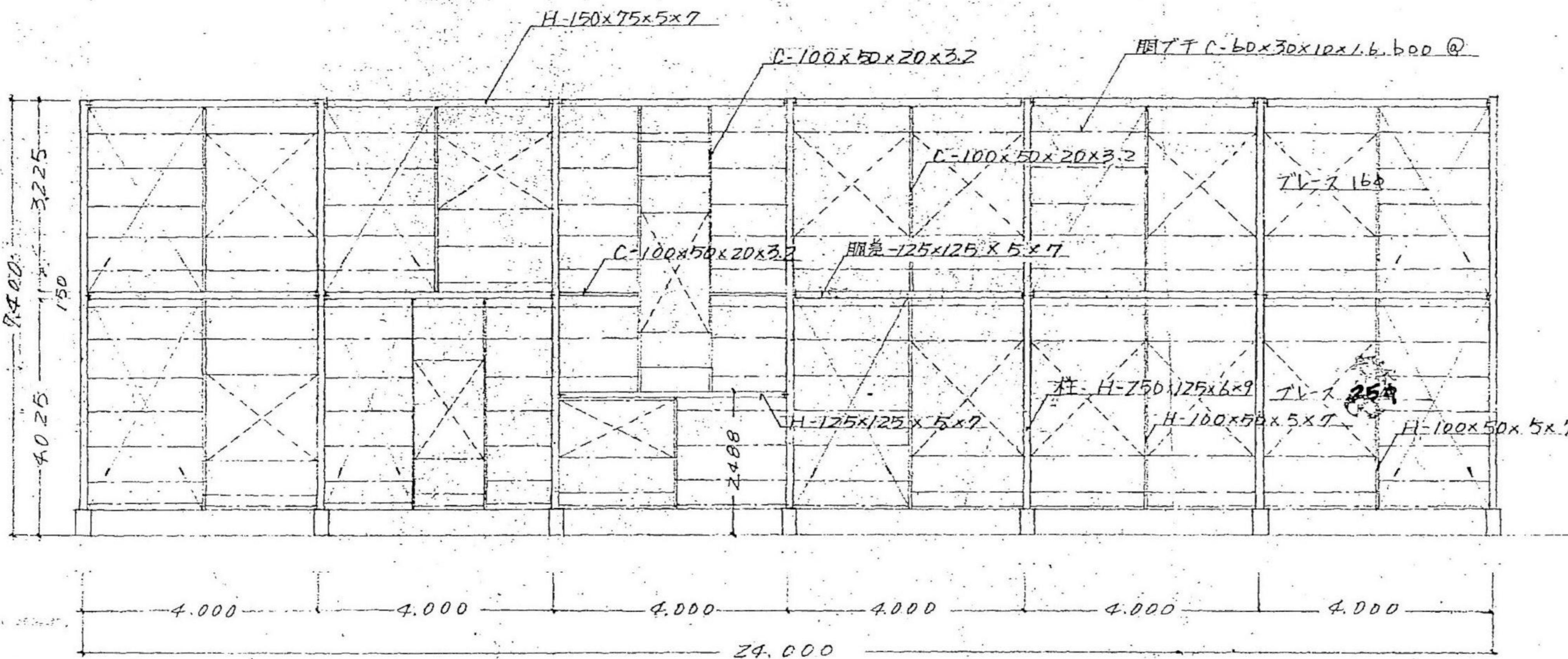


2 階 梁 伏 図 S=1/50



A 通し軸組図 S=1/50

A 通し軸組図 S=1/50

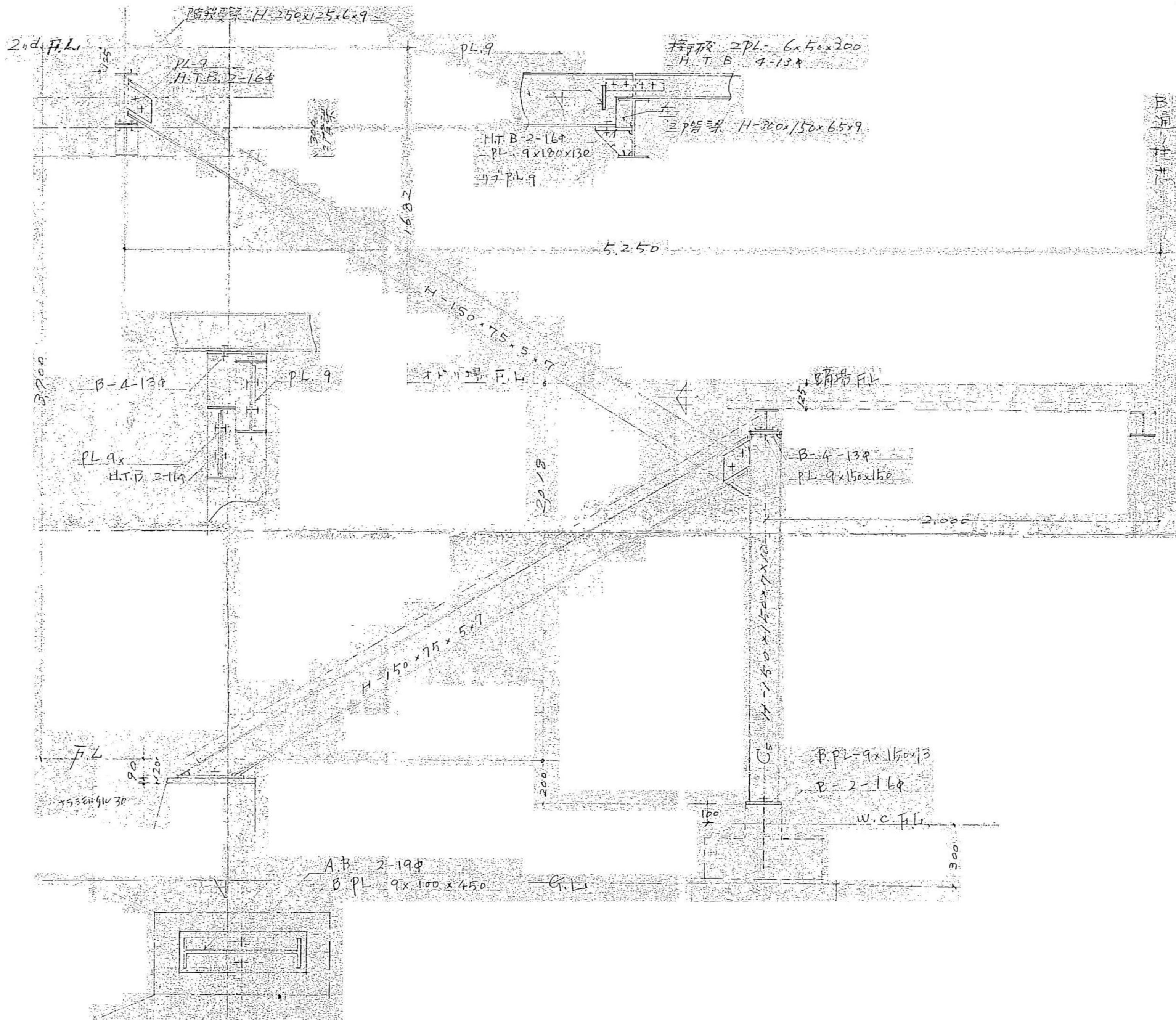


B 通し軸組図 S=1/50

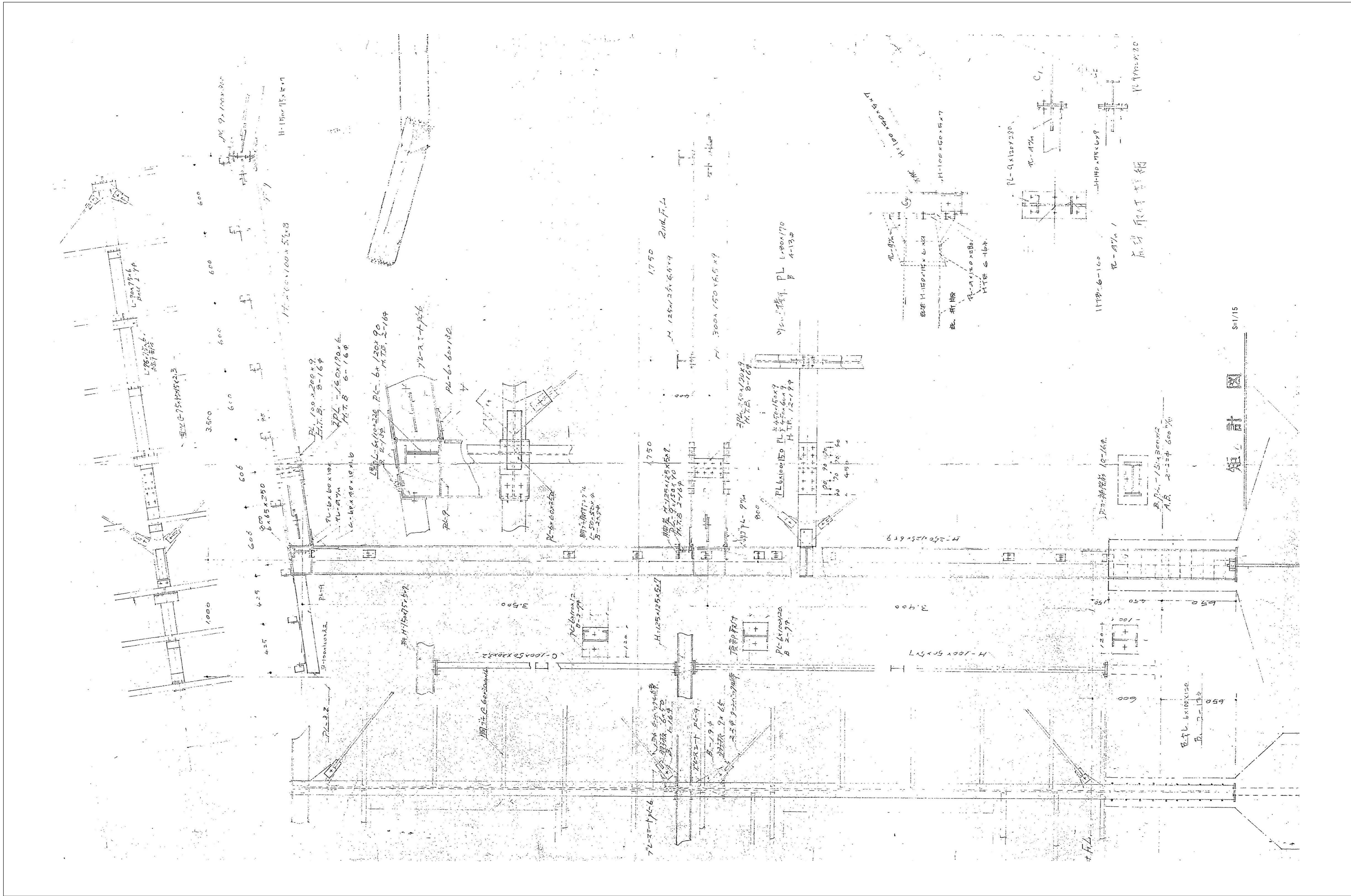
B 通し軸組図 S=1/50

リスト

名称	柱				
箇所	主柱	中間柱	中間柱	階段梁	階段梁下
符号	C ₁	C ₂	C ₃	C ₄	C ₅
形状					
S:V ₀					
寸法	H-250x125x6x9	H-100x50x5x7	C-100x50x20x3.2	H-100x100x5x7	H-150x150x7x10
名称	胴差	階段梁胴差	桁(柱)	2階梁	大引き
符号	WG ₁	WG ₂	WG ₃	G ₁	B ₀
形状					
S:V ₀					
寸法	H-125x125x5x7	H-125x125x5x7	H-150x75x5x7	H-300x150x6.5x9	H-125x125x5x7
名称		階段	台盤	母ヤ	母ヤ
箇所					
符号	B ₁	B ₂	T	φ	マ
形状					
S:V ₀					S:V ₀
寸法	H-100x100x5x7	H-250x125x6x9	H-200x100x5.5x8	φ100x100x32	C-75x75x15x2.3
名称	胴ブチ	プレート	階段梁	プレート	羽子板
		直径	階段長	プレート	羽子板
		13φ	50%	φ-6	6x50
		16φ	60%	φ-6	6x50
		19φ	70%	φ-9	9x65
		ベースプレート	12x100x150-C	9x100x40-1242	
		アンチホルト	φ100x120-C	18x100x40-1242	
			C1: 2-2φ	C2: 2-2φ	
形状					
S:V ₀					
寸法	C-60x30x10x1.6				

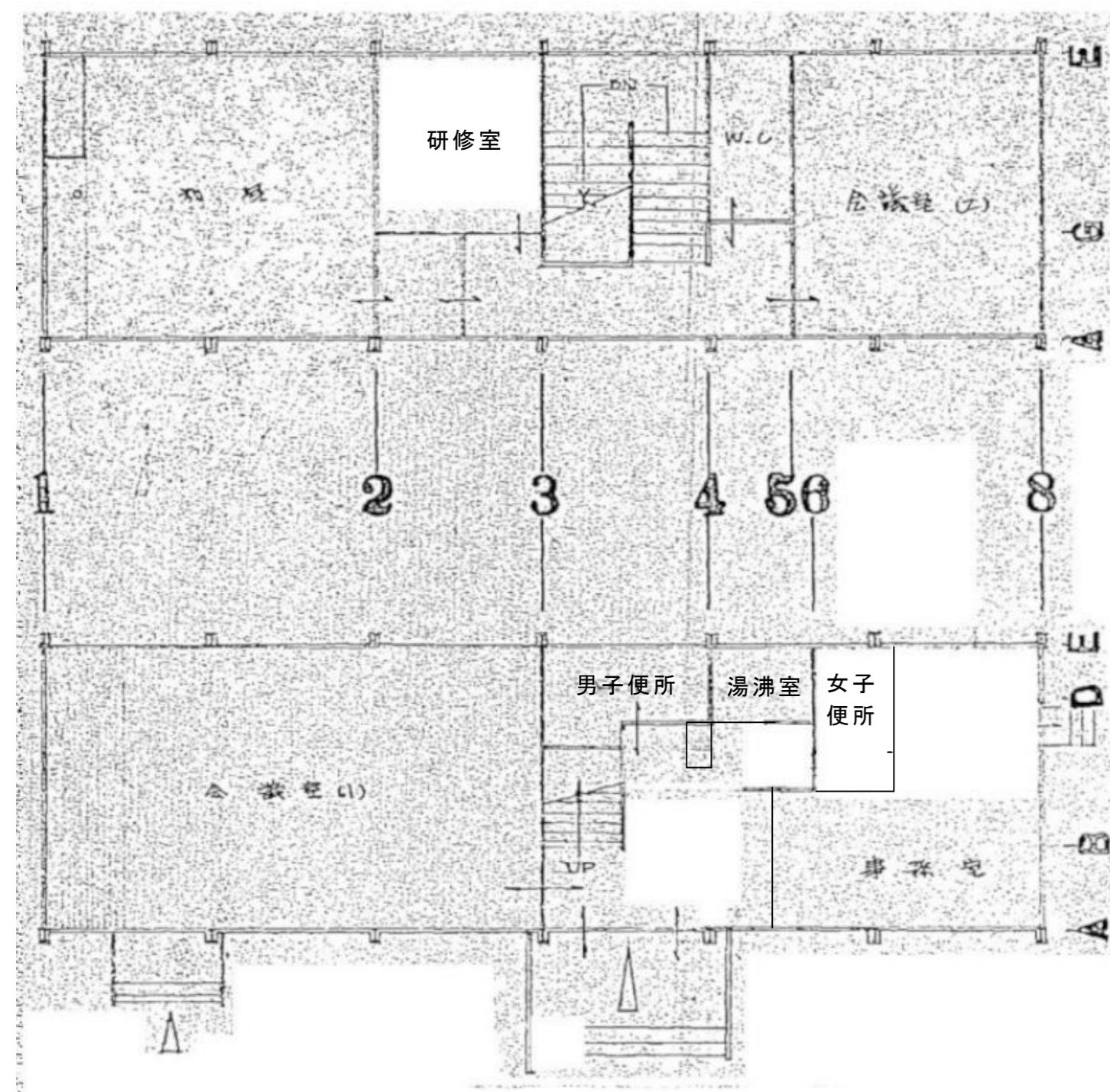


階段架構図 S=1/15

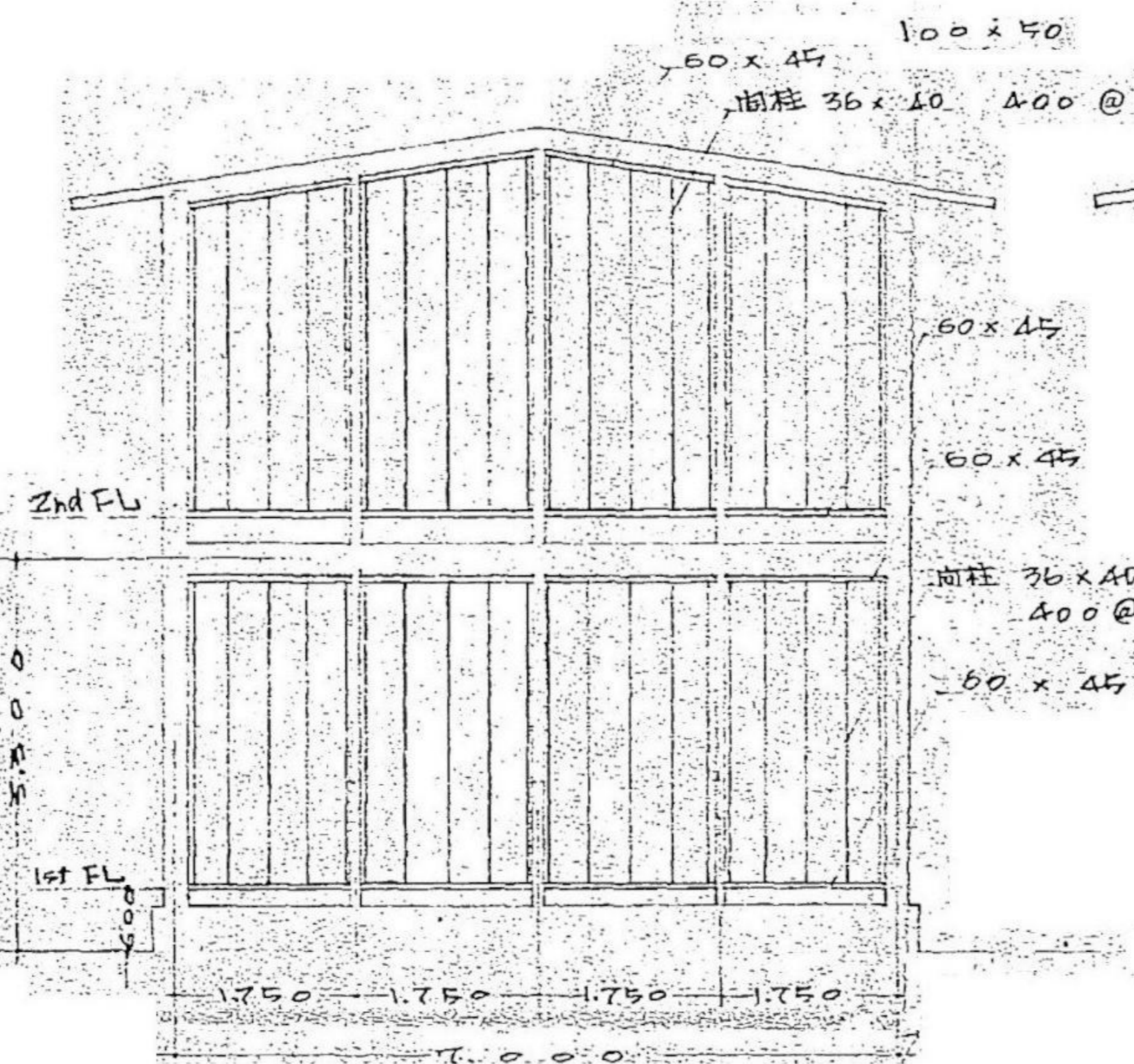


鉄骨矩計図 S=1/15

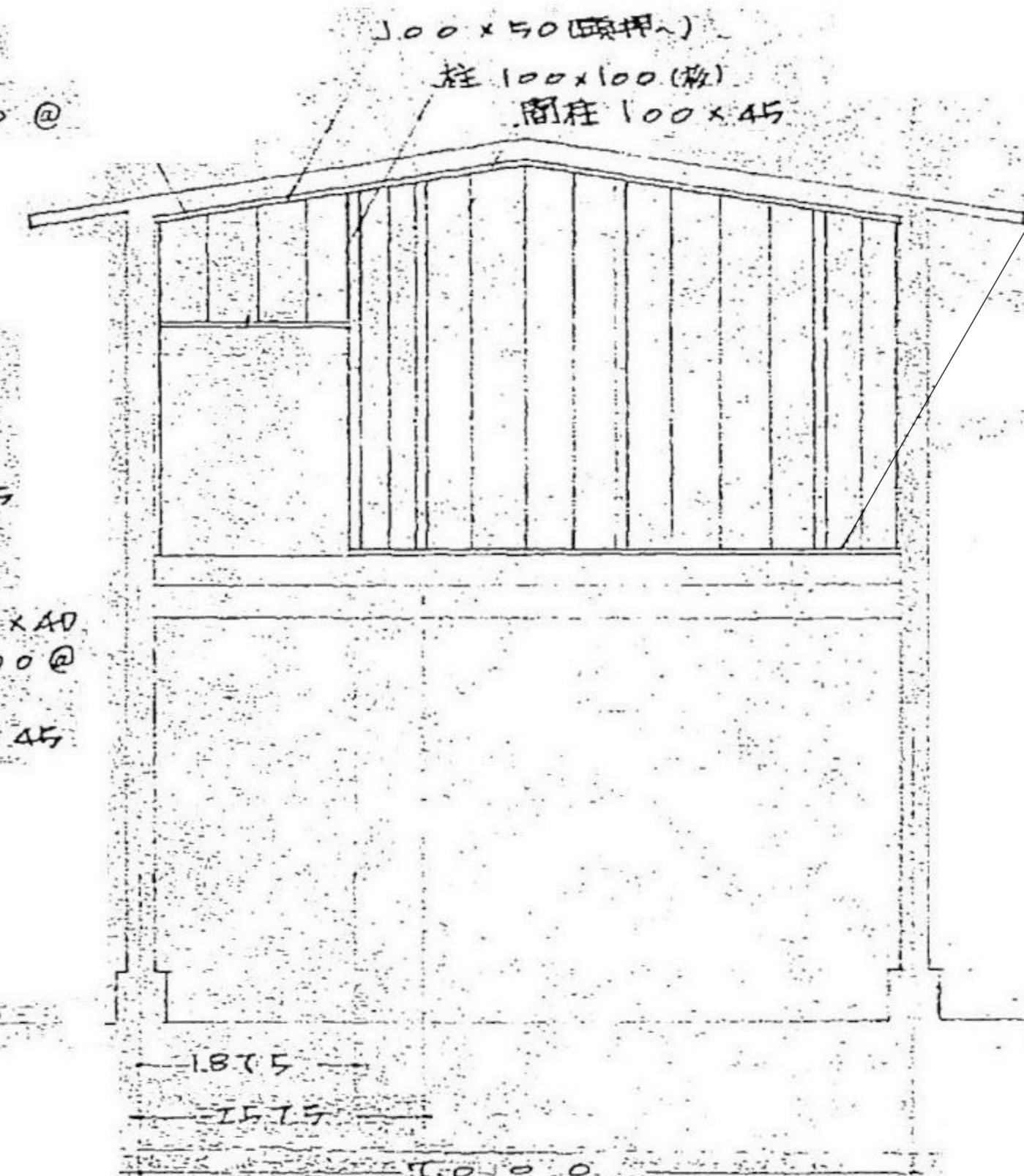
特 記	株式会社 サナクト		熊谷市建設部営繕課		熊谷市大幡公民館解体等工事		図 面 号 HM-05
	一級建築士事務所 埼玉県知事登録(4)第10060号 設計者 一級建築士 第267371号 菅野 孝		担 当		鉄骨矩計図		縮 尺 1:15 (A1) 1:30 (A3)



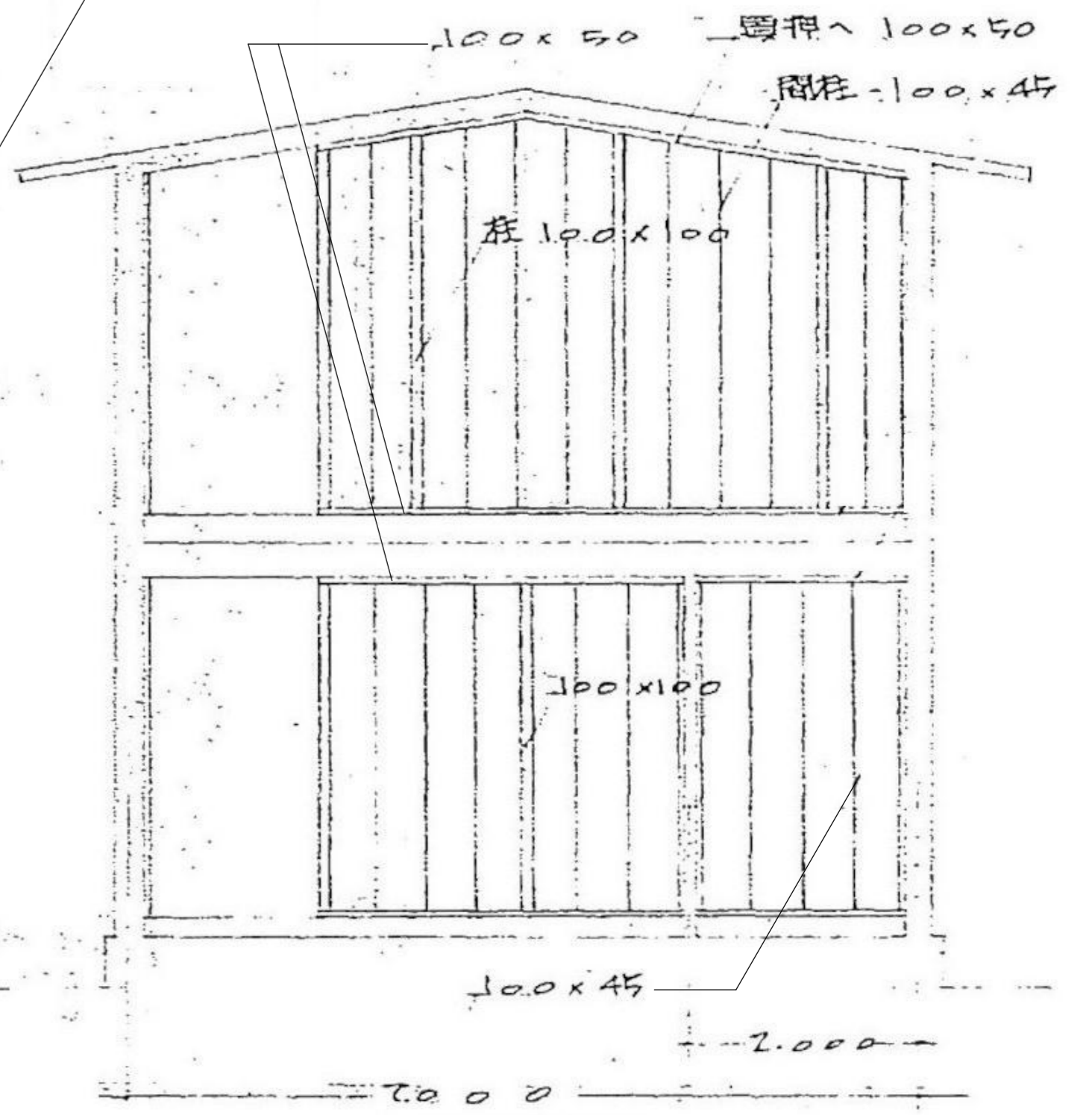
木造軸組図キープラン



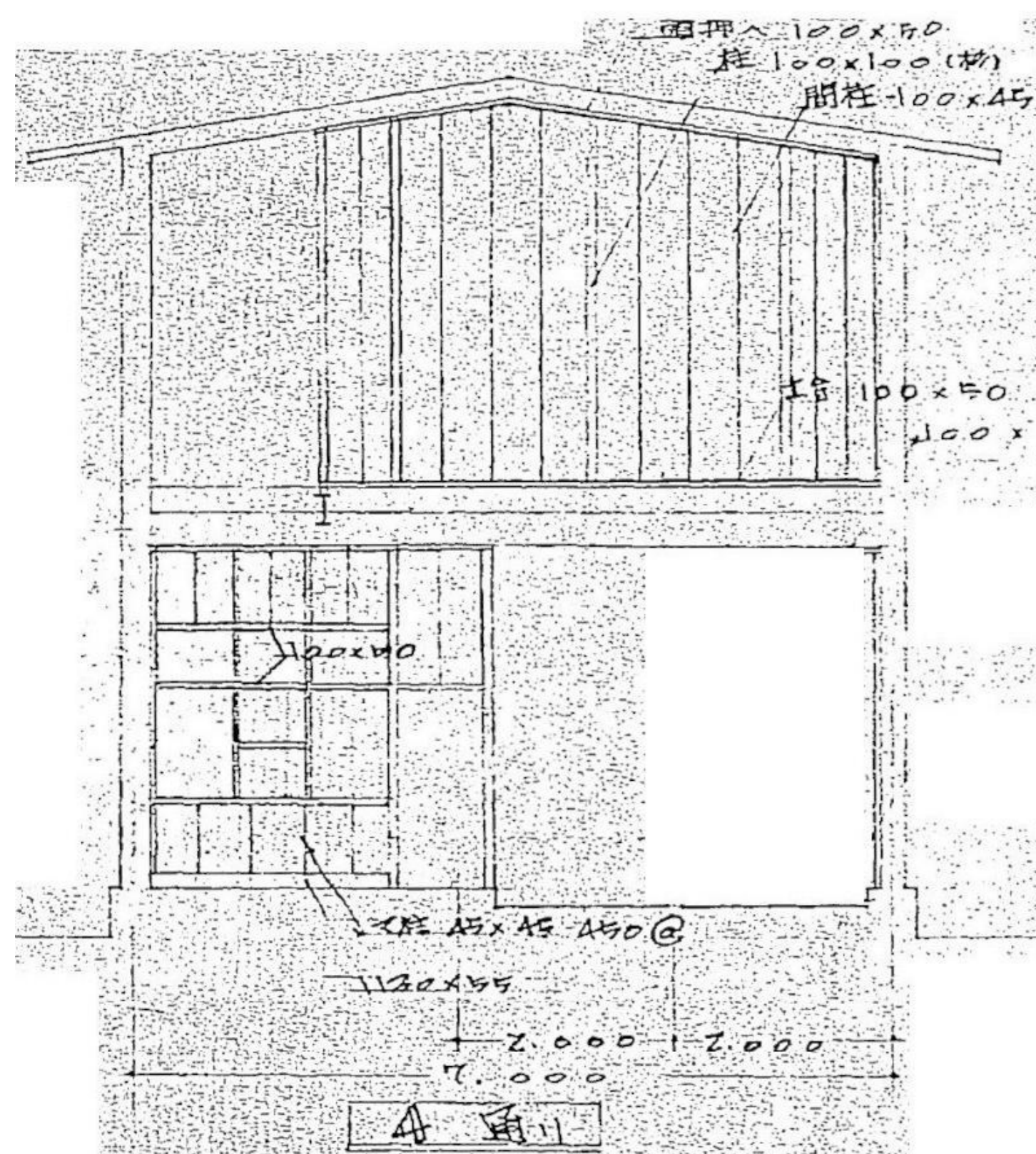
1面



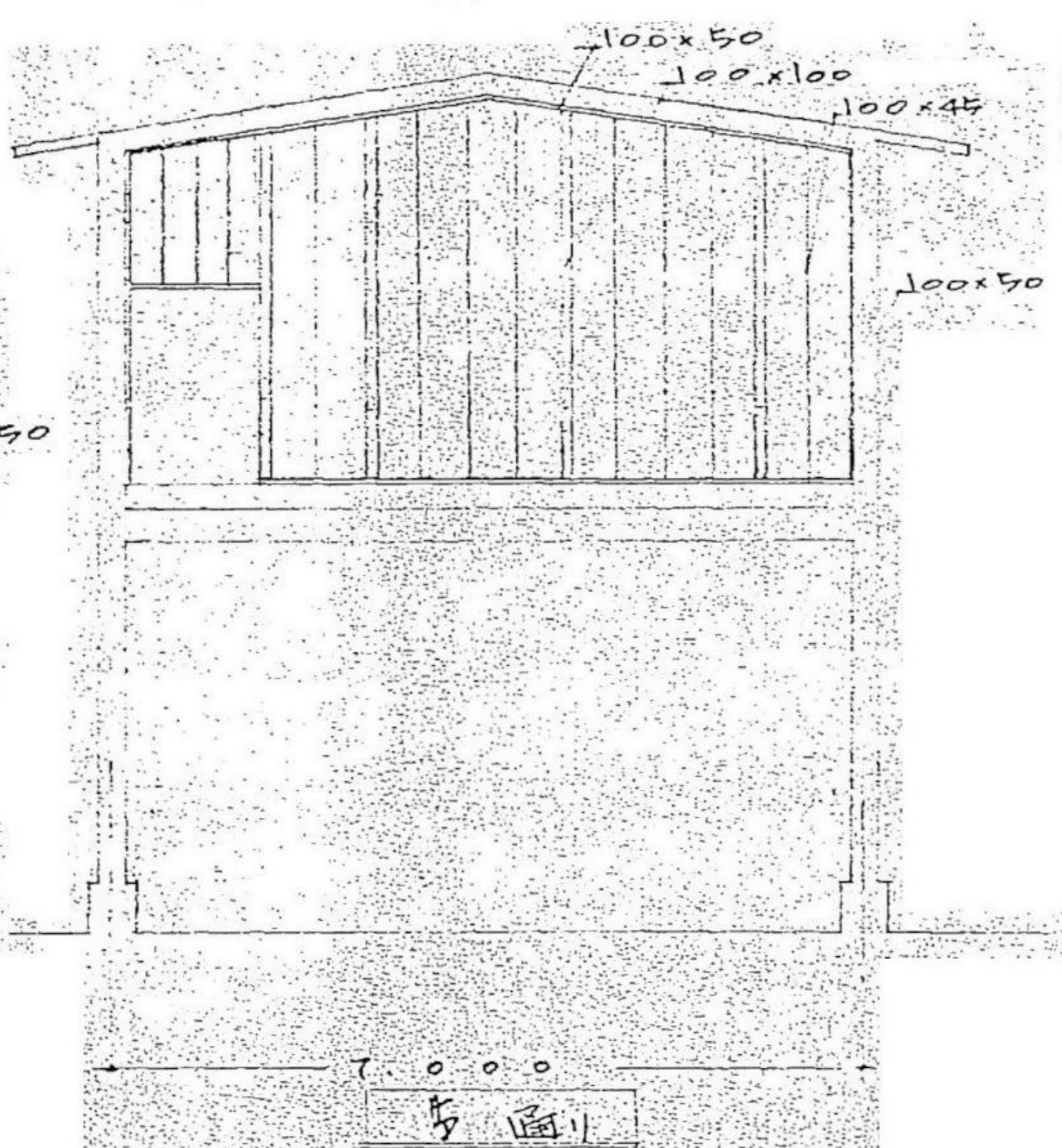
2面



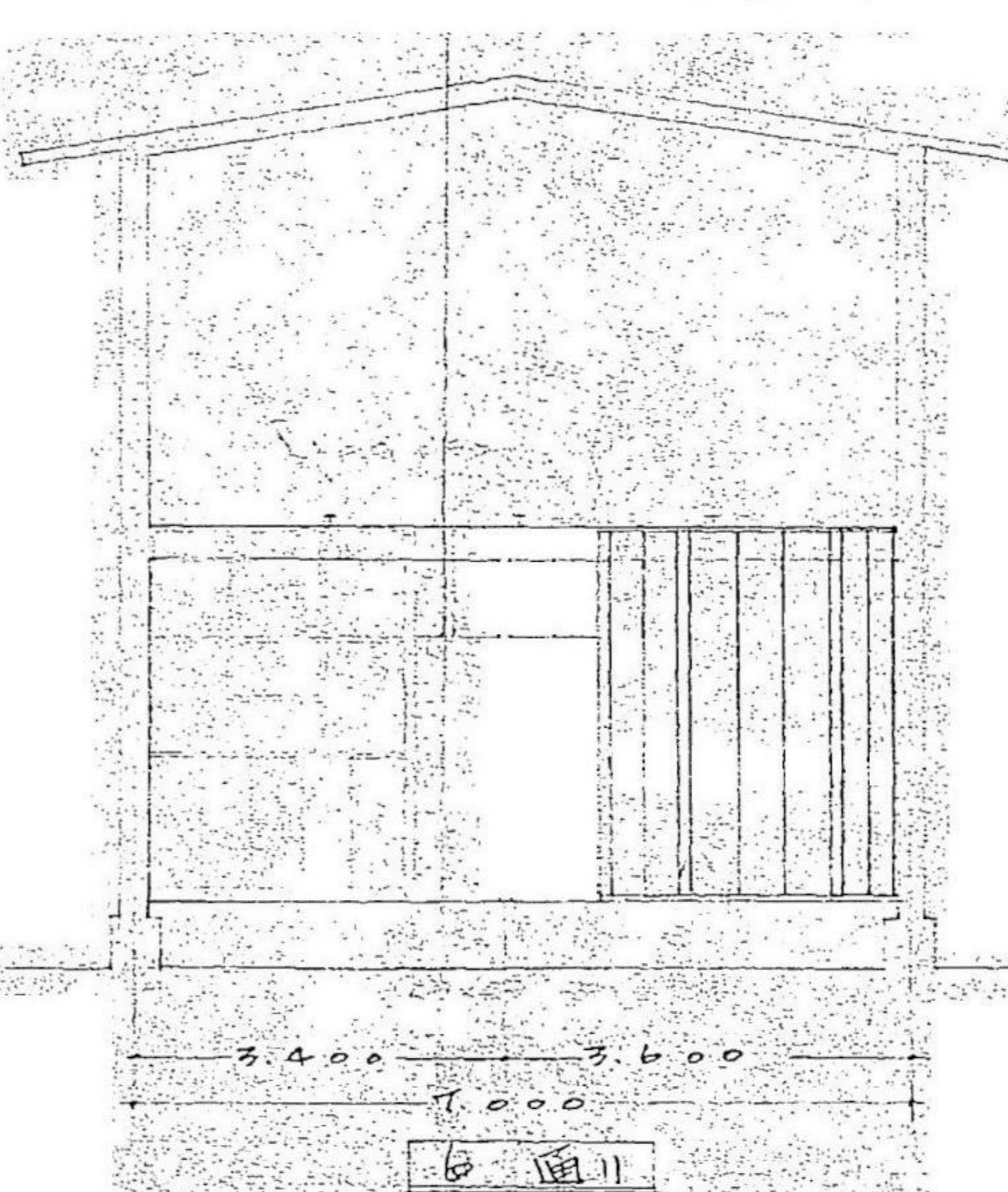
3面



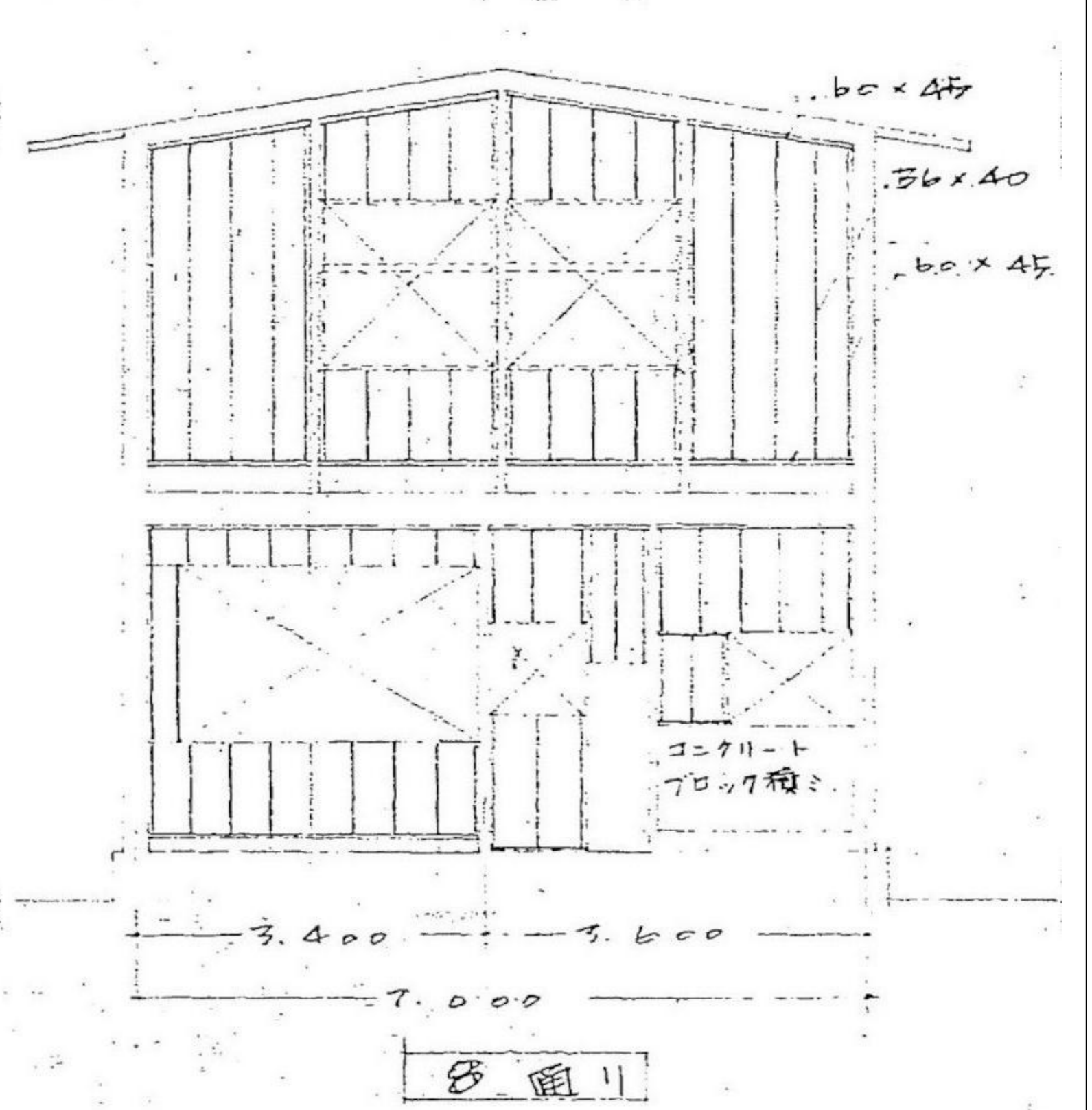
4面



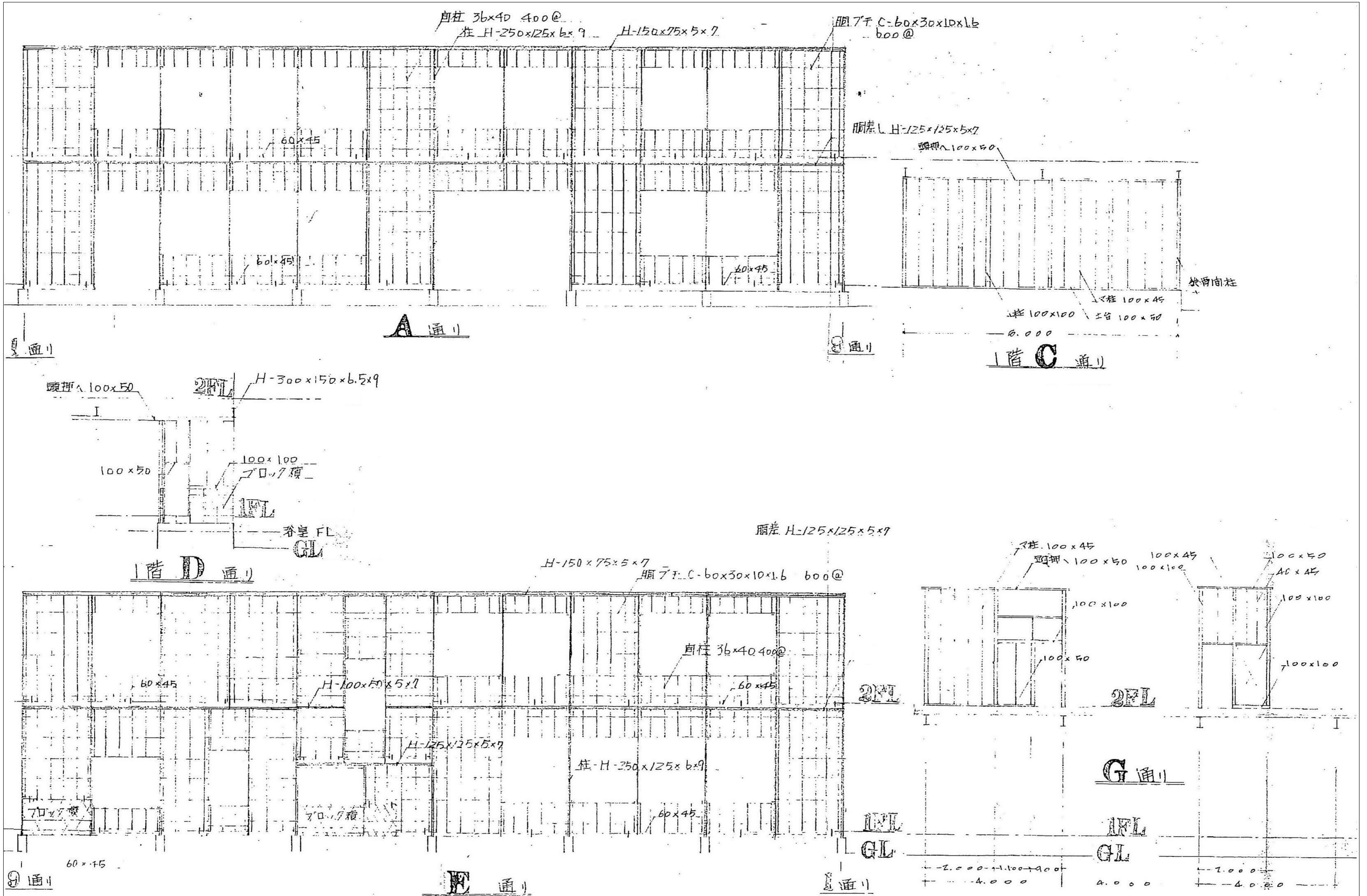
5面



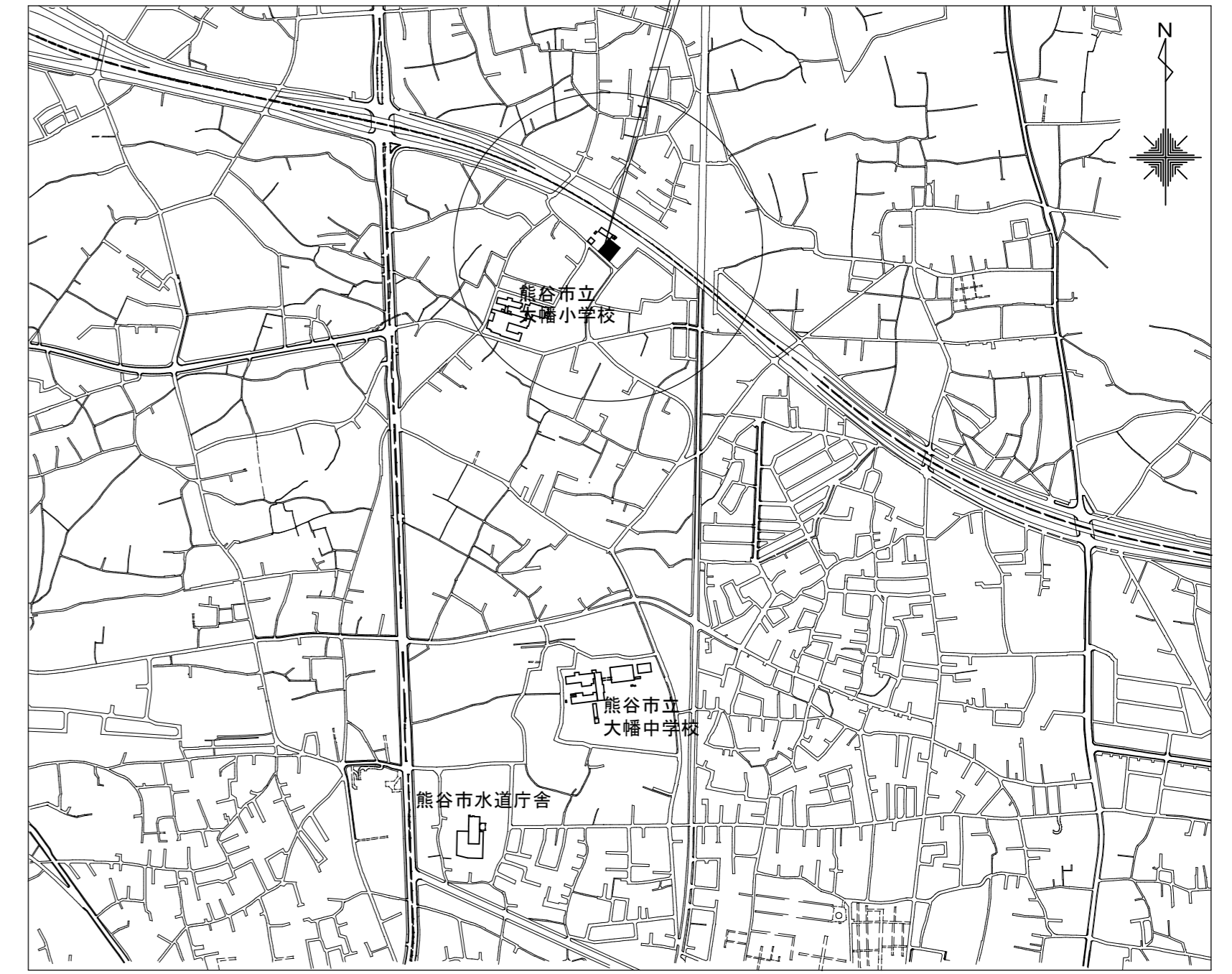
6面



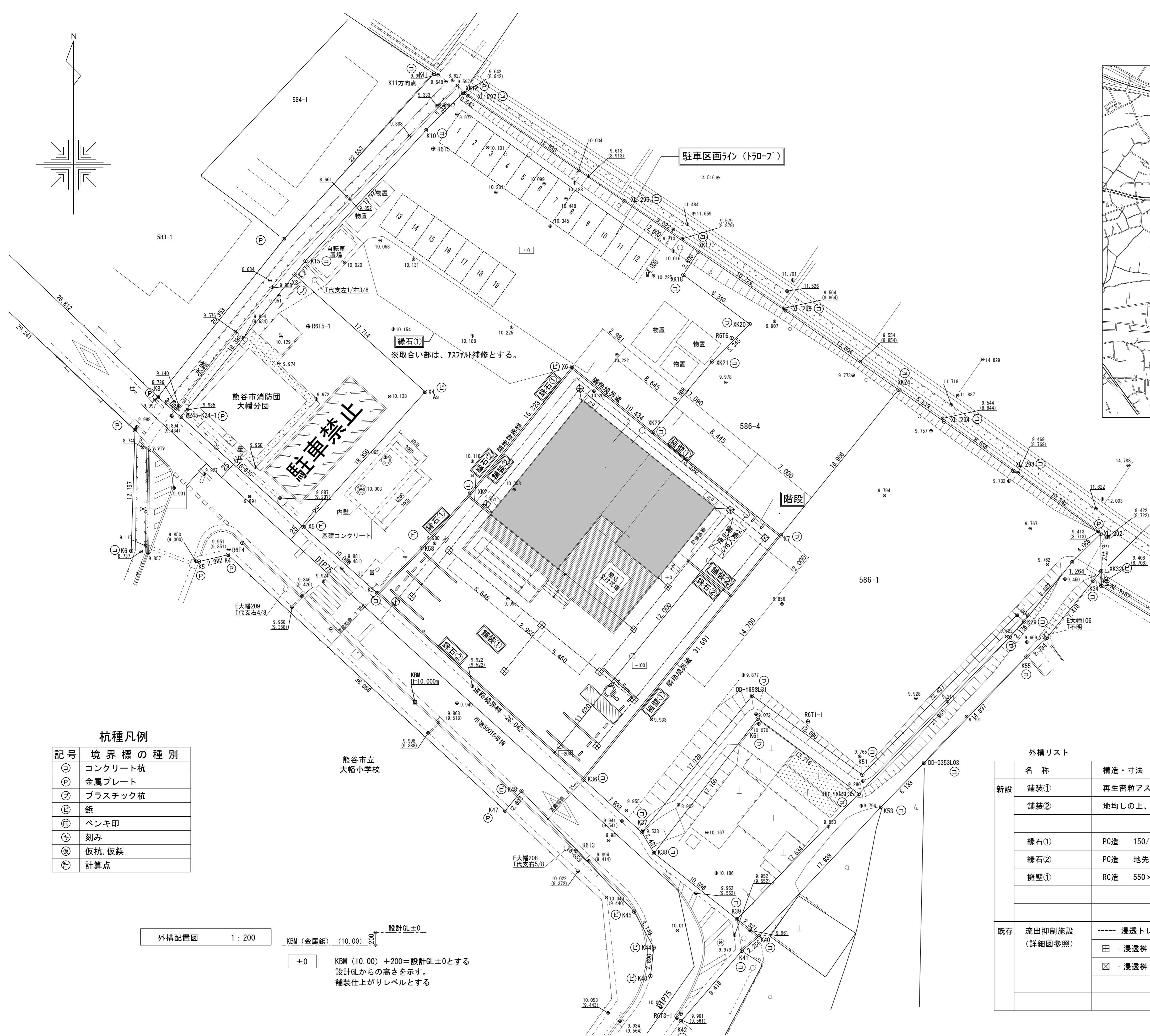
8面



特 記	株式会社 サナクト	熊谷市建設部営繕課	熊谷市大幡公民館解体等工事	図 面 号 数	HM-07
	一級建築士事務所 埼玉県知事登録(4)第10060号 設計者 一級建築士 第267371号 菅野 孝		木造軸組図2	縮 尺	1:50 (A1) 1:100 (A3)



案内図 1 : 10000



杭種凡例

記号	境界標の種別
⊕	コンクリート杭
⊖	金属プレート
⊗	プラスチック杭
⊕	鉄
⊕	ペンキ印
⊕	刻み
⊕	仮杭, 仮鉄
⊕	計算点

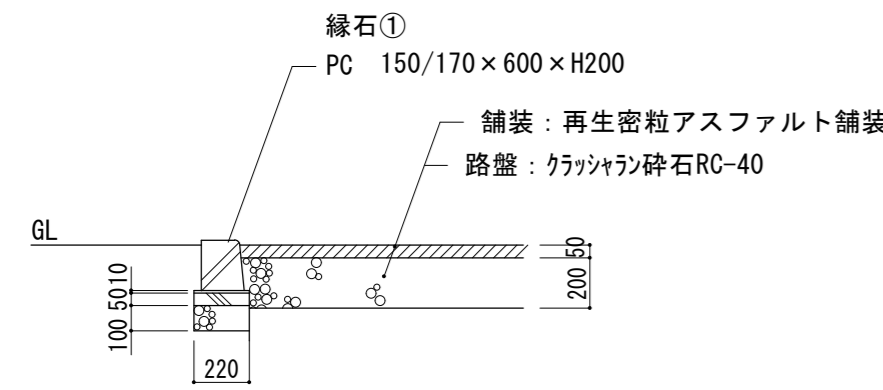
外構配置図 1 : 200

KBM (金属版) (10.00) 200

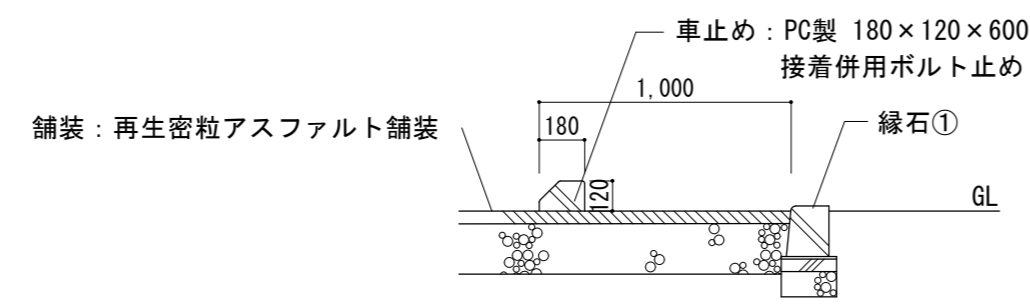
±0
KBM (10.00) + 200 = 設計GL±0とする
設計GLからの高さを示す。
舗装仕上がりレベルとする

外構リスト

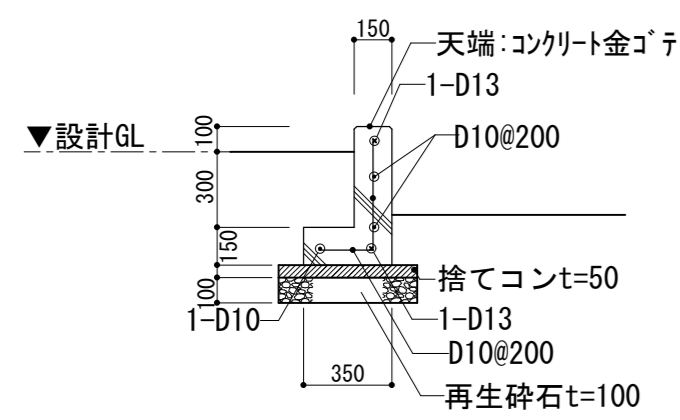
	名称	構造・寸法	備考
新設	舗装①	再生密粒アスファルト舗装 t=50 (A5-20)	駐車区画ライン・車椅子ライン(下地:青・ビアグラ)・車止め
	舗装②	地均しの上、切込砕石 t=100	
緑石①	緑石①	PC造 150/170×200×600	
	緑石②	PC造 地先境界ブロック	
擁壁①	擁壁①	RC造 550×350×150	階段
既存	流出抑制施設 (詳細図参照)	----- 浸透トレンチ: 有孔VU-200φ 田: 浸透柵 (500×500×H=1000) グレーチング蓋 (細目 耐荷重 6t) 区: 浸透柵 (500×500×H=1000) コンクリート蓋	



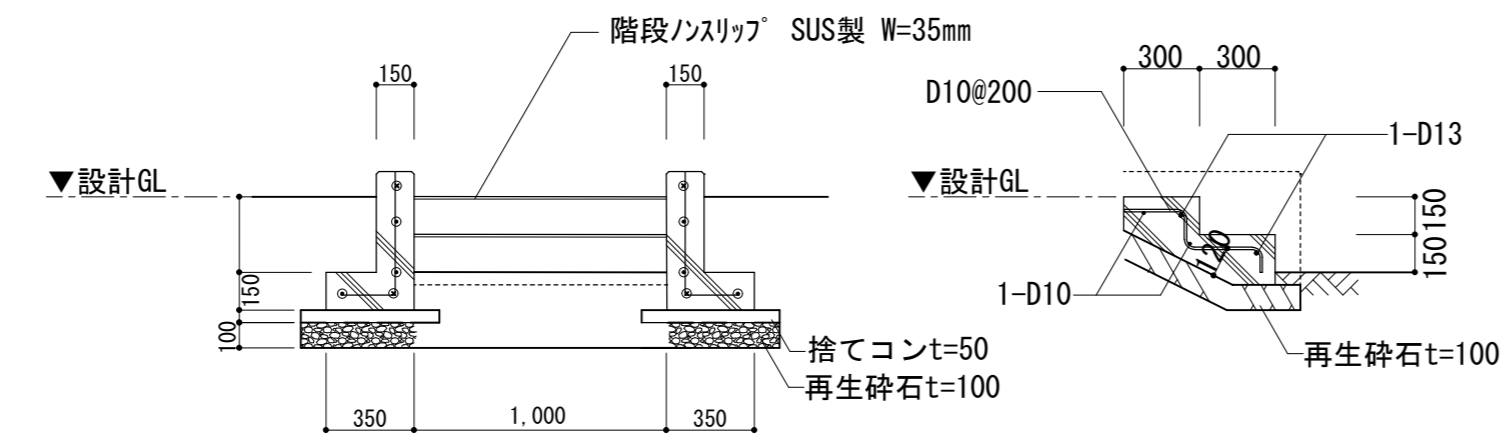
舗装, 緑石①断面詳細図 1:30



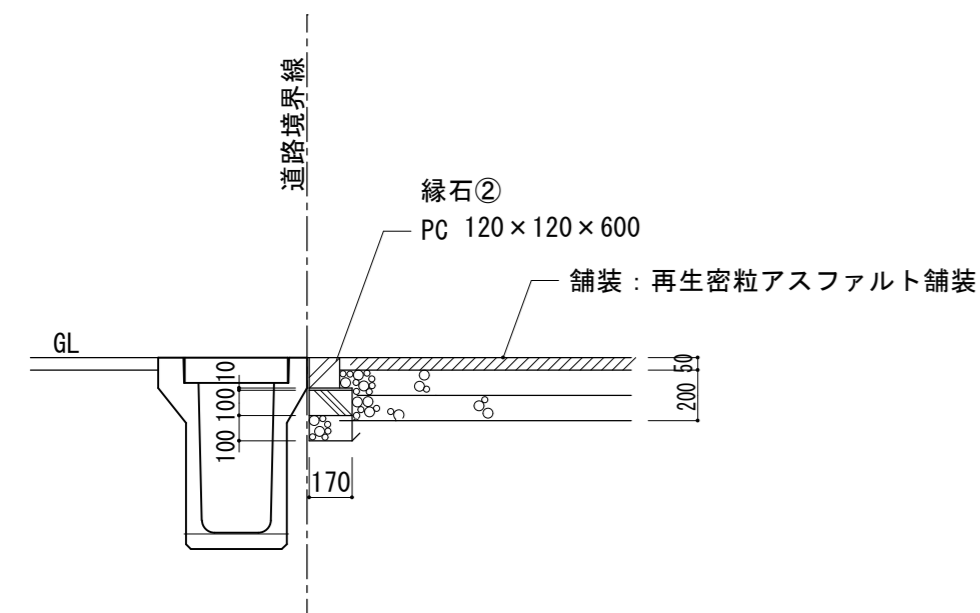
車止め廻り詳細図 1:30



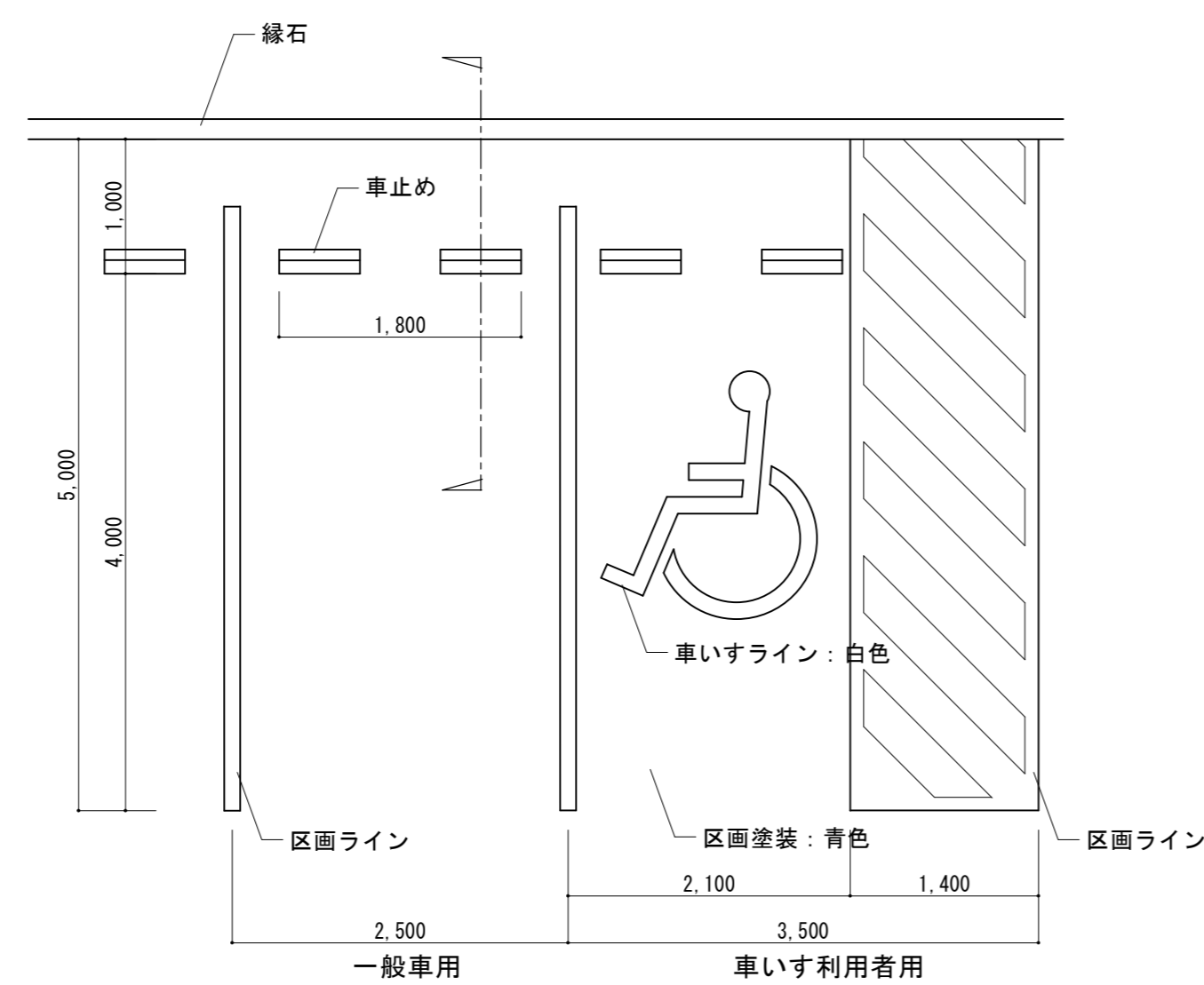
擁壁①断面詳細図 1:30



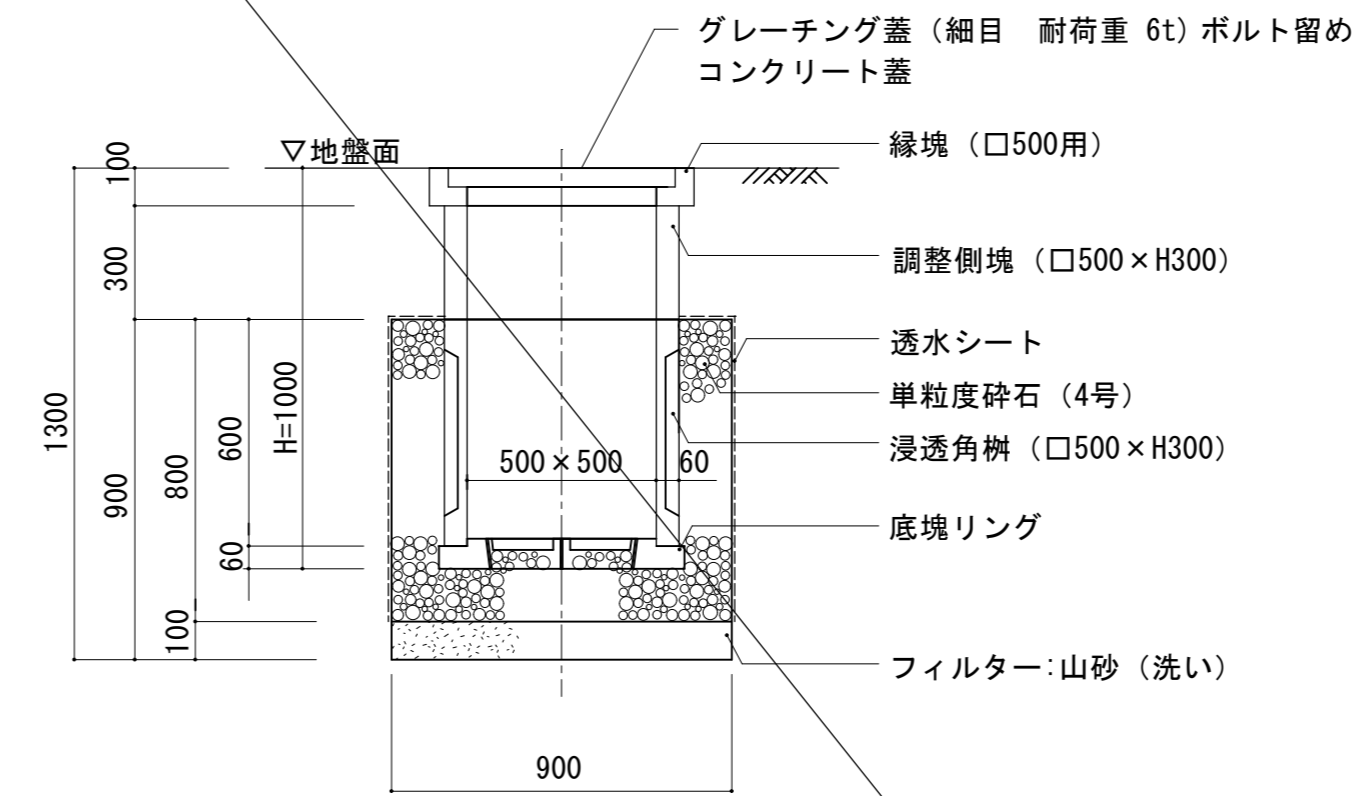
擁壁①階段部 詳細図 1:30



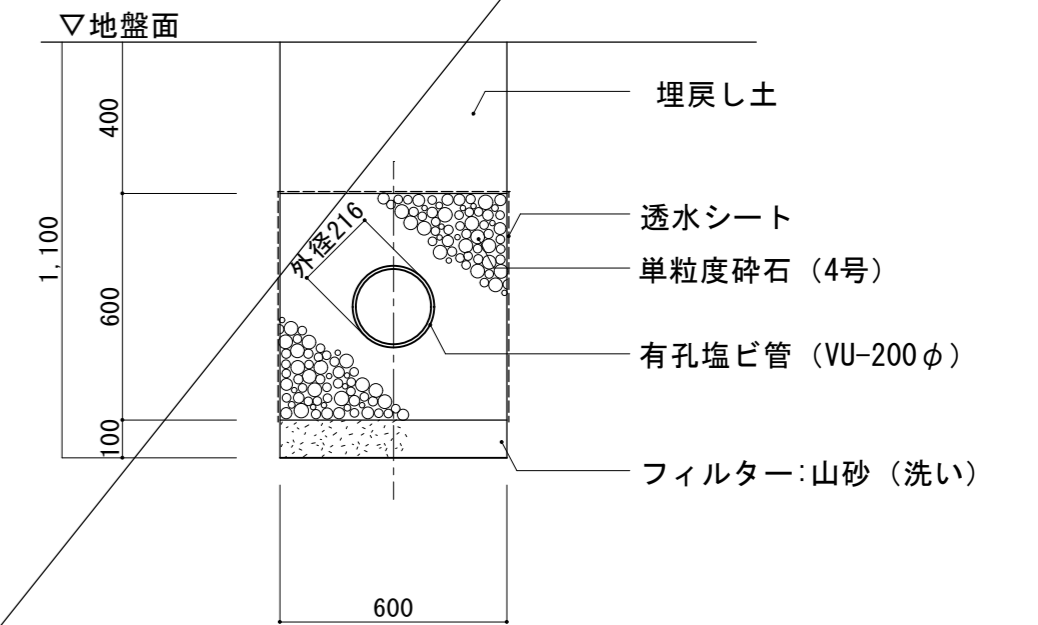
舗装, 緑石②断面詳細図 1:30
道路境界取り合い



駐車区画ライン詳細図 1:50



浸透樹詳細図 1:20



浸透トレンチ詳細図 1:20

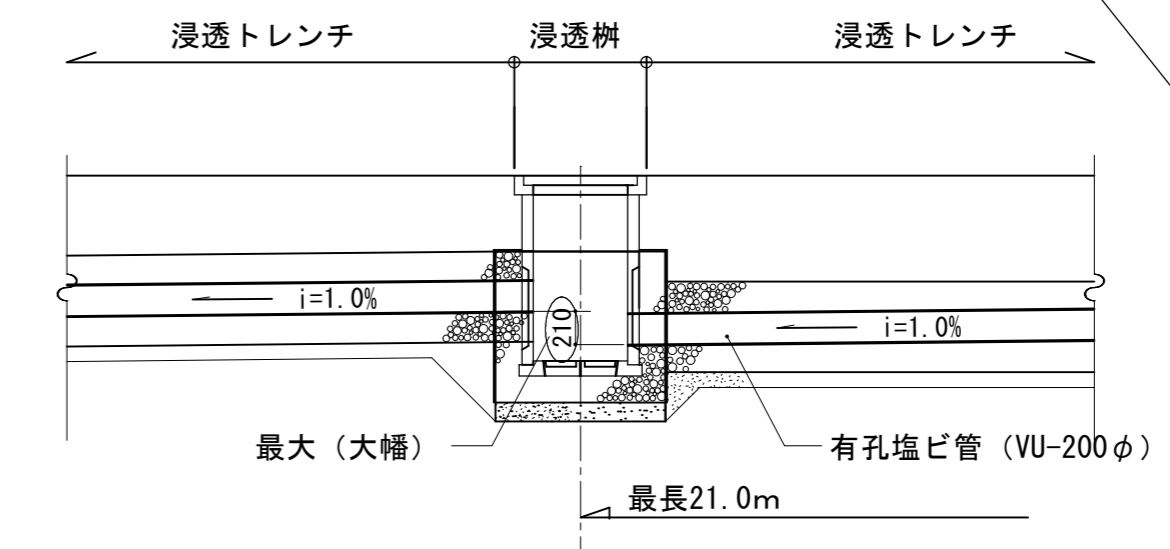
浸透能力: 0.34m³/hr/m

1基当たり材料表

名称	規格	単位	数量
緑塊	□500	(個)	1.0
調整側塊	□500 x H300	(個)	1.0
浸透角樹	□500 x H300	(個)	2.0
底塊リング		(組)	1.0
グレーチング蓋 (細目 耐荷重 6t)	□500用	(枚)	1.0
単粒度砕石	4号	(m ³)	0.47
フィルター: 山砂 (洗い)	洗い砂	(m ²)	0.81
透水シート	294N/5cm以上	(m ²)	3.31

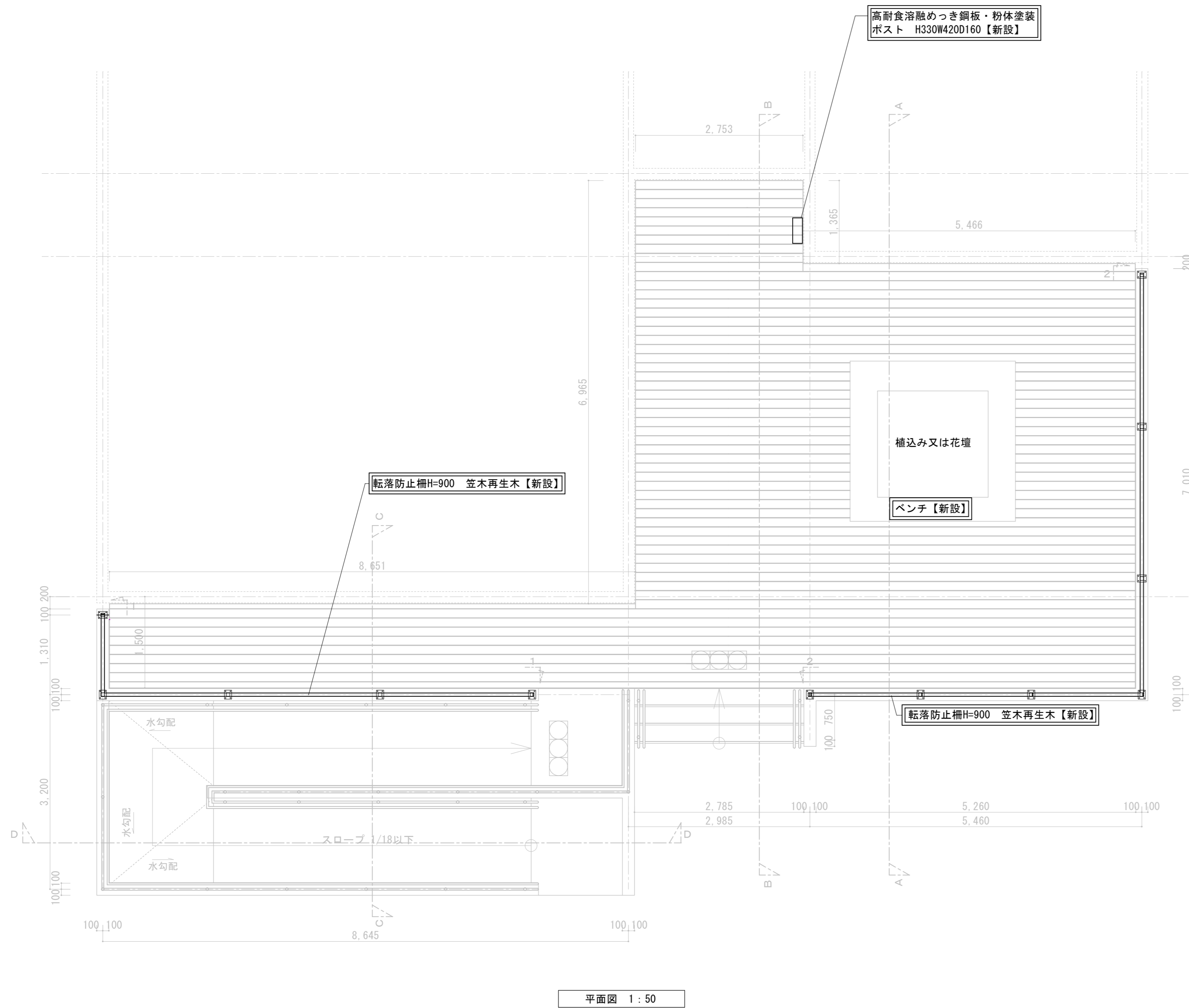
1箇所 (L=10m) 当たり材料表

名称	規格	単位	数量
塩ビ有孔管 (VU)	φ200 x L4.0m	(本)	2.5
単粒度砕石	4号	(m ³)	6.89
フィルター砂	洗滌砂	(m ³)	9.00
透水シート	294N/5cm以上	(m ²)	34.00

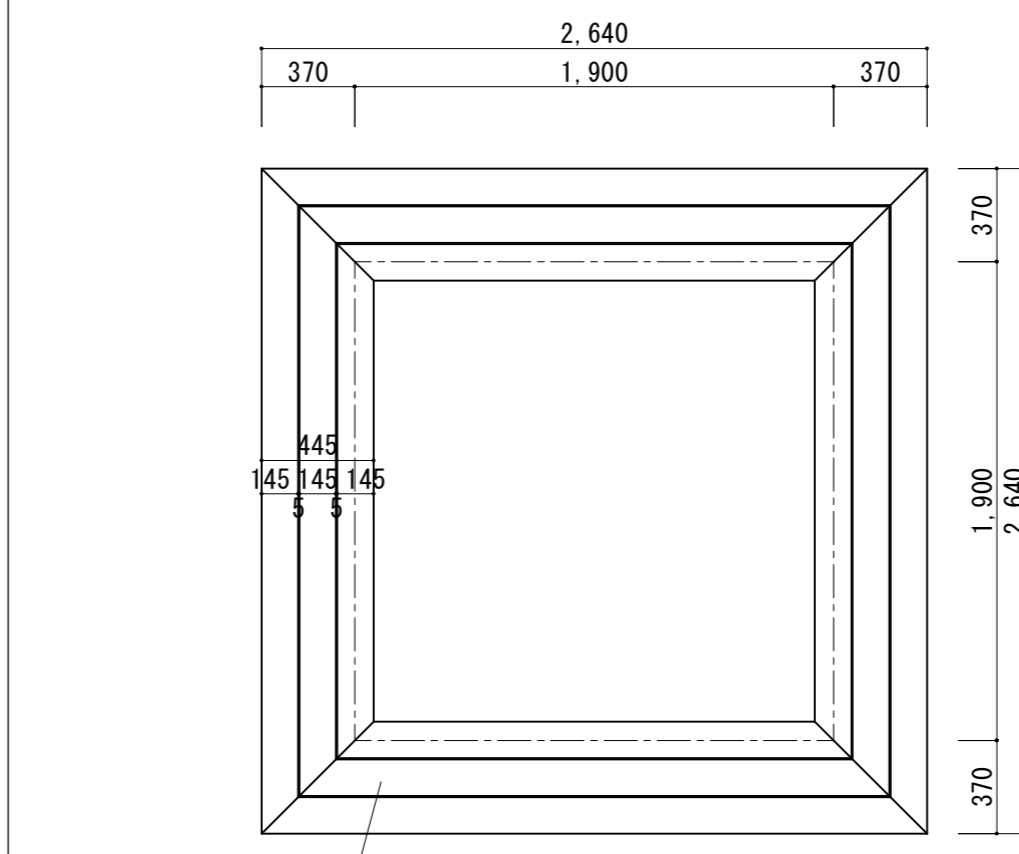


浸透トレンチ接続詳細図 1:50

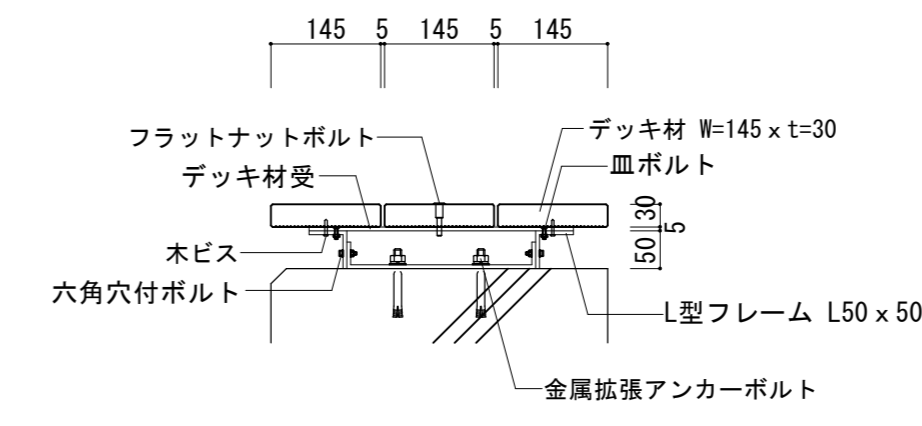
浸透樹の配置は、管径の120倍以下とする。(24.0m以下)



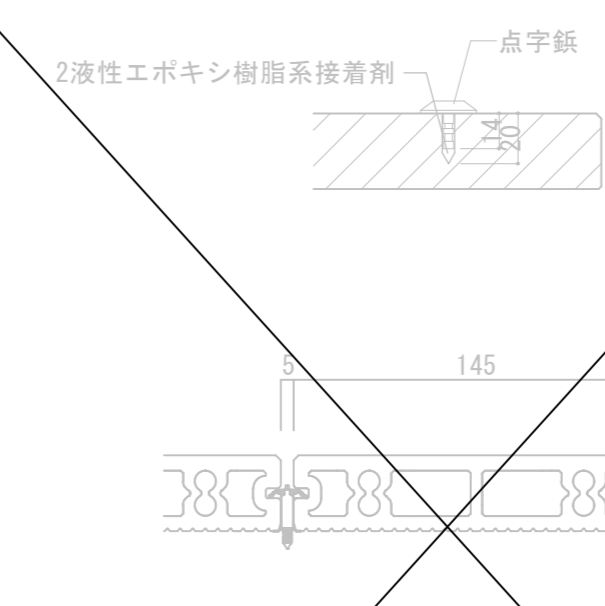
平面図 1:50



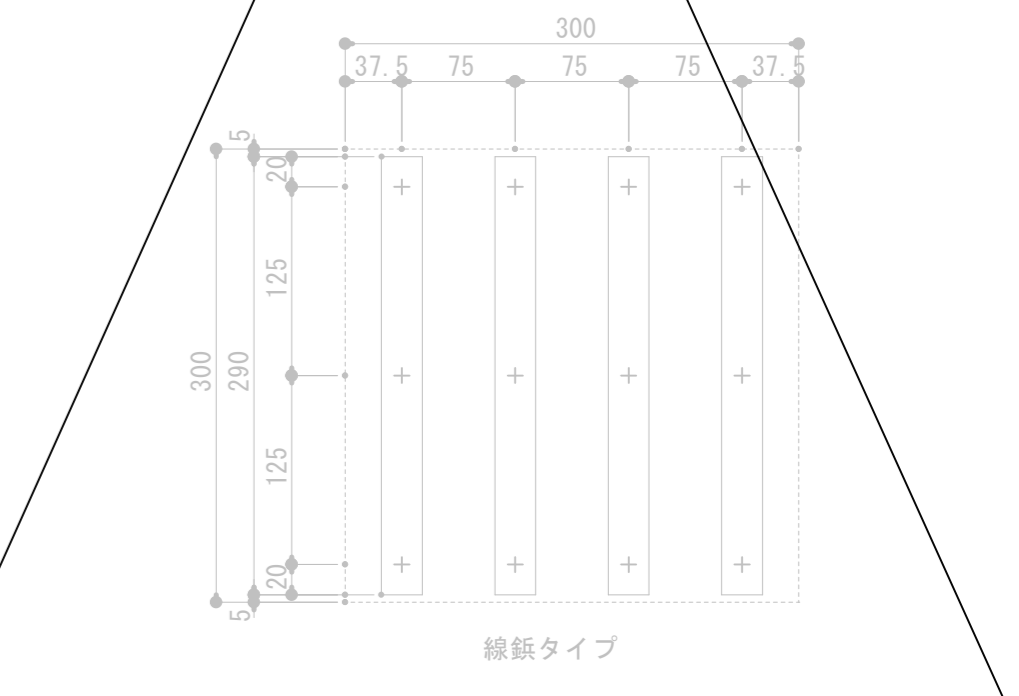
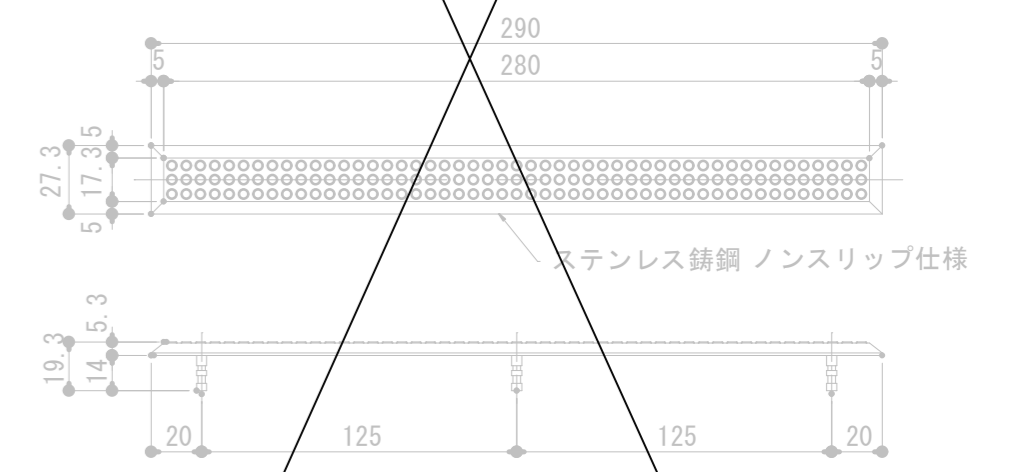
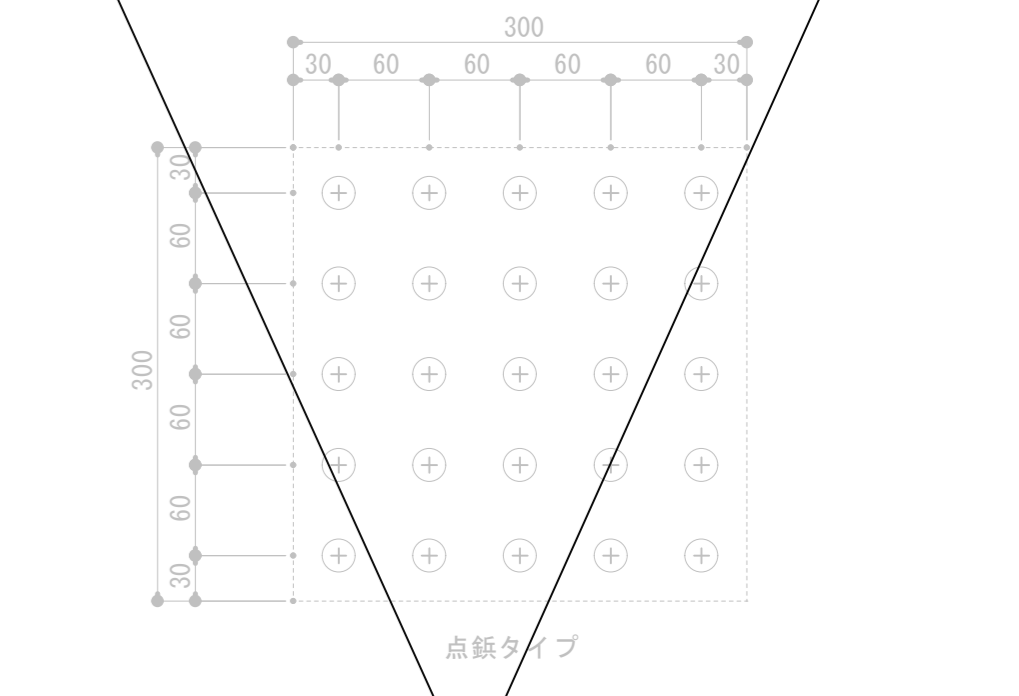
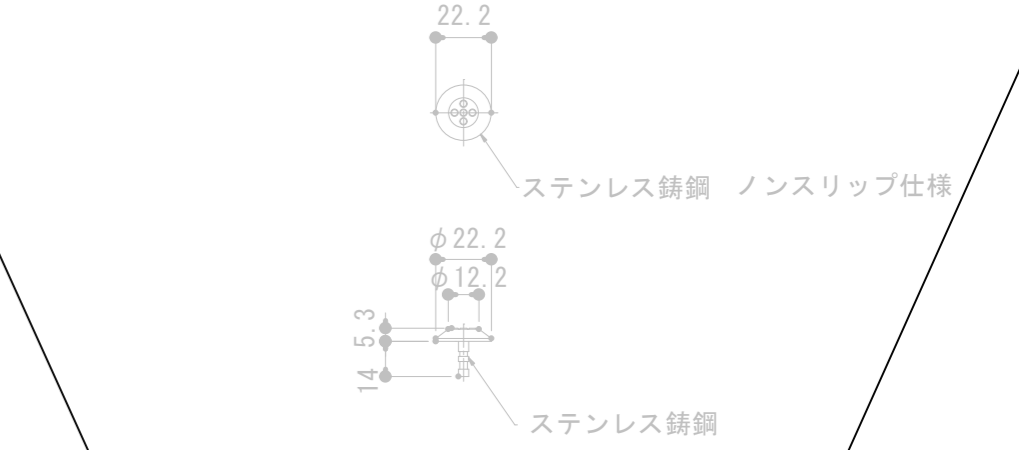
ベンチ部平面図 1:30



ベンチ取付部詳細図 1:10



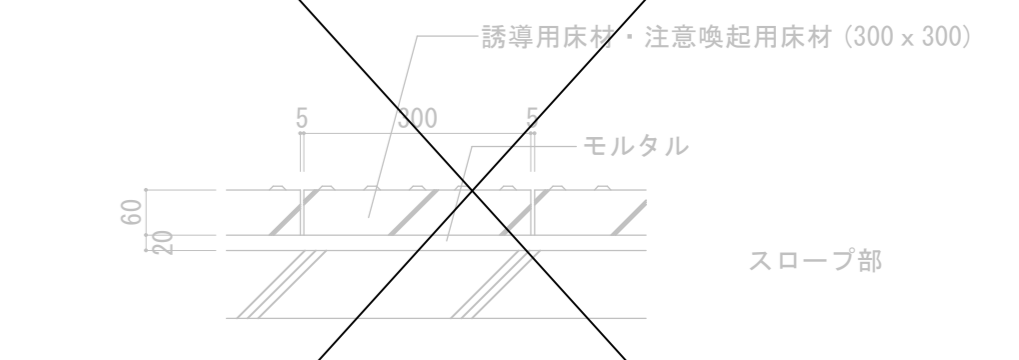
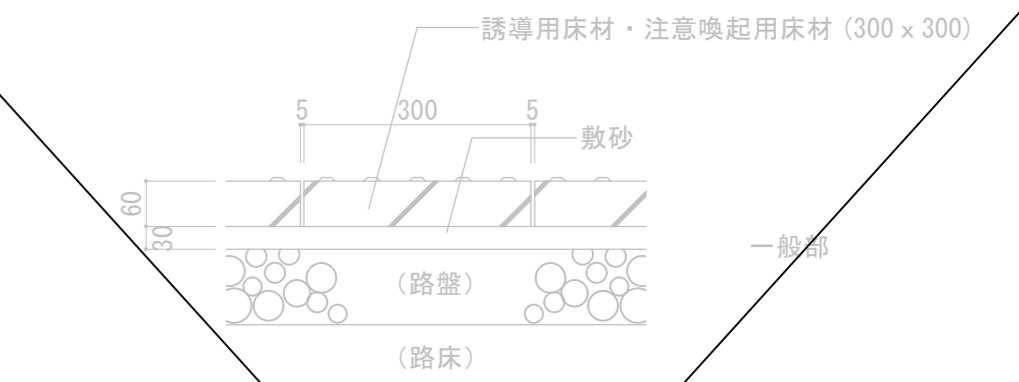
デッキ材断面図 1:3



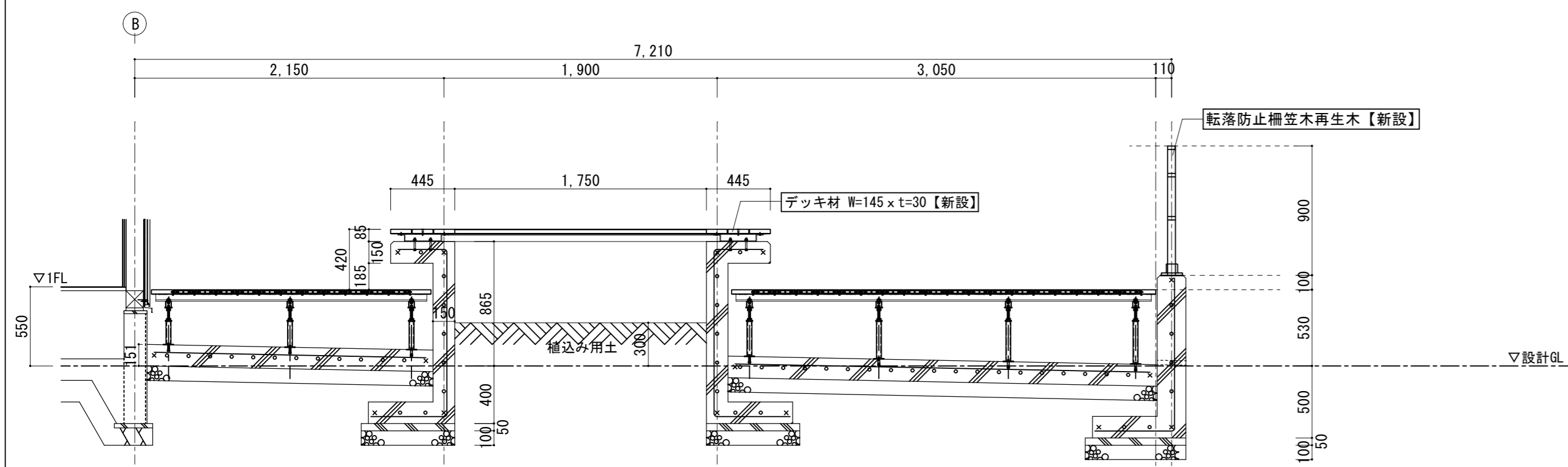
点字紙詳細図 1:3



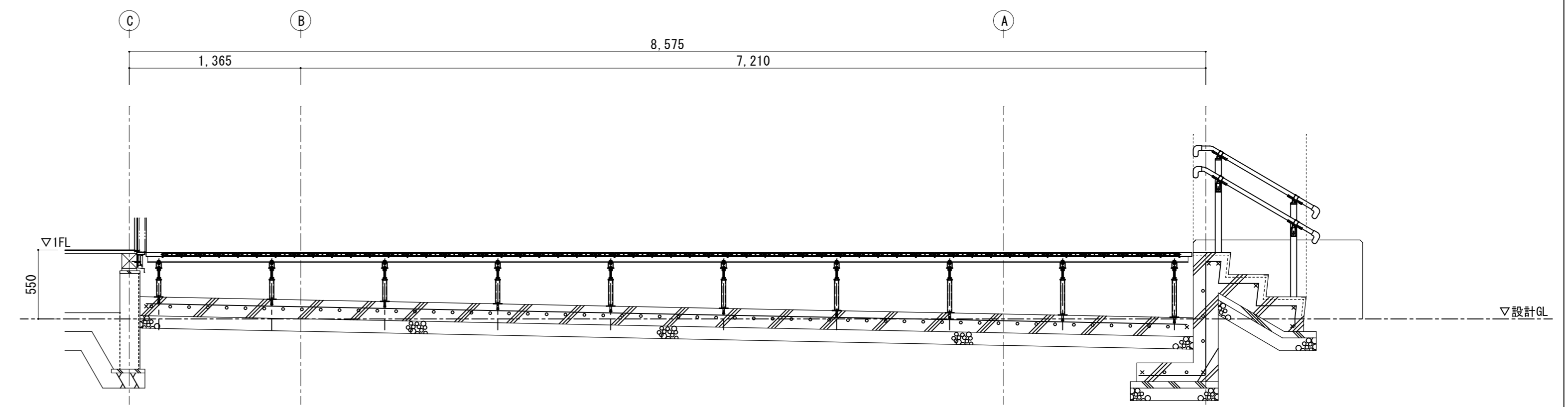
デッキ材断面図 1:3



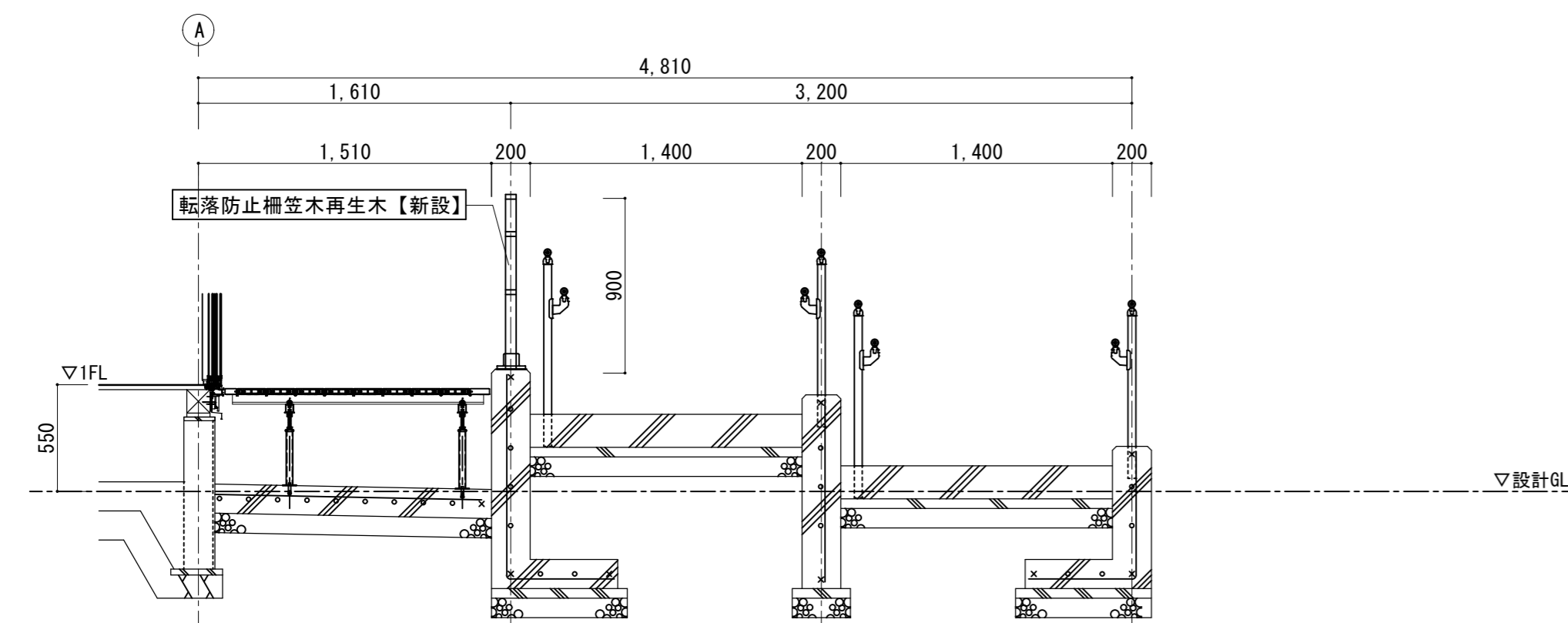
誘導用床材詳細図 1:10



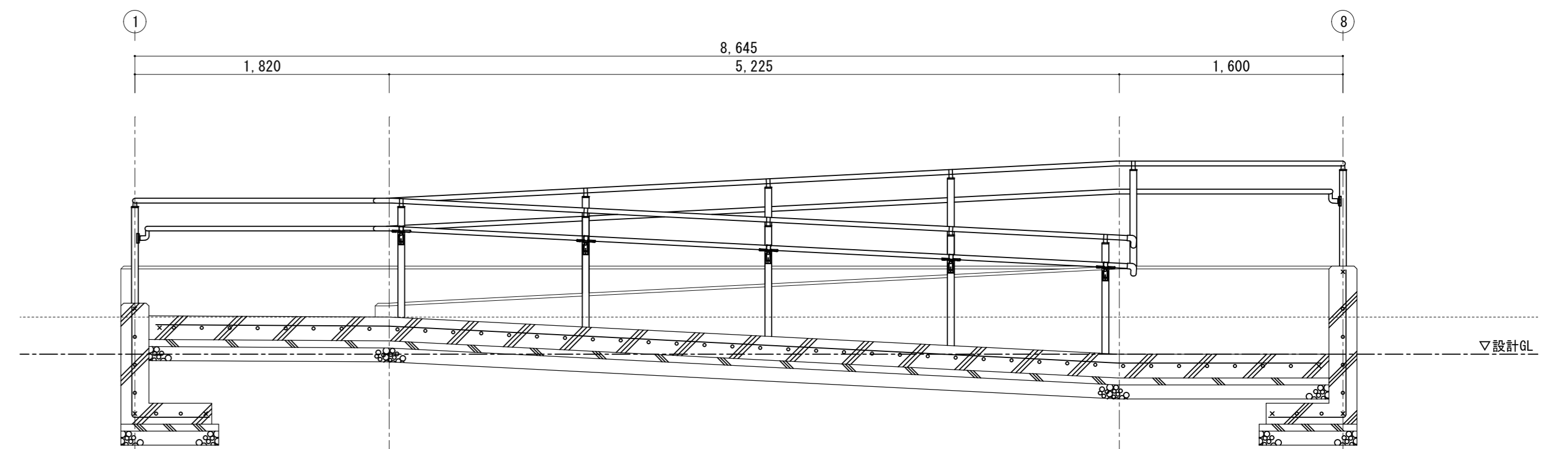
A-A断面図 1:30



B-B断面図 1:30



C-C断面図 1:30



D-D断面図 1:30

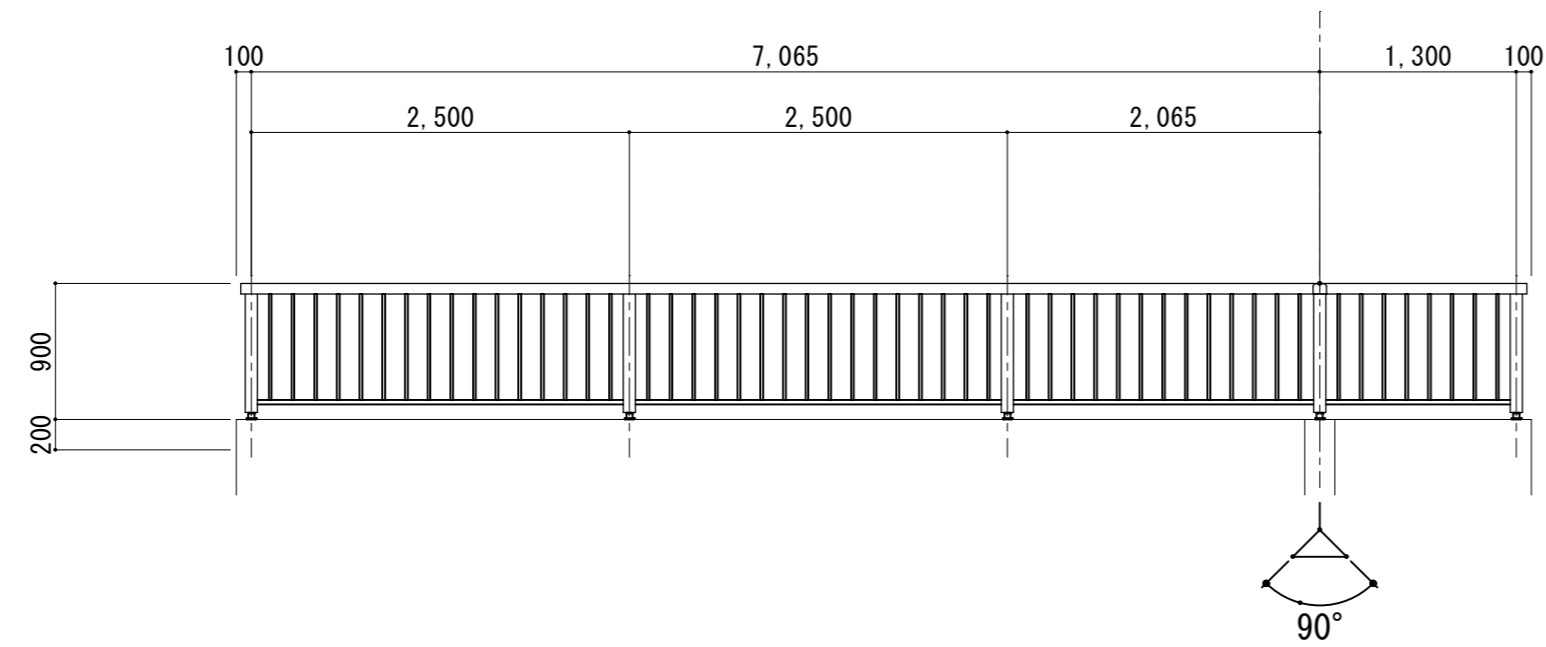
特記

株式会社 サナクト
 一級建築士事務所 埼玉県知事登録(4)第10060号
 設計者 一級建築士 第267371号 菅野 孝

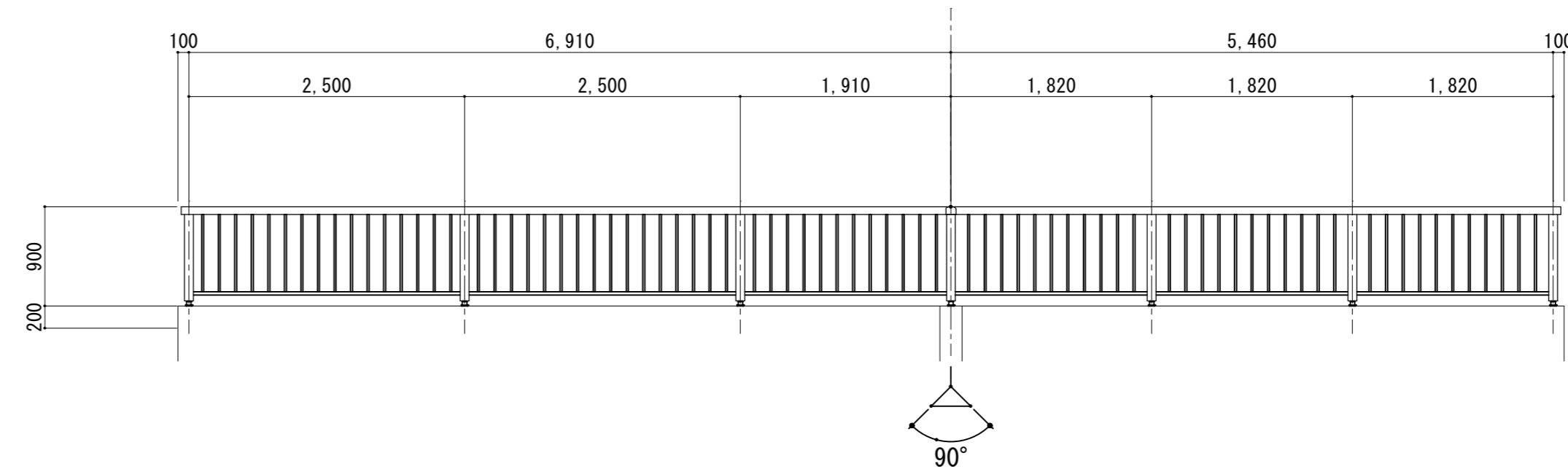
熊谷市建設部営繕課
 担当

熊谷市大幡公民館解体等工事
 外構詳細図3

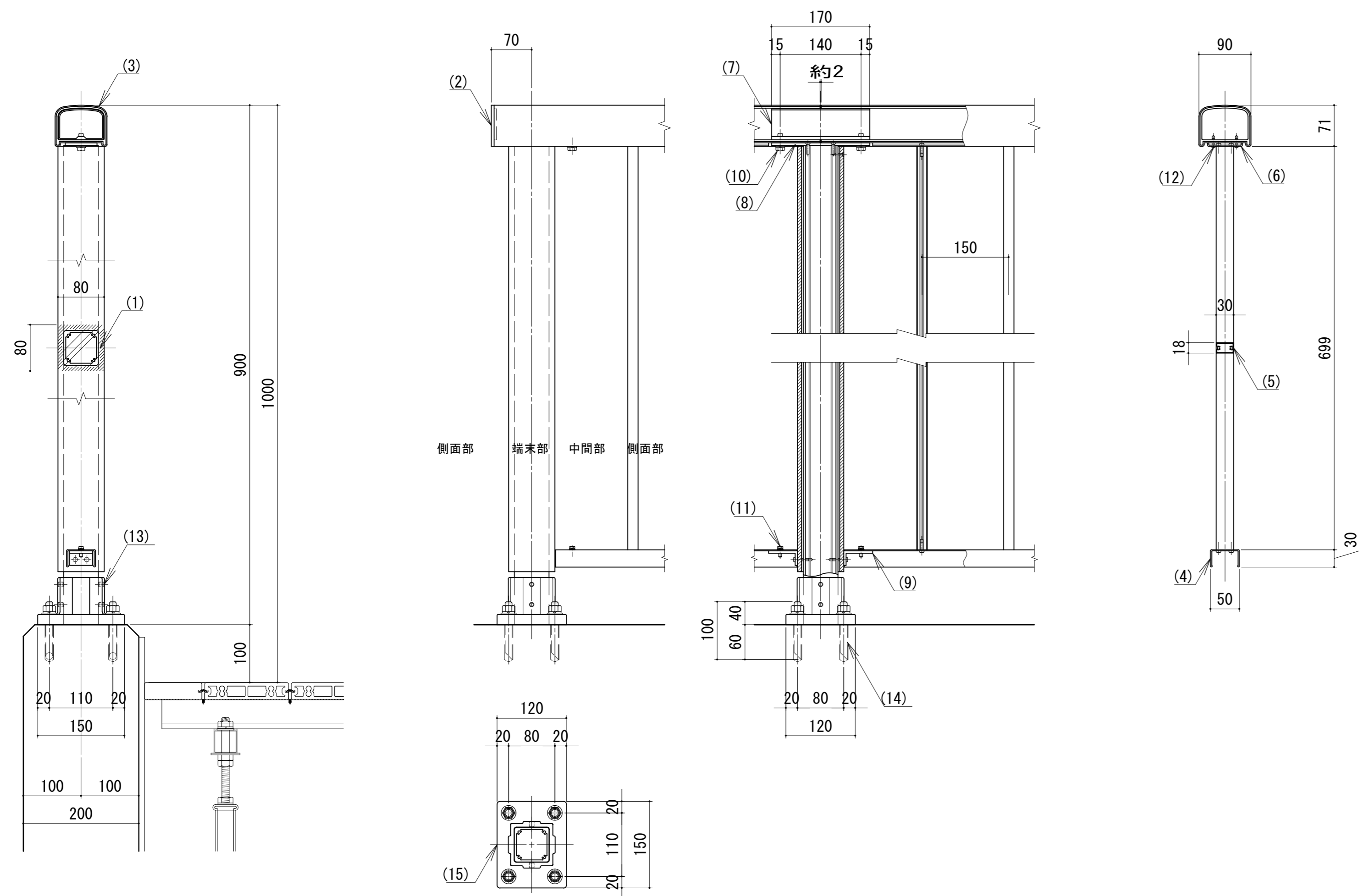
図面番号	HG-04
縮尺	1:30 (A1) 1:60 (A3)



1-1矢視図 1:50



2-2矢視図 1:50



転落防止柵取付詳細図 1:6

部番	名称	形状	材質	表面処理
(1)	支柱	□60×60×3.5 t	A6005CS-T5	陽極酸化塗装複合被膜 (MB色)
	支柱化粧材	□80×80	再生木材	サンディング仕上 (ダークカラー)
(2)	笠木端キャップ	90×71×5.0 t	A6063S-T5	再生木材表面サンディング仕上
(3)	笠木	90×71 (86×67)		陽極酸化塗装複合被膜 (マットブラウン色)
(4)	下棧	50×30×2.0 t		—
(5)	格子	□30×18	SUS	—
(6)	格子レール	60×6×2.0 t		ポリエステル系粉体塗装 (マットブラウン色)
(7)	インナースリーブ	L=170	ADC	—
(8)	笠木クリップ	170×55×5.0 t		—
(9)	下棧クリップ	L50×25×4.0 t	SUS	—
(10)	六角ボルト	M8×25 B, W, SW		—
(11)	六角穴付止ネジ	M5×15 B, W, SW	ADC	—
(12)	ピアスピス (ナベ)	φ4×19 B		—
(13)	六角穴付止ネジ	M8×10B	ADC	—
(14)	樹脂系アンカー	M12×100 B, N, 2W, SW		—
(15)	ベースボックス	120×150	ADC	ポリエステル系粉体塗装 (MB色)

※ 製品は、メーカーの指定する損害賠償責任保険に加入しているものとする。

動力分電盤P-1(鋼板製)
600×520×160
主幹 ELB3P75A×1
P-3 MCB3P40A×1
No.1エアコン モーターブレーカ17A×1
No.2エアコン モーターブレーカ17A×1
1次側 CV22⁰-3C(FEP30)
2次側 CV14⁰-3C(露出)
CV8⁰-3C(FEP30)
CV8⁰-3C(FEP30)
IV2.0mm×1(FEP30)
VVF2.0-3C×2(PF16)

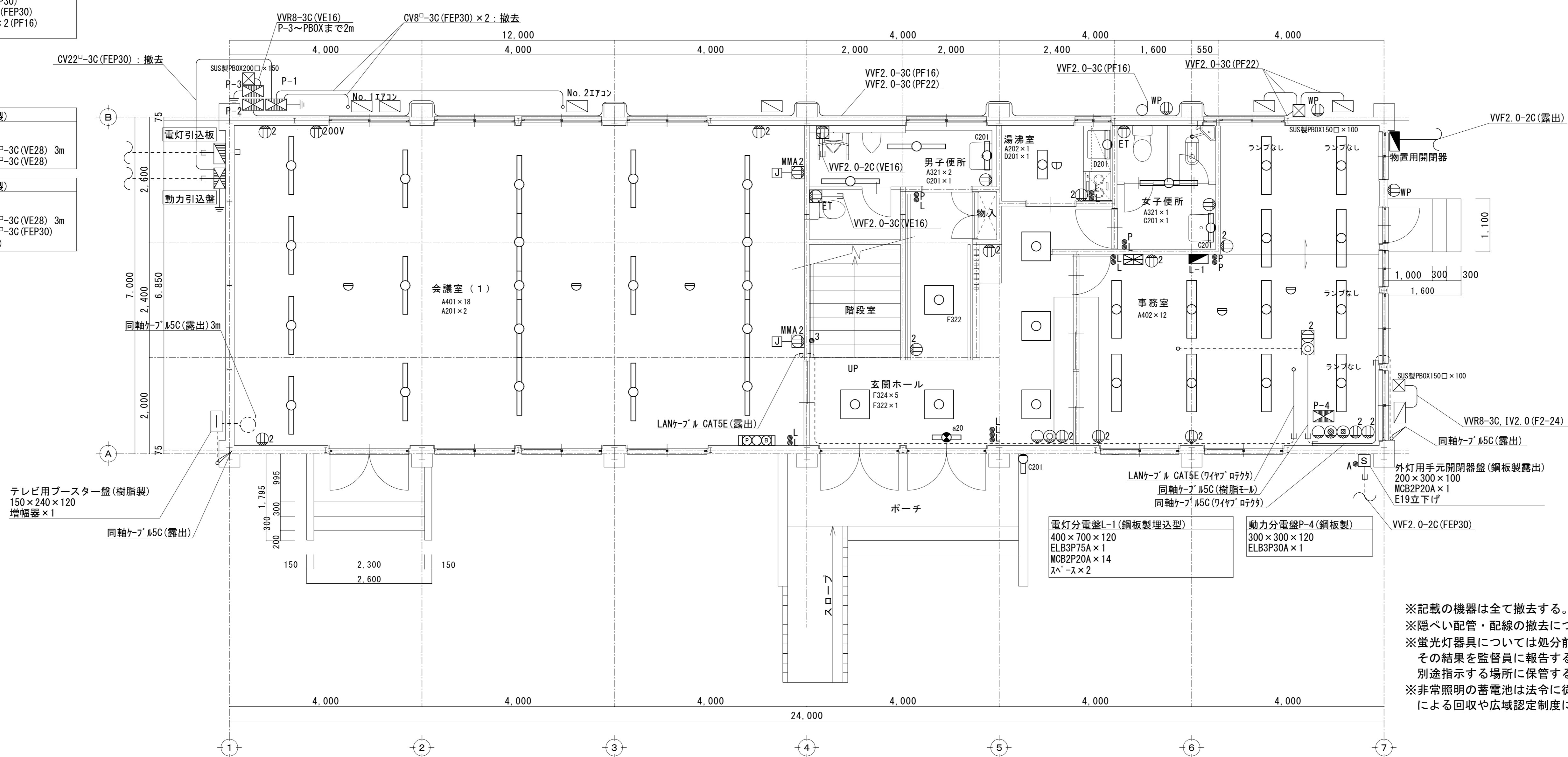
動力分電盤P-2(樹脂製)
320×280×140
MCB3P20A×2
1次側P-1~P-2 VVF2.0-3C×2(PF16)
2次側P-2~PBOX VVF2.0-3C×2(PF16.22)

動力分電盤P-3(鋼板製)
500×830×230
主幹 ELB3P60A×1
浄化槽 MCB3P15A×1
P-4 MCB3P30A×1
1次側P-1~P-3 CV14⁰-3C
2次側P-3~P-4 VVR8-3C
P-3~浄化槽 VVF1.6-3C×2(E19)
IV2.0mm×1(E19)

物置用開閉器盤(樹脂製)
300×300×100
物置1 MCB2P20A×1
露出タイプスイッチP15A×1
VVF2.0-2C(露出)

電灯引込板(樹脂製)
300×400×50
WHスレ×1
1次側引込線 CV38⁰-3C(VE28) 3m
2次側引込線 CV22⁰-3C(VE28)

動力引込盤(鋼板製)
300×500×200
WHスレ×1
1次側引込線 CV38⁰-3C(VE28) 3m
2次側引込線 CV22⁰-3C(FEP30)
接地線IV2.0(VE16)

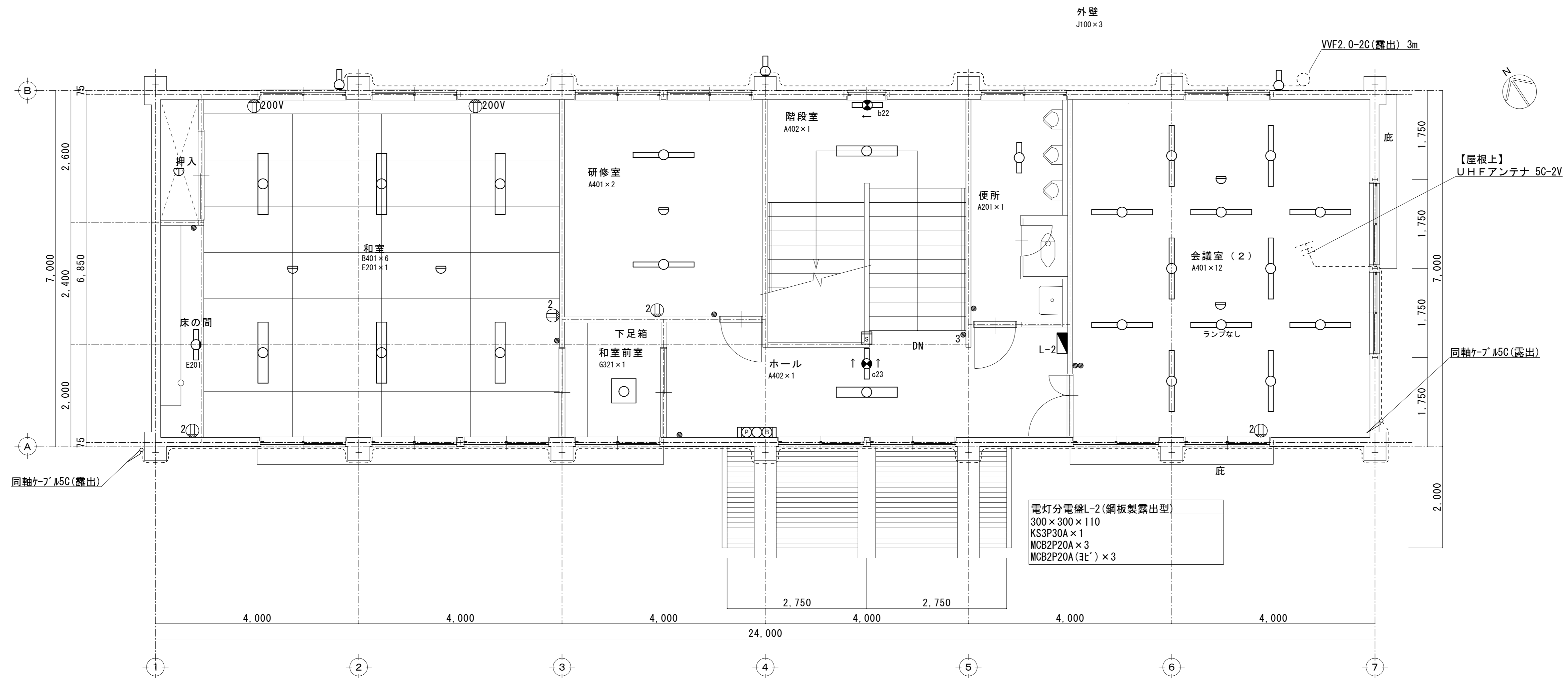


※記載の機器は全て撤去する。
※隠ぺい配管・配線の撤去については建屋の解体と一体で行う。
※蛍光灯器具については処分前に安定器のPCB含有有無を調査し、その結果を監督員に報告すること。PCBを含有する安定器は別途指示する場所に保管する。
※非常照明の蓄電池は法令に従い適切に処分すること(一般社団法人JBRCによる回収や広域認定制度によるリサイクル等)。

1階平面図 S=1/50

記号	名称	仕様	備考	記号	名称	仕様	備考	記号	名称	仕様	備考
⊠	動力分電盤			⊕	コンセント	2P15A×1		⊖	ブランクプレート		
⊠	手元開閉器盤	露出型		⊕ ₂	コンセント	2P15A×2		⊖	ノズルプレート		
⊠	電灯分電盤			⊕ET	コンセント	2P15A×1 接地端子付		⊖	直列ユニット		
⊠	ブルボックス	露出型		⊕WP	コンセント	2P15A×2 接地極付		⊖	光コンセント		
●	スイッチ	1P15A×1		⊕	コンセント	2P15A×1	樹脂製露出スイッチボックス	⊖	定温式スリット型感知器		
∞	スイッチ	1P15A×2		⊕ET	コンセント	2P15A×1 接地端子付	樹脂製露出スイッチボックス	⊖	差動式スリット型感知器		
PL	スイッチ	1P15A×2	P:位置表示 L:通電表示	⊕ ₂	コンセント	2P15A×2	MMA1個用スイッチボックス	⊠	煙感知器		
PP	スイッチ	1P15A×2	P:位置表示	⊕200V	コンセント	2P20A×1		⊠	機器収容箱	発信機・ベル・表示灯	
LL	スイッチ	1P15A×2	L:通電表示	⊕ ₂	コンセント・ノズルプレート	2P15A×2		⊠	P型2級受信機 5窓		
LLL	スイッチ	1P15A×3	L:通電表示	⊕	MMAジャンクションボックス			⊠	空調室外機		設備図参照
● ₃	スイッチ	3W15A×1		≡	接地極(銅覆鋼棒)						
● _A	自動点滅器	100V3A									

A	富士型照明器具	B	トラフ型LED照明器具	C	ブラケット	D	流し元灯	E	壁掛型照明器具	F	直付型照明器具	G	直付型照明器具	J	投光器								
A201	FL20W-1灯用	3台	B401	LSS1-4-23 LN9	6台	C201	FL20W-1灯用	3台	D201	FL20W-1灯用	1台	E201	FL20W-1灯用	1台	F322	FHP32W-2灯用	1台	G321	FCL30W相当LED	1台	J100	HID100W相当LED	3台
A202	FL20W-2灯用	1台													F324	FHP32W-4灯用	5台						
A321	HF32W-1灯用	3台																					
A401	FL40W-1灯用	3台																					
A402	FL40W-2灯用	1台																					

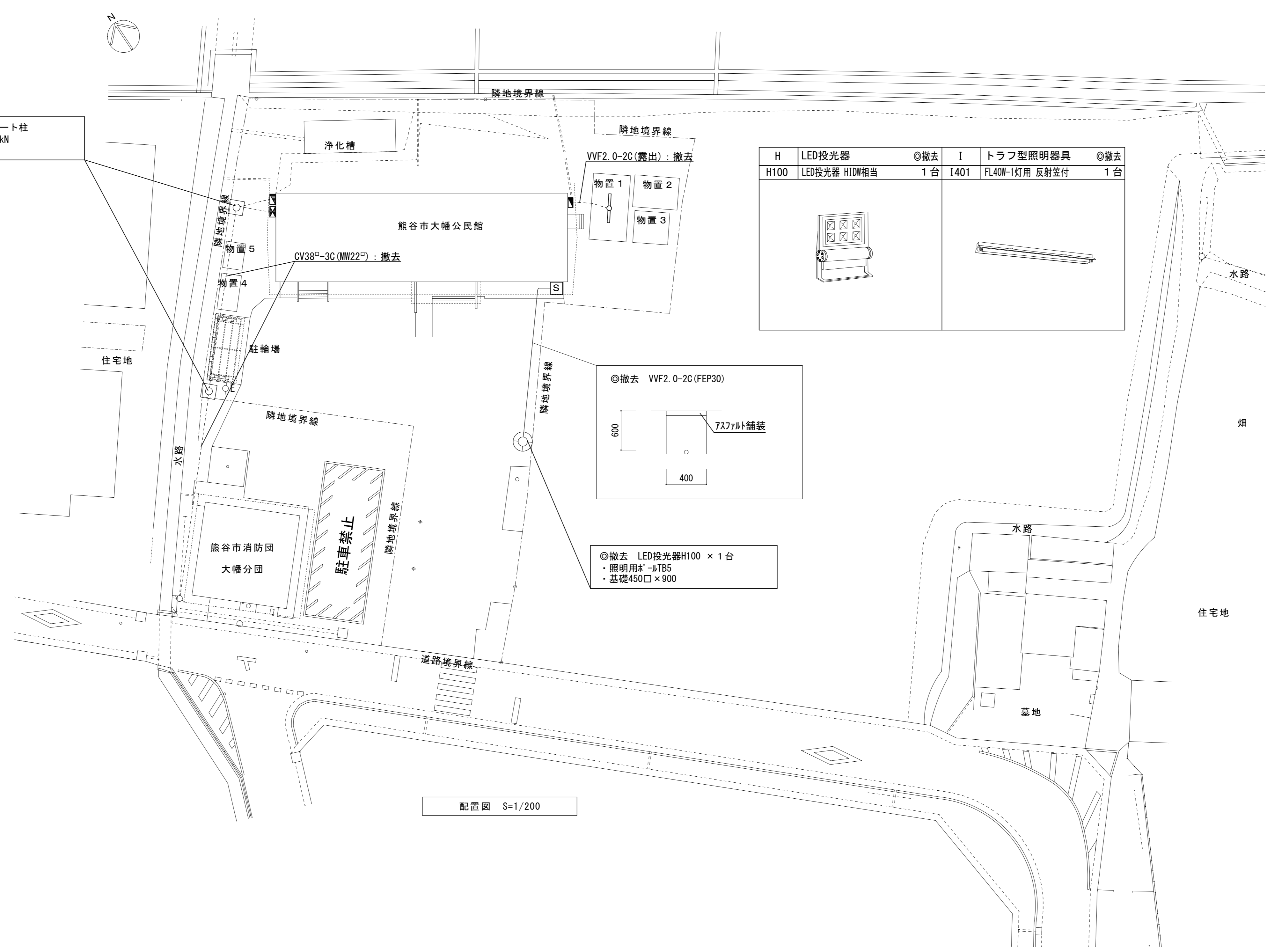


2階平面図 S=1/50

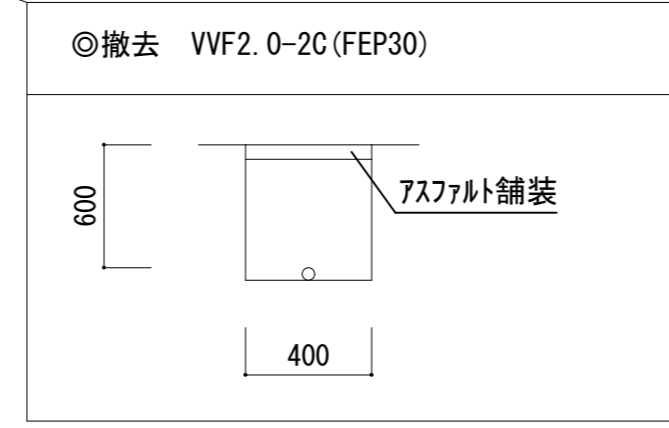
a	LED誘導灯 (避難口)	b	LED誘導灯 (避難通路)	c	LED誘導灯 (避難通路)			
a20	SH1-FSF20-BL リニューアルプレート付	1台	b22	ST1-FBF22-BL リニューアルプレート付	1台	c23	ST1-FSF23-BL リニューアルプレート付	1台

※記載の機器は全て撤去する。
 ※隠ぺい配管・配線の撤去については建屋の解体と一体で行う。
 ※蛍光灯器具については処分前に安定器のPCB含有有無を調査し、その結果を監督員に報告すること。PCBを含有する安定器は別途指示する場所に保管する。
 ※非常照明の蓄電池は法令に従い適切に処分すること（一般社団法人JBRCによる回収や広域認定制度によるリサイクル等）。

◎撤去 引込用コンクリート柱
 ・一種 CP-8m-14cm-2.0kN
 ・基礎600□×1100

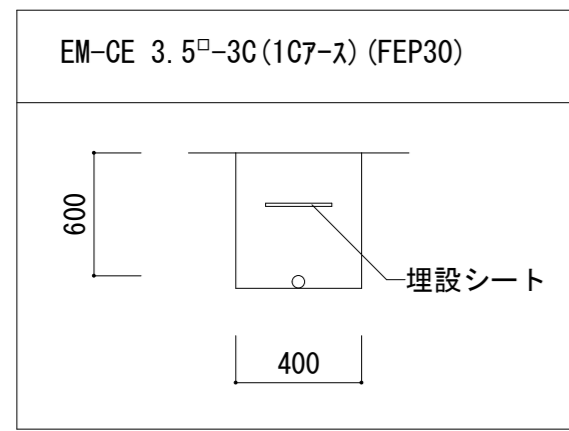


H	LED投光器	◎撤去	I	トラフ型照明器具	◎撤去
H100	LED投光器 HIDW相当	1台	I401	FL40W-1灯用 反射笠付	1台



◎撤去 LED投光器H100 × 1台
 ・照明用ホコリB5
 ・基礎450□×900

配置図 S=1/200

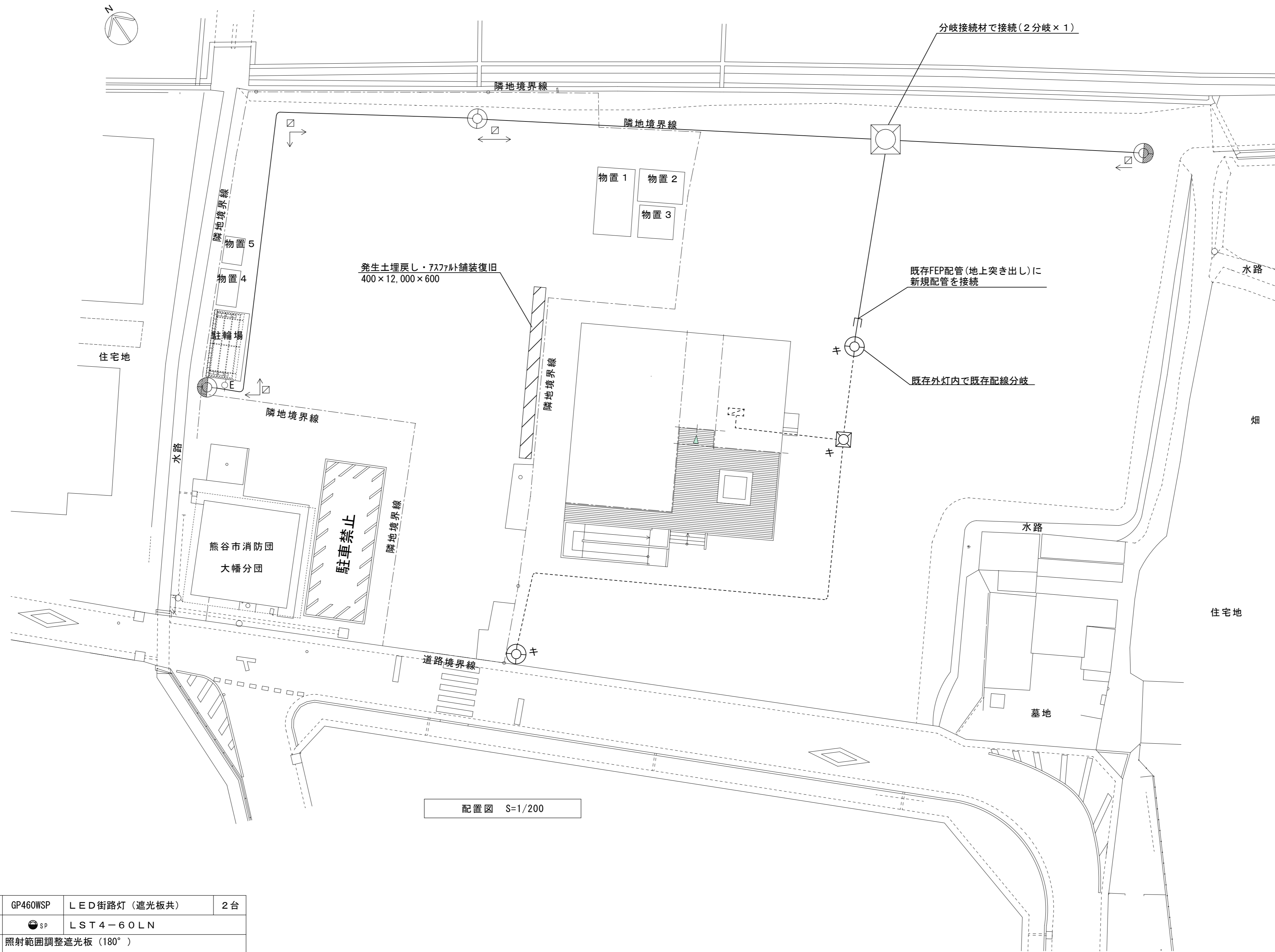


掘削断面図 NOSCALE

※良質発生土埋戻し

- ◎新設
- ハンドホール
H2-6 900×900×600H
R2K-60 (600φ 8t)
 - 地中埋設標 (コンクリート製)

キ は既存機器を示す。



配置図 S=1/200

GP460W	LED街路灯	1台	GP460WSP	LED街路灯 (遮光板共)	2台
◎	LST4-60LN		●SP	LST4-60LN	
			照射範囲調整遮光板 (180°)		
ポール: TB4 (コンクリート基礎 600×600×H1300)			ポール: TB4 (コンクリート基礎 600×600×H1300)		

特記

熊谷市建設部営繕課		図面番号	HE-05
担当者	熊谷市大幡公民館解体等工事	縮尺	1:200, 2500 (A1) 1:400, 5000 (A3)
図面名	構内配電線路図 (改修後)		

	<p>(3) 特に騒音振動など周辺に甚大な影響のある工事については、原則として学校では学校運営に支障を与えない期間、その他の施設では施設管理者と打合せして設定すること。</p> <p>(4) F F式温風暖房機の撤去・再取付、新規設置について F F式温風暖房機の一時的取外し、再取付、新規設置及び動作確認は、製造者又は製造者認定の代理店等に所属する「石油機器技術管理士」の登録を受けたもの（(一財)日本石油燃焼機器保守協会）が行い、記録を整備すること。なお、動作確認は、一時的取外し前、再取付け後の双方で行うこと。新規設置の場合は設置後に行うこと。</p>	<p>18 空気熱源ヒートポンプ空調機</p> <p>標準仕様書によるほか下記による。 (1) 圧縮機原動機の制御方式 ※回転数制御 ・ オンプ制御 (2) 冷媒 HFC (R 4 1 0 A、R 3 2又はR407C) (注1) R 4 1 0 Aを採用した場合、冷媒配管は機器の設計圧力を満足するものを使用すること。 (注2) R 3 2を採用した場合、冷媒配管の新熱材被覆銅管は難燃性のものを使用すること。 (3) 埼玉県グリーン調達推進方針で掲げる成績係数を満たす機器とする。</p>	<p>12 擬音装置</p> <p>・女子用トイレブースに設置する。(※本工事 ・ 別途工事) ・男子用トイレブースに設置する。(※本工事 ・ 別途工事) ・パリアフリートイレブースに設置する。(※本工事 ・ 別途工事) 衛生設備器具の適用等の必要なことは別途衛生設備器具表による。</p>	<p>2 洗面器等の排水管 洗面器等に直結する排水管は、器具トラップより1サイズアップする。</p> <p>3 満水試験継手 3階以上にわたる排水立等には、各階毎に次の継手を設ける。 ・掃除口付きサケット ※満水試験用掃除口ソケット</p> <p>4 排水の通称 別紙仕様による。</p>																																																																																	
<p>1 設計温度</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="3"></th> <th colspan="4">外 気</th> <th colspan="4">屋 内</th> </tr> <tr> <th colspan="2">一般系統</th> <th colspan="2">一般系統</th> <th colspan="2">一般系統</th> <th colspan="2">一般系統</th> </tr> <tr> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏 期</td> <td>37.1℃</td> <td>47.1%</td> <td>28℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>冬 期</td> <td>0.5℃</td> <td>49.4%</td> <td>20℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※外気処理用エアコンの屋内設定値は、夏期湿度50%とする。</p>		外 気				屋 内				一般系統		一般系統		一般系統		一般系統		温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	夏 期	37.1℃	47.1%	28℃	%	℃	%	℃	%	冬 期	0.5℃	49.4%	20℃	%	℃	%	℃	%	<p>1 長方形ダクト ※低圧ダクト（亜鉛鉄板製） 長辺の長さ1500mm以下 ※共板工法 ・ スライドオンフランジ工法 ・ アングルフランジ工法 ・ アングルフランジ工法 それ以外の部分 ・高圧1ダクト（亜鉛鉄板製） ・高圧2ダクト（亜鉛鉄板製） ・ステンレス製ダクト（・A区分 ※B区分） ・塩ビ製ダクト（・A区分 ※B区分）</p> <p>2 円形ダクト ※スパイラルダクト（※亜鉛鉄板製 ・ ステンレス製） ・ 硬質塩化ビニル管（VU） ・耐火二層換気管 ※フレキシブルダクト（・保温付 ・ 保温無） (注)1 使用区分は図示による。</p> <p>3 風量測定口 取付け箇所は、図示した箇所及び下記の箇所とする。 送風機吐出ダクト又は吸込ダクト、外気取入ダクト</p> <p>4 チャンパー (1) 内貼りを施すチャンパーの表示寸法は外法を示す。 (2) 消音内貼りしたチャンパーには、点検口を設けるものとし、点検口の大きさは下記のとおりとする。 ・ 300×300 ・ 300×500 ※400×600 ・ 550×750 (3) 外壁に面するガラリに直接取り付け付けるチャンパー及びホッパーは雨水が滞留しないようにする。</p> <p>5 ダンパー (1) 防煙ダンパー 復帰方式（※遠隔 ・ ） 定格入力DC24V、0.7A以下 (2) ピストンダンパー 復帰方式（※遠隔 ・ ）</p> <p>6 多湿箇所の排気ダクト (1) 排気ダクトの立ち下り箇所は硬質塩化ビニル管（VU）（防火区画直通箇所は換気用耐火二層管）を使用できる。 ※浴室（シャワー室、脱衣室を含む） ・ (2) 水抜き管は（※厨房、浴室 ※結露水が滞留する部分 ・ ）の排気ダクトには設ける</p> <p>7 保 温 下記のダクトの保温を行う。 ※全熱交換器用の隠ぺい部ダクト 仕様はN ・ (イ) ・ X1とする。 保温施工範囲は、給気用OAダクトは全て、また、排気用EAダクトは外壁より1mの部分とする。 ※（※厨房 ・ 湯沸室 ・ ）用の隠ぺい部ダクト（仕様はh ・ (イ) ・ DXとし範囲は図示による）</p> <p>8 試運転調整 風量調整 ※する ・ しない 風量測定 ※する ・ しない 騒音の測定 ※する ・ しない</p>	<p>① 配管材料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>管種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>床下、暗渠内（ビツ内、共同溝を含む。）</td> <td>※SUS ※SGP-PPD ・ポリブテン管 ・ HIVP</td> </tr> <tr> <td>ウエット厨房、浴室等の湿潤シンダー内配管</td> <td>※SUS ※SGP-PPD ・ HIVP ・ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>保温をしない屋外露出部</td> <td>※SUS ※SGP-PPD</td> </tr> <tr> <td>地中埋設部（水道直結部分）</td> <td>※HIVP ・ 水道用ステンレス鋼管 ・水道用ポリエチレン管（PE）</td> </tr> <tr> <td>地中埋設部（一般部分）</td> <td>※HIVP ・ 水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管（PE）</td> </tr> <tr> <td>市営住宅 住戸内</td> <td>※HIVP ※ポリブテン管（さや管ヘッダー工法） ※架橋ポリエチレン管</td> </tr> <tr> <td>便所天井内、PS内（注5）</td> <td>※高密度ポリエチレン管（32A以上） ※ポリブテン管（10mm保温付）</td> </tr> <tr> <td>便所天井内</td> <td>※ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>便所空腔壁内又は衛生器具等接続管</td> <td>※ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>※SUS ※SGP-PPD ・ HIVP ・ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内（ビツ内、共同溝を含む。）</td> <td>※SUS ※SGP-PPD ・ HIVP ・ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>湿潤シンダー内配管</td> <td>※SUS ※SGP-PPD ・ HIVP ・ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>保温をしない屋外露出部</td> <td>※SUS ※SGP-PPD</td> </tr> <tr> <td>地中埋設部（一般部分）</td> <td>※HIVP ・ 水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管（PE）</td> </tr> <tr> <td>便所天井内、PS内（注5）</td> <td>※高密度ポリエチレン管（32A以上） ※ポリブテン管（10mm保温付）</td> </tr> <tr> <td>便所天井内</td> <td>※ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>便所空腔壁内又は衛生器具等接続管</td> <td>※ポリブテン管</td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>※SUS ※SGP-PPD ・ HIVP ・ポリブテン管</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)1. SUSとは、JIS G 3448 またはJWWA G 115に規定するステンレス鋼管とし、継手は一般部（・圧縮 ※ガブワ） ・ 拡管 使用 ・ 廊下流し廻り露出配管（※ガブワ）とする。 2. ステンレス管に取付ける弁は、JV8-1による。 3. 飲料水以外の給水管は、系統別に管外部に配管識別テープを巻く。また、誤接続がないことを確認するため衛生器具の取付完了後、系統毎に着色水を用いた通水試験を行う。 4. 建物導入部において、ポリエチレン管と異種管を接合する場合は、接合部が容易に点検できるように点検用樹を設ける。 5. 二層管に大径管等に接続する場合は、施工状況に応じて高密度ポリエチレン管の使用も可とする。 6. 高密度ポリエチレン管とは、主材料に高密度ポリエチレン樹脂（PE100）を採用し、管と継手を電気融着にて接合するものをいう。 7. 地中埋設部（水道直結部分）は水道事業者の指示による。 8. 樹脂管には熱伸縮による破損を防止する措置を講ずること。 9. 住戸内は、さや管ヘッダー配管システムとする。</p>	施工箇所	管種別	床下、暗渠内（ビツ内、共同溝を含む。）	※SUS ※SGP-PPD ・ポリブテン管 ・ HIVP	ウエット厨房、浴室等の湿潤シンダー内配管	※SUS ※SGP-PPD ・ HIVP ・ポリブテン管	保温をしない屋外露出部	※SUS ※SGP-PPD	地中埋設部（水道直結部分）	※HIVP ・ 水道用ステンレス鋼管 ・水道用ポリエチレン管（PE）	地中埋設部（一般部分）	※HIVP ・ 水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管（PE）	市営住宅 住戸内	※HIVP ※ポリブテン管（さや管ヘッダー工法） ※架橋ポリエチレン管	便所天井内、PS内（注5）	※高密度ポリエチレン管（32A以上） ※ポリブテン管（10mm保温付）	便所天井内	※ポリブテン管	便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管	その他の部分	※SUS ※SGP-PPD ・ HIVP ・ポリブテン管	床下、暗渠内（ビツ内、共同溝を含む。）	※SUS ※SGP-PPD ・ HIVP ・ポリブテン管	湿潤シンダー内配管	※SUS ※SGP-PPD ・ HIVP ・ポリブテン管	保温をしない屋外露出部	※SUS ※SGP-PPD	地中埋設部（一般部分）	※HIVP ・ 水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管（PE）	便所天井内、PS内（注5）	※高密度ポリエチレン管（32A以上） ※ポリブテン管（10mm保温付）	便所天井内	※ポリブテン管	便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管	その他の部分	※SUS ※SGP-PPD ・ HIVP ・ポリブテン管	<p>1 配管材料 屋内消火栓用 一般配管※SGP（白） ・ STPG370（白）Sch40 地中埋設※SGP-VS ・ HIVP ※高密度ポリエチレン管（消火用） 消火用 一般配管※SGP（白） ・ STPG370（白）Sch40 地中埋設※SGP-VS ・ HIVP ※高密度ポリエチレン管（消火用） 不活性ガス消火用 ※STPG370（白）Sch40 ・ STPG370（白）Sch80</p> <p>2 建物導入部配管 図示部分について下記のとおり施工する。 ※埋設用フレキシブルジョイント2本をL字状に設ける。 ・標準図施工4（ ・ (a) ・ (b) ・ (c))</p>
	外 気				屋 内																																																																																
	一般系統		一般系統		一般系統		一般系統																																																																														
	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)																																																																													
夏 期	37.1℃	47.1%	28℃	%	℃	%	℃	%																																																																													
冬 期	0.5℃	49.4%	20℃	%	℃	%	℃	%																																																																													
施工箇所	管種別																																																																																				
床下、暗渠内（ビツ内、共同溝を含む。）	※SUS ※SGP-PPD ・ポリブテン管 ・ HIVP																																																																																				
ウエット厨房、浴室等の湿潤シンダー内配管	※SUS ※SGP-PPD ・ HIVP ・ポリブテン管																																																																																				
保温をしない屋外露出部	※SUS ※SGP-PPD																																																																																				
地中埋設部（水道直結部分）	※HIVP ・ 水道用ステンレス鋼管 ・水道用ポリエチレン管（PE）																																																																																				
地中埋設部（一般部分）	※HIVP ・ 水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管（PE）																																																																																				
市営住宅 住戸内	※HIVP ※ポリブテン管（さや管ヘッダー工法） ※架橋ポリエチレン管																																																																																				
便所天井内、PS内（注5）	※高密度ポリエチレン管（32A以上） ※ポリブテン管（10mm保温付）																																																																																				
便所天井内	※ポリブテン管																																																																																				
便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管																																																																																				
その他の部分	※SUS ※SGP-PPD ・ HIVP ・ポリブテン管																																																																																				
床下、暗渠内（ビツ内、共同溝を含む。）	※SUS ※SGP-PPD ・ HIVP ・ポリブテン管																																																																																				
湿潤シンダー内配管	※SUS ※SGP-PPD ・ HIVP ・ポリブテン管																																																																																				
保温をしない屋外露出部	※SUS ※SGP-PPD																																																																																				
地中埋設部（一般部分）	※HIVP ・ 水道用ポリエチレン管 ・水道配水用ポリエチレン管（PE）																																																																																				
便所天井内、PS内（注5）	※高密度ポリエチレン管（32A以上） ※ポリブテン管（10mm保温付）																																																																																				
便所天井内	※ポリブテン管																																																																																				
便所空腔壁内又は衛生器具等接続管	※ポリブテン管																																																																																				
その他の部分	※SUS ※SGP-PPD ・ HIVP ・ポリブテン管																																																																																				
<p>2 総合試運転調整</p> <p>3 煙 道</p> <p>4 煙 突</p> <p>5 長方形ダクト</p>	<p>※本工事 ・ 別途 風量調整 ※する ○しない 水量調整 ・する ※しない 騒音の測定 ・する ※しない</p> <p>室内気流及びじんあいの測定 ・する ※しない 初期運転状態の記録 ※する ・しない 工事対象範囲の既設機器運転状態の記録 ※する ・しない</p> <p>(1) 鉄板厚（※3.2mm ・ 4.5mm） (2) ばい煙濃度計 ※設ける ・ 設けない (3) ばいじん量測定口 ※設ける（測定口は8φとする） ・ 設けない</p> <p>※別途 ・ 本工事</p> <p>※低圧ダクト（亜鉛鉄板製） 長辺の長さ1500mm以下 ※共板工法 ・ スライドオンフランジ工法 ・ アングルフランジ工法 それ以外の部分 ※アングルフランジ工法 ・高圧1ダクト（亜鉛鉄板製） ・高圧2ダクト（亜鉛鉄板製） ・ステンレス製ダクト（・A区分 ※B区分） ・塩ビ製ダクト（・A区分 ※B区分）</p>	<p>7 保 温 下記のダクトの保温を行う。 ※全熱交換器用の隠ぺい部ダクト 仕様はN ・ (イ) ・ X1とする。 保温施工範囲は、給気用OAダクトは全て、また、排気用EAダクトは外壁より1mの部分とする。 ※（※厨房 ・ 湯沸室 ・ ）用の隠ぺい部ダクト（仕様はh ・ (イ) ・ DXとし範囲は図示による）</p> <p>8 試運転調整 風量調整 ※する ・ しない 風量測定 ※する ・ しない 騒音の測定 ※する ・ しない</p>	<p>2 一体形タンク</p> <p>3 水 栓</p> <p>④ 量 水 器</p> <p>⑤ 量水器樹</p> <p>⑥ 弁 類</p> <p>7 水 栓 柱</p> <p>⑧ 建物導入部配管</p>	<p>1 配管材料 都市ガス ガス事業者の供給規定による。埋設配管はPE管を原則とする。 ・液化石油ガス 一般配管 ※合成樹脂被覆銅管 ・ SGP（白） 地中埋設 ※ ガス用PE管</p> <p>2 漏洩検知装置 遮断装置 漏洩検知装置は、流量検知方式圧力監視型とする。</p> <p>3 液化石油ガスの供給栓 ガス設備工事の施工者にガスの供給権は付帯しない。</p>																																																																																	
<p>6 円形ダクト</p> <p>7 風量測定口</p> <p>8 チャンパー</p> <p>9 吹出口及び吸込口ボックス</p> <p>10 ダンパー</p> <p>11 配管材料</p>	<p>※スパイラルダクト（※亜鉛鉄板製 ・ ステンレス製） ・ 硬質塩化ビニル管（VU） ・換気用耐火二層管（大径認定品） ※フレキシブルダクト（・保温付 ・ 保温無） (注)1 使用区分は図示による。</p> <p>取付け箇所は、図示した箇所及び下記の箇所とする。 送風機吐出ダクト又は吸込ダクト、外気取入ダクト、空調機出口チャンパーの分岐ダクト</p> <p>(1) 内貼りを施すチャンパーの表示寸法は外法を示す。 (2) ダクト接続形の空気調和機等に取り付けるサブライチャンパー、レタンチャンパー及びダクト系で消音内貼りしたチャンパーには、点検口を設けるものとし点検口の大きさは下記のとおりとする。 ・ 300×300 ・ 300×500 ※400×600 ・ 550×750 (3) 外壁に面するガラリに直接取り付け付けるチャンパー及びホッパーは雨水が滞留しないようにする。</p> <p>※亜鉛鉄板製 ・ ガラスウール製</p> <p>(1) 防煙ダンパー 復帰方式（※遠隔 ・ ） 定格入力DC24V、0.7A以下 (2) ピストンダンパー 復帰方式（※遠隔 ・ ）</p> <p>(1) 冷温水管 ※配管用炭素鋼管（白） ・ (2) 冷却水管 ※配管用炭素鋼管（白） ・ (3) プライン管 ※配管用炭素鋼管（黒） ・ (4) 冷媒管 ※断熱材被覆銅管 (保温厚mm ガス管 ※20以上 ・ 10以上 液管 ・ 20以上 ※10以上) (5) ドレン管（屋外） ※硬質塩化ビニル管VP（カラー） ・ 配管用炭素鋼管（白） ドレン管（屋内） ※保温機付空調用ドレン管（LXRDレバ）相当品） ・耐火二層管VP（FDPS-1） ・配管用炭素鋼管（白） ・ 硬質塩化ビニル管VP (消防協議事項： ただし、保温機付空調用ドレン管は、水圧1mを超える配管には使用しない。 (6) 油管 ※配管用炭素鋼管（黒） ・ (7) 蒸気管 給気管 ※配管用炭素鋼管（黒） ・ 還 管 ※圧力配管用炭素鋼管（黒）Sch40 ・ ステンレス鋼管 (8) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管 ※配管用炭素鋼管（白） ・</p> <p>(注) 樹脂管には熱伸縮による破損を防止する措置を講ずること。</p>	<p>1 ダクト ※亜鉛鉄板 ・</p> <p>2 排煙口の形式 ※天井取付（・スリット形 ※スイング形） ・壁取付（・スリット形 ・スイング形）</p> <p>3 排煙口手動開放装置 開放及び復帰方式 ※ワイヤー式 ・ 電気式（遠隔操作 ・ 不要 ・ 要）</p> <p>4 排煙風量測定 建築設備定期検査業務基準書（(一財)日本建築設備・昇降機センター）の排煙風量の検査方法に準ずる。</p>	<p>1 配管材料 ※親メーター（※貨品 ・ ） ・ 子メーター（※買取り ・ ）</p> <p>※水道事業者指定品 ・ 標準図MC形</p> <p>規格はJIS又はJVとし、水道直結部分は10Kとし、指定なきものは10K、それ以外は図示及び標準仕様書による。</p> <p>・防寒コンクリート水栓柱（1200L） ※不凍給水栓 図示部分について下記のとおり施工する。 ※埋設用フレキシブルジョイント2本をL字状に設ける。 ・標準図施工4（ ・ (a) ・ (b) ・ (c)) 水道事業者の集合住宅に関する戸別検針規程に適合するように関連工事業者と調整のうえ施工すること。 水道利用加入金は、別途とする。ただし、水道事業者との調整は本工事に含む。 水道本管からの給水取出し工事は、本工事範囲とする。また、取出し部における舗装の復旧も含む。</p>																																																																																		
<p>12 弁 類</p> <p>13 温度計</p> <p>14 圧 力 計</p> <p>15 瞬間流量計</p> <p>16 油面制御装置</p> <p>17 冷却塔</p>	<p>規格はJIS又はJVとし、指定なきものは10K、それ以外は図示及び共通仕様書による。また、鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。</p> <p>取付部は下記による。 ※熱源機器の冷温水管（出入口共）、冷却水管（出入口共） ※空気調和機の冷温水管（出入口共） ※ダクト接続形空気調和機のサブライチャンパー、レタンダクト、外気取入ダクト及びレタンチャンパー</p> <p>※冷温水ヘッダー（往）及び各選り管 ※熱交換器の温水管（出入口） ・</p> <p>取付部は下記による。 ※熱源機器の冷温水管（出入口共）、冷却水管（出入口共） ※空気調和機の冷温水管（出入口共） ※冷温水ヘッダー（往）及び各選り管 ※熱交換器の温水管（出入口） ・</p> <p>瞬間流量計はピトー管方式によるもので止水コック付とし、型式及び取付部は下記による。なお、着脱部の指示部は（※1個 ・ 個）付属とする。 ・熱源機器の冷温水管、冷却水管の出入口どちらかに（※固定形 ・ 着脱形）を設ける。 ・空気調和機の冷温水管の出入口どちらかに（※固定形 ・ 着脱形）を設ける。</p> <p>※往又は還どちらかの冷温水ヘッダーの各接続管へ（※固定形 ・ 着脱形）を設ける。 制御盤には（※給油ポンプ制御 ※満減油警報 ・ 遠隔警報 ・ 電磁弁制御 ・ 返油ポンプ制御）の端子を設ける。 なお、フロートスイッチ部と制御装置の配管・配線は製造者標準仕様とする。</p> <p>※直交流式 ・ 向流型 ※レジオネラ属菌殺菌剤等の自動薬剤注入装置 ※自動ブロー装置 ・ 補給水は、水道水とし、補給水接続管部分に清掃用の水栓を分岐して設ける。</p>	<p>1 中央監視制御装置 ・有り ※無し</p> <p>2 構成・機能 図示による</p> <p>3 電気計装用機材 使用する電線及びケーブルは、原則としてEM電線またはEMケーブルとする。 屋外・屋内露出の電線は、図面に特記のない限り金属管配線とする。 天井内隠ぺい電線は、図面に特記のない限りケーブル配線とする。</p> <p>1 小便器用節水装置 JIS B 2026（自動水栓）による電気開閉式とし、小便器（※一体形・分離形）とする。</p> <p>2 パリアフリー対応 ・小便器 ※全部ストール形 ・ 一部ストール形 手すり（※本工事 ・ 別途工事） ・洗面器 ※自動水栓（・全部 ※一部） ・ レバー式水栓（一部） ・シャワー ※サーモスタット式 ・ ミキシング式 ※スライドバー ・ フック ※止水機能付節水形シャワーヘッド ・鏡 ※600×1000（耐食鏡） ・ 傾斜鏡（・照明無 ・ 照明付）</p> <p>(1) 器具付属止水栓は ※ドライパー式 ・ ハンドル式 (2) 水抜き栓を使用する場合は、水栓は固定コマ式とする。</p> <p>※AC100V ・ 乾電池等 ・ 自己発電</p> <p>(1) JIS A 4422（温水洗浄便座）とする。 (2) 機能種別 ※温水洗浄 ※除臭 ・ 温風乾燥 ・ トイレ室内暖房 (3) 温水洗浄加熱方式 ※瞬間式 ※貯湯式 (4) 使用流体は、飲料用水道水とする。 (5) リモコン ・ AC100V ・ 乾電池等 ※自己発電</p> <p>器具表又は下記の場合を除き、※節水I型 ・ 節水II型とする。 ・洗浄弁操作方式は、※手動式 ・ 電気開閉式（※センサー式 ・ タッチスイッチ式） ・上層階で使用する大便器洗浄弁は、現地給水管の流動圧を確認し、必要に応じ低圧形とする。</p> <p>・設ける（ビツ内は除く） ※設けない</p> <p>※共用できる ・ 使用できない</p> <p>大便器、小便器の洗浄用に雨水等の利用をしている場合は、その旨をわかりやすく各トイレ毎に表示する。</p> <p>せっけん供給栓等がない場合は、監督員と協議のうえ洗面器、手洗いに設ける。</p>	<p>1 配管材料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施工箇所</th> <th>管種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>床下、暗渠内（ビツ内、共同溝を含む。）</td> <td>※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ※SGP（白） ・</td> </tr> <tr> <td>厨房等の温排水</td> <td>※耐火二層管VP（FDPS-1） ※耐火VVP ・ SGP（白）</td> </tr> <tr> <td>耐火性能を要求される箇所</td> <td>※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</td> </tr> <tr> <td>床下、暗渠内（ビツ内、共同溝を含む。）</td> <td>※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP 耐火性能を要求される場所</td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</td> </tr> <tr> <td>汚水配管</td> <td>※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP 耐火性能を要求される場所</td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</td> </tr> <tr> <td>地中埋設部</td> <td>※RS-VU又はリサイクルVU ・ VU ※REP-VU（経直の場合） ・ RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP</td> </tr> <tr> <td>共通</td> <td></td> </tr> <tr> <td>通気配管</td> <td>耐火性能を要求される箇所</td> </tr> <tr> <td>その他の部分</td> <td>※耐火二層管VP（FDPS-1） ※耐火VVP ・ SGP（白） ※リサイクルVVP又はRF-VVP ・ VVP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注)1. リサイクルVVP、リサイクルVUはJIS K6741の規格をもつ塩ビリサイクル管、RF-VVP、RS-VU又は、REP-VUは標準仕様書第2編2.1.2.6による。 2. 雨水排水を含む場合は、雨水排水は排水配管の材料種別による。 3. 原則として排水配管、汚水配管の管接合部はV45で行う。 4. 樹脂管には熱伸縮による破損を防止する措置を講ずること。</p>	施工箇所	管種別	床下、暗渠内（ビツ内、共同溝を含む。）	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ※SGP（白） ・	厨房等の温排水	※耐火二層管VP（FDPS-1） ※耐火VVP ・ SGP（白）	耐火性能を要求される箇所	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	床下、暗渠内（ビツ内、共同溝を含む。）	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP 耐火性能を要求される場所	その他の部分	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	汚水配管	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP 耐火性能を要求される場所	その他の部分	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	地中埋設部	※RS-VU又はリサイクルVU ・ VU ※REP-VU（経直の場合） ・ RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP	共通		通気配管	耐火性能を要求される箇所	その他の部分	※耐火二層管VP（FDPS-1） ※耐火VVP ・ SGP（白） ※リサイクルVVP又はRF-VVP ・ VVP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管	<p>1 配管材料 屋内消火栓用 一般配管※SGP（白） ・ STPG370（白）Sch40 地中埋設※SGP-VS ・ HIVP ※高密度ポリエチレン管（消火用） 消火用 一般配管※SGP（白） ・ STPG370（白）Sch40 地中埋設※SGP-VS ・ HIVP ※高密度ポリエチレン管（消火用） 不活性ガス消火用 ※STPG370（白）Sch40 ・ STPG370（白）Sch80</p> <p>2 建物導入部配管 図示部分について下記のとおり施工する。 ※埋設用フレキシブルジョイント2本をL字状に設ける。 ・標準図施工4（ ・ (a) ・ (b) ・ (c))</p> <p>1 配管材料 ・都市ガス ガス事業者の供給規定による。埋設配管はPE管を原則とする。 ・液化石油ガス 一般配管 ※合成樹脂被覆銅管 ・ SGP（白） 地中埋設 ※ ガス用PE管</p> <p>2 漏洩検知装置 遮断装置 漏洩検知装置は、流量検知方式圧力監視型とする。</p> <p>3 液化石油ガスの供給栓 ガス設備工事の施工者にガスの供給権は付帯しない。</p> <p>1 厨房機器の固定 原則として、移動を前提とする厨房機器を除き地震時に転倒及びひび割れを起こさないよう、床又は壁に堅固に取り付ける。</p> <p>2 シンク用水栓 ※レバー式泡沫水栓 ・ 自動水栓</p> <p>3 安全装置の機能の適用 標準仕様書第5編1・6・1の表5.1.7安全装置の表中の△の項目はすべて適用とする。</p> <p>舗装版切断時に発生する濁水の処理に係る特記仕様書</p> <p>第1条 この特記仕様書は、埼玉県機械設備工事特別共通仕様書に定めるもののほか、アスファルト舗装版切断時に発生する濁水（以下「濁水」という。）の処理に関し必要な事項を定めるものである。</p> <p>第2条 受注者は、回収した濁水を次のとおり処理するものとする。</p> <p>2 受注者は、別の中間処理施設を選定する場合には、事前に監督員と協議するものとする。</p> <p>第3条 受注者は、舗装版切断作業を行いながら濁水を可能な限り回収し、作業後速やかに回収した濁水を産業廃棄物の汚泥（油分を含む汚泥）として中間処理施設に運搬及び処理するものとする。</p> <p>2 受注者は、汚泥の中間処理業の許可を受けている業者と産業廃棄物処分委託契約を締結しなければならないものとする。</p> <p>3 受注者は、自ら運搬を行う場合を除き、汚泥の収集運搬業の許可を受けている業者と産業廃棄物収集運搬委託契約を締結しなければならないものとする。</p> <p>4 受注者は、濁水の処理に関する履行について、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において定める産業廃棄物管理票（以下「マニフェスト」という。）により管理するものとする。</p> <p>第4条 受注者は、施工計画書において、濁水の回収、運搬及び処理に関する方法を定めなければならないものとする。また、中間処理業者及び収集運搬業者と第3条第3項及び第4項に基づき締結した委託契約書の写し及び許可証の写しを添付すること。</p> <p>2 受注者は、工事検査時にマニフェスト原本を提示する。</p> <p>第5条 濁水処理量については、舗装版の切断延長や切断厚が変わった場合を除き、原則として設計変更の対象としないものとする。</p> <p>2 受注者は、舗装版切断時に濁水を生じない工法を使用する場合には、事前に監督員と協議するものとする。</p> <p>3 この特記仕様書に疑義等が生じた場合については、別途監督員と協議するものとする。</p>																																																									
施工箇所	管種別																																																																																				
床下、暗渠内（ビツ内、共同溝を含む。）	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ※SGP（白） ・																																																																																				
厨房等の温排水	※耐火二層管VP（FDPS-1） ※耐火VVP ・ SGP（白）																																																																																				
耐火性能を要求される箇所	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管																																																																																				
床下、暗渠内（ビツ内、共同溝を含む。）	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP 耐火性能を要求される場所																																																																																				
その他の部分	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管																																																																																				
汚水配管	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP 耐火性能を要求される場所																																																																																				
その他の部分	※RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管																																																																																				
地中埋設部	※RS-VU又はリサイクルVU ・ VU ※REP-VU（経直の場合） ・ RF-VVP又はリサイクルVVP ・ VVP																																																																																				
共通																																																																																					
通気配管	耐火性能を要求される箇所																																																																																				
その他の部分	※耐火二層管VP（FDPS-1） ※耐火VVP ・ SGP（白） ※リサイクルVVP又はRF-VVP ・ VVP ・排水用硬質塩化ビニルライニング鋼管																																																																																				
<p>設計年月日</p> <p>熊谷市 建設課</p>	<p>縮 尺</p> <p>工 事 名 称</p> <p>熊谷市立大幡公民館解体等工事</p> <p>図 面 名</p> <p>機械設備工事特記仕様書（2）</p> <p>図面番号</p> <p>HM-02</p>	<p>2026.1</p>	<p>縮 尺</p> <p>工 事 名 称</p> <p>熊谷市立大幡公民館解体等工事</p> <p>図 面 名</p> <p>機械設備工事特記仕様書（2）</p> <p>図面番号</p> <p>HM-02</p>	<p>2026.1</p>																																																																																	

空調設備 機器表 既存

記号	名称	機器性能	電圧 (φ-V)	動力 (KW)	台数	設置場所	備考
AC-1	空冷ヒートポンプエアコン	天井カセット4方向吹出し 同時ツイン 冷媒R410A			1	1F事務室 (室内機2台)	外:RZYP80KBT(ダikin) 内:FHYCP40K
		室外機:冷房能力 7.1kW相当 室外機重量 64kg	3-200				
		室内機:冷房能力 3.6kW相当 室内機重量 20kg	1-200				
AC-2	空冷ヒートポンプエアコン	壁掛形、ペア 冷媒R32			1	1F会議室	冷媒「フロン」の、撤去処分しない 取外し後、熊谷市役所へ引渡し 外:CU-P80H7(Panasonic) 内:CS-P80K7(Panasonic)
		冷房能力 7.1kW相当 室外機重量 41kg	3-200				
RAC-1	ルームエアコン	壁掛形 冷媒R410A	1-200		1	1F会議室	外:RAS-502AB(東芝キリア) 内:RAS-502B(東芝キリア)
AC-3	空冷ヒートポンプエアコン	壁掛形、ペア 冷媒R410A			2	2F会議室	外:ROA-P400HS(東芝キリア) 内:A1K-P400H(東芝キリア)
		冷房能力 3.6kW相当 室外機重量 33kg	3-200				
		冷房能力 3.6kW相当 室内機重量 12kg					
RAC-3	ルームエアコン	壁掛形 冷媒R410A	1-200		1	2F和室	外:CU-408TB2(National) 内:CS-408TB2-W(National)
RAC-4	ルームエアコン	壁掛形 冷媒R32	1-200		2	2F和室	外:CU-404CJ2(Panasonic) 内:CS-404CJ2-W(Panasonic)
HEX-1	全熱交換換気扇	天井埋込形 処理風量 250m3/h相当	1-100		1	1F事務室	吹出口・吸込口 各1個
EF-1	排気ファン	天井扇 VD-15相当	1-100		2	1F事務室	
EF-2	排気ファン	天井扇 VD-15相当	1-100		1	1Fトイレ	
EF-3	排気ファン	壁付換気扇 20cm形	1-100		1	1Fトイレ	
EF-4	排気ファン	レンジフードファン 処理風量 350m3/h相当	1-100		1	1F湯沸し室	

※RAC-2は欠番
※パッケージエアコンについては有価物処分としても可とする。

衛生設備 機器表 既存

名称	型番	付属品	1階		2階		合計	備考
			女子トイレ	男子トイレ	女子トイレ	男子トイレ		
洋風大便器		タンク式 標準付属品一式	1	1			2	
和風大便器		タンク式 標準付属品一式	1		1		2	
小便器		FV式 壁掛形 標準付属品一式		2	3		5	
洗面器		単水栓	1	1	1		3	

給排水設備 機器表 既存

記号	名称	機器性能	台数	設置場所	備考
	ガス給湯器	屋外壁掛け形 プロパンガス用 給湯専用 16号相当	1	屋外	
	浄化槽	100人槽 排水ポンプ共(口径40mm) フロワ、付属品等	1	屋外	付随配管、付属品等全て撤去

樹リスト 既存

番号	名称	寸法	管底深さ	樹仕様	蓋仕様	備考
A	ため樹	400×400	500	コンクリート樹	鑄鉄製防臭マンホール	撤去
①	コンクリート樹	400×400	540		鑄鉄製防臭マンホール	撤去
②	コンクリート樹	400×400	480		鑄鉄製防臭マンホール	撤去
③	塩ビ樹	φ200	450		樹脂製	撤去
④	塩ビ樹	φ200	435		樹脂製	撤去
⑤	塩ビ樹	φ200	430		樹脂製	撤去
⑥	塩ビ樹	φ200	400		樹脂製	撤去
⑦	塩ビ樹	φ200	440		樹脂製	撤去
⑧	塩ビ樹	φ200	430		樹脂製	撤去
⑨	コンクリート樹	450×450	450		鑄鉄製防臭マンホール	撤去
Ⓐ	コンクリート樹	300×300	500		鑄鉄製防臭マンホール	撤去

特記事項

- ・当機器表および器具表は参考とする。解体する建物に設置された機器および器具は、当ページの機器表および器具表によらず特記なき限り全て撤去・処分とする。
- ・当樹リストは参考とする。解体する建物用の雨水・排水樹は、当ページの樹リストによらず特記なき限り全て撤去・処分とする。

特記

株式会社 サナクト
一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (3) 第 10060 号
設計者 一級建築士 第 267371 号 菅野 孝

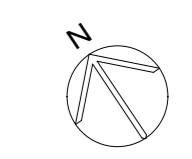
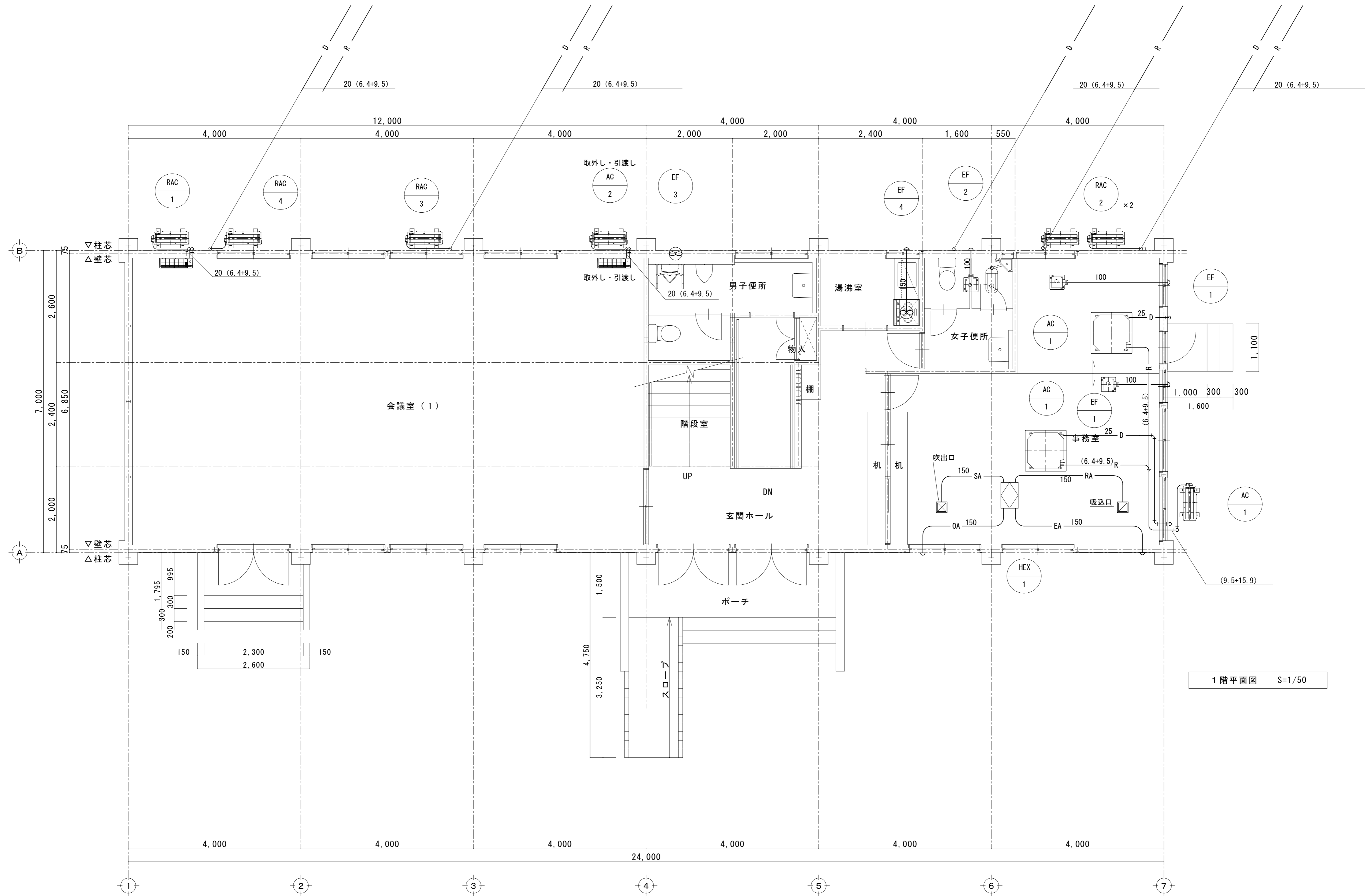
熊谷市建設部営繕課

熊谷市立大幡公民館解体等工事

図面番号
HM-05

既存機器表・器具表・樹リスト

縮尺
NOSC (A1)
NOSC (A3)



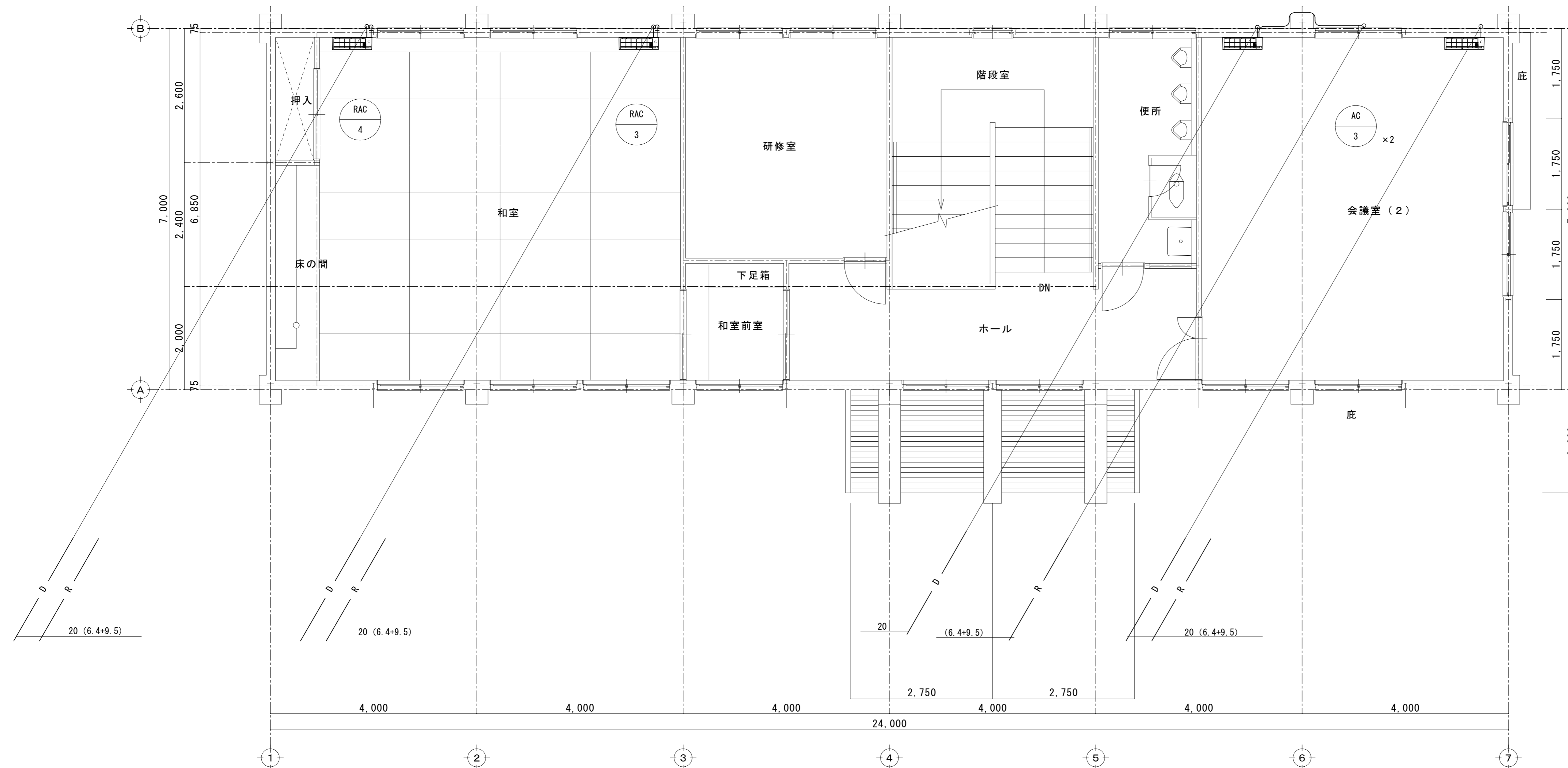
1階平面図 S=1/50

凡例 ※2階平面図共通

-----	(破線) 残置
———	(実線) 撤去

凡例
 アスベスト含有範囲を示す

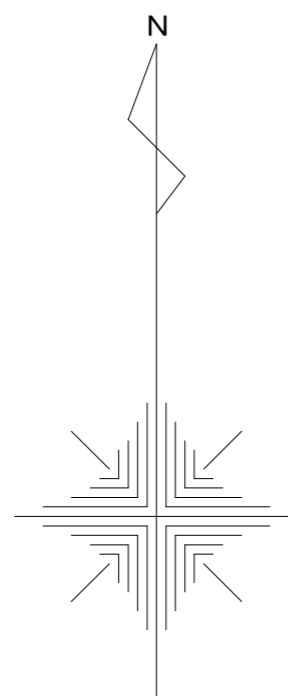
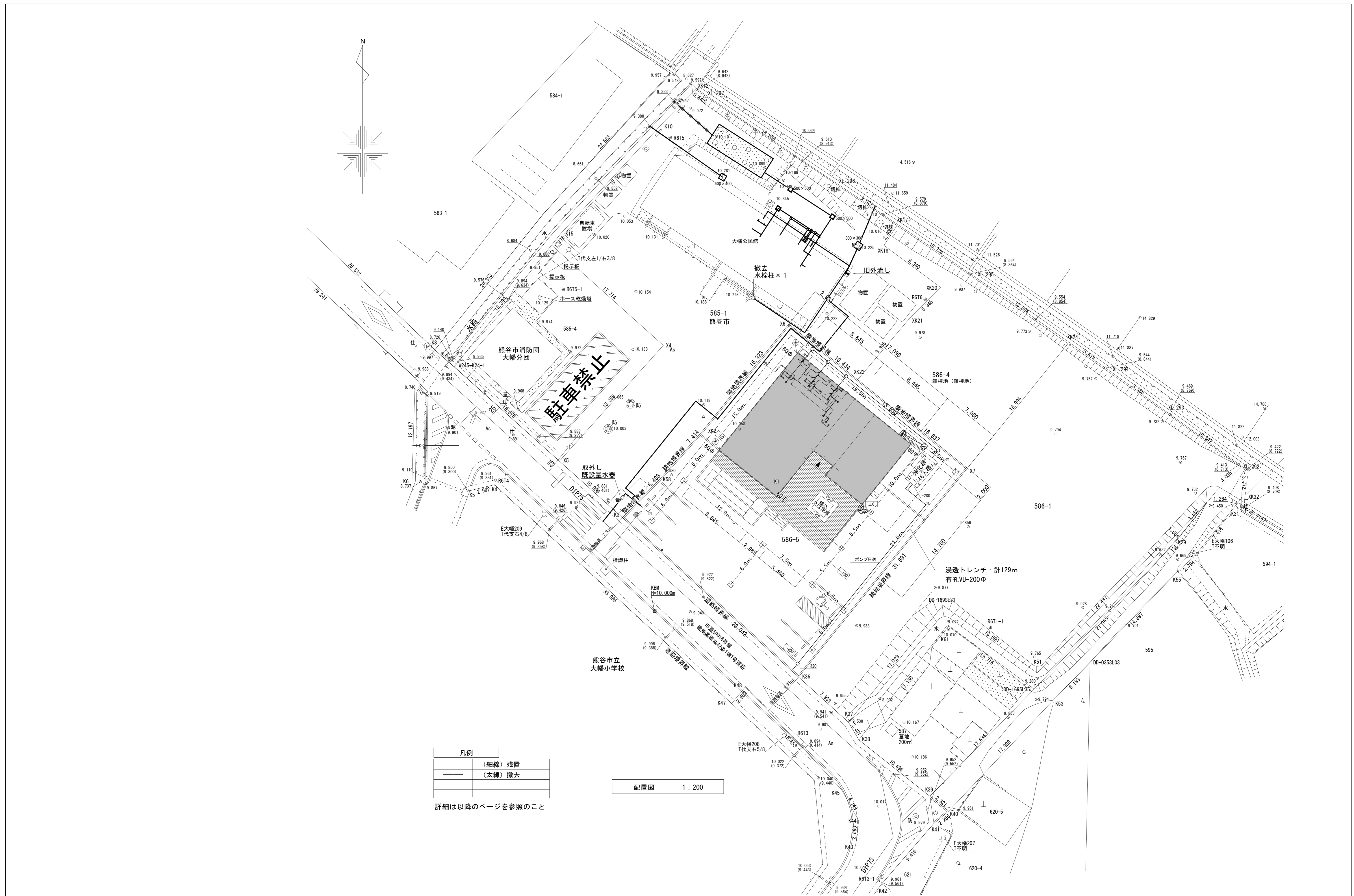
特記	株式会社 サナクト	熊谷市建設部管轄課	件名	熊谷市立大幡公民館解体等工事	図面番号	HM-06
	一級建築士事務所 埼玉県知事登録(3)第10060号 設計者 一級建築士 第267371号 菅野 孝		担当者	空調換気設備1階平面図	縮尺	1:50 (A1) 1:100 (A3)



2階平面図 S=1/50

凡例
 アスベスト含有範囲を示す

特記	株式会社 サナクト	熊谷市建設部営繕課	図面番号	HM-07
	一級建築士事務所 埼玉県知事登録 (3) 第10060号 設計者 一級建築士 第267371号 菅野 孝	担当	図面名	1:50 (A1) 1:100 (A3)
			熊谷市立大幡公民館解体等工事	
			空調換気設備2階平面図	

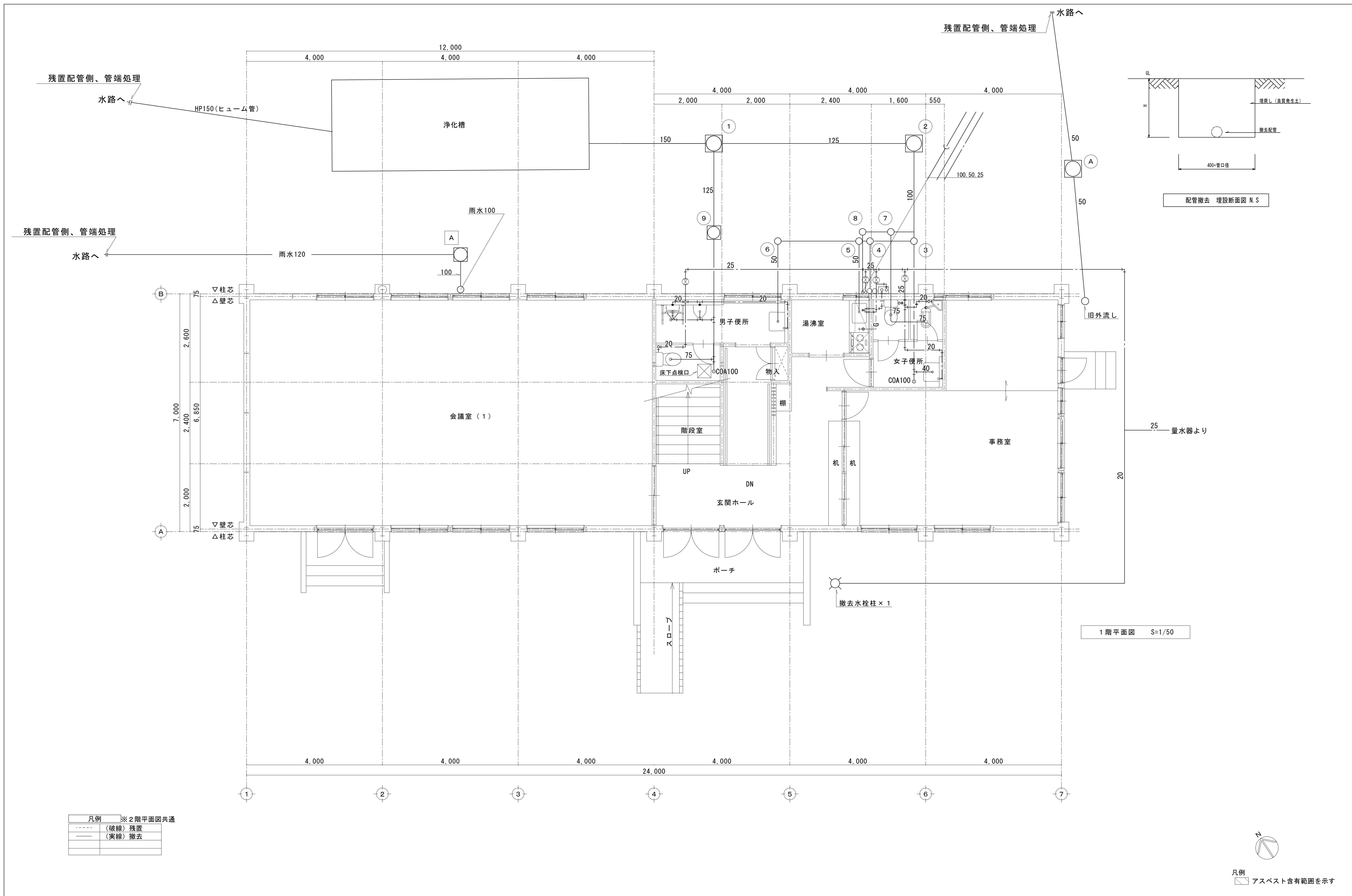


凡例	
	(細線) 残置
	(太線) 撤去

詳細は以降のページを参照のこと

配置図 1:200

特記	株式会社 サナクト	熊谷市建設部営繕課	図面番号	HM-08
	一級建築士事務所 埼玉県知事登録(3)第10060号 設計者 一級建築士 第267371号 菅野 孝		図面名	熊谷市立大幡公民館解体等工事 既存配置図・外構平面図
			担出	縮尺 1:200(A1) 1:400(A3)



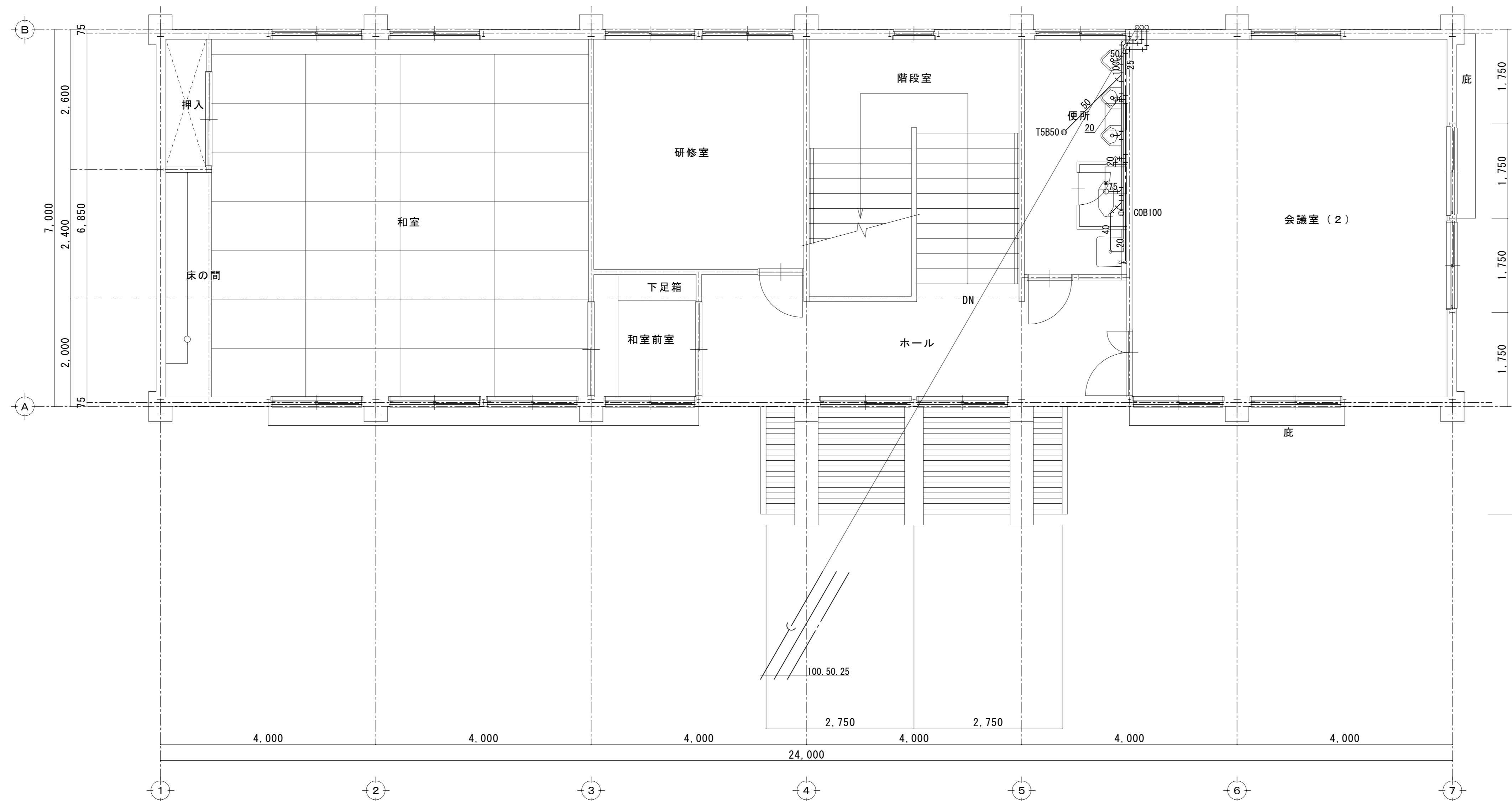
※ 2階平面図共通

凡例	
--- (破線)	残置
— (実線)	撤去

1階平面図 S-1/50

凡例
 アスベスト含有範囲を示す

特記	株式会社 サナクト	熊谷市建設部管轄課	件名	熊谷市立大幡公民館解体等工事	図面番号	HM-09
	一級建築士事務所 埼玉県知事登録(3)第10060号 設計者 一級建築士 第267371号 菅野 孝		図面名	給排水衛生設備1階平面図	縮尺	1:50 (A1) 1:100 (A3)



2階平面図 S=1/50

凡例
 アスベスト含有範囲を示す

特記

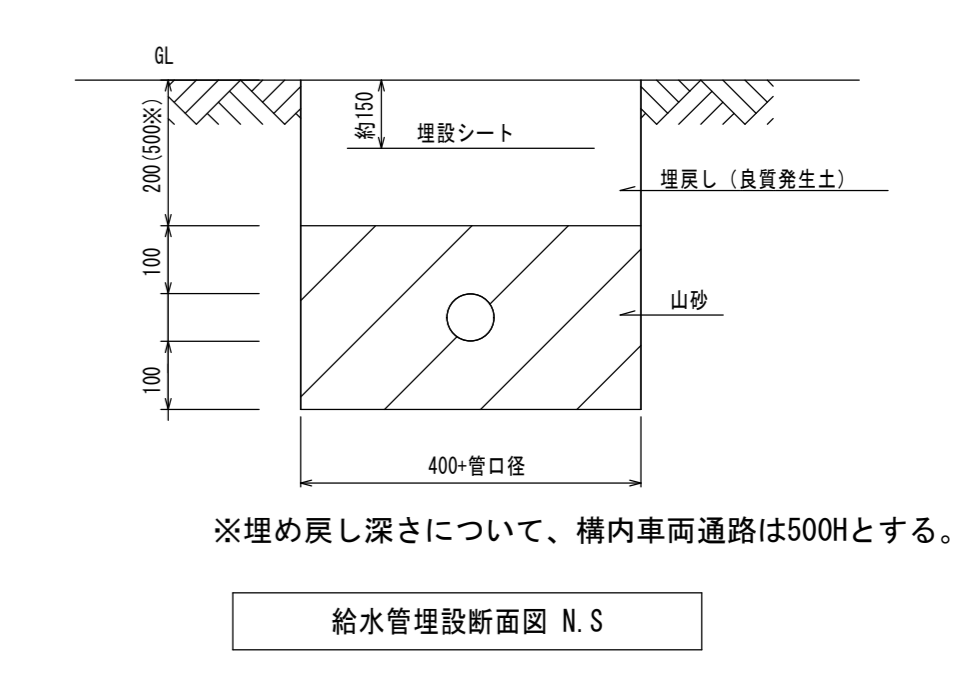
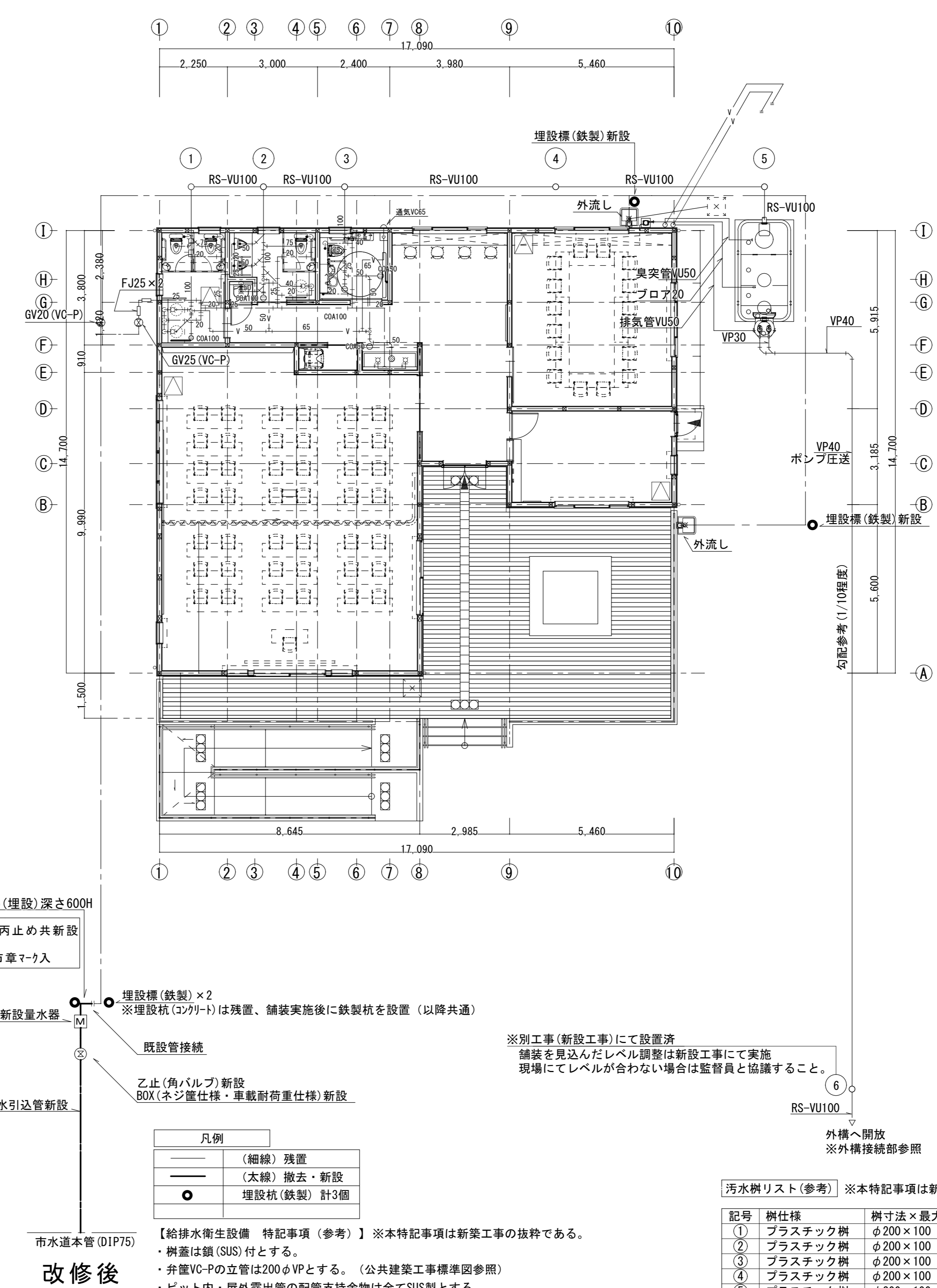
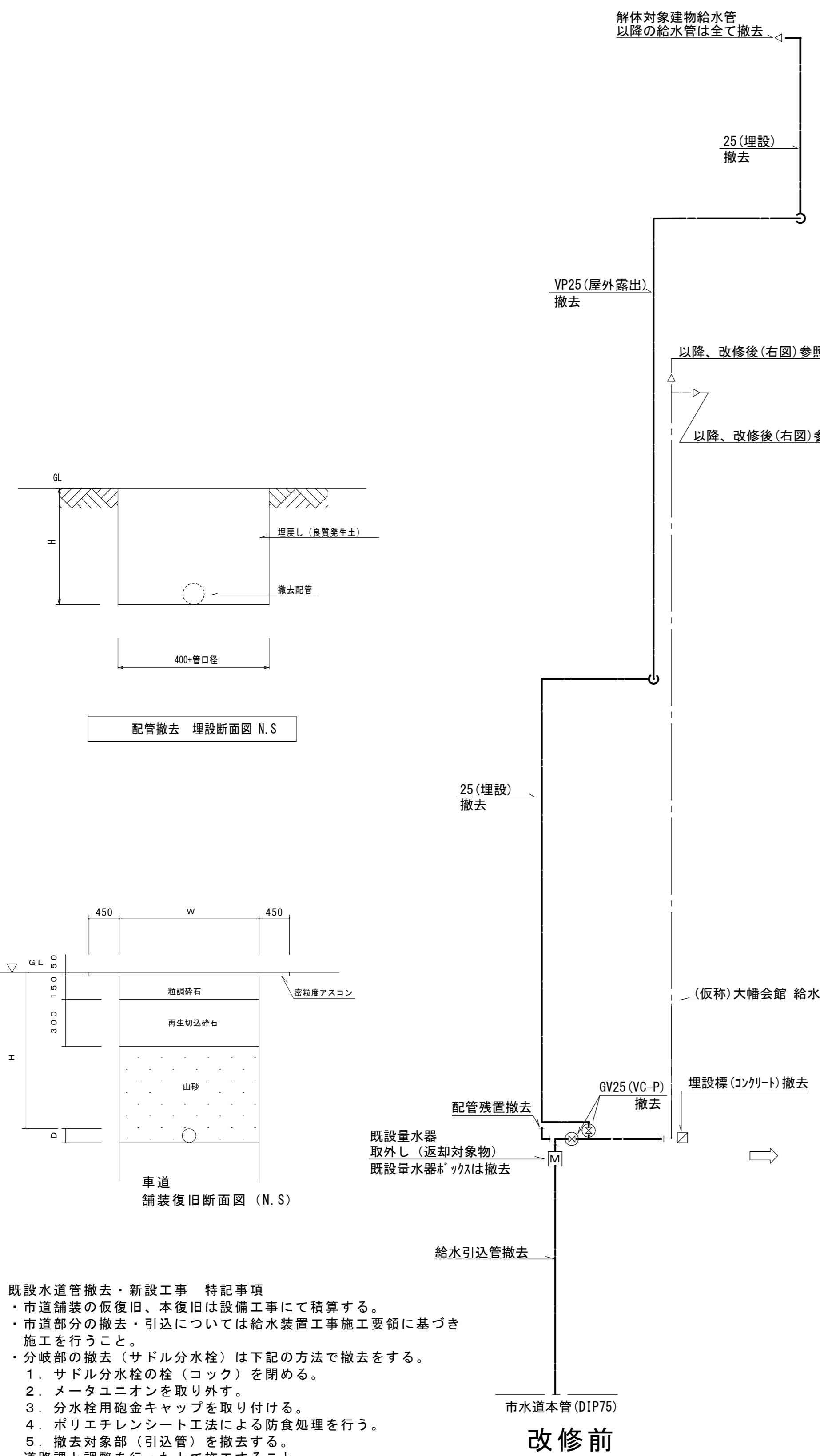
株式会社 サナクト
 一級建築士事務所 埼玉県知事登録(3)第10060号
 設計者 一級建築士 第267371号 菅野 孝

熊谷市建設部営繕課

図面番号	HM-10
図面名	給排水衛生設備2階平面図
縮尺	1:50 (A1) 1:100 (A3)

件名
 熊谷市立大幡公民館解体等工事

担当



※埋め戻し深さについて、構内車両通路は500Hとする。

- 既設水道管撤去・新設工事 特記事項
- ・市道舗装の仮復旧、本復旧は設備工事にて精算する。
 - ・市道部分の撤去・引込については給水装置工事施工要領に基づき施工を行うこと。
 - ・分岐部の撤去(サドル分水栓)は下記の方法で撤去をする。
 1. サドル分水栓の栓(コック)を閉める。
 2. メータユニオンを取り外す。
 3. 分水栓用砲金キャップを取り付ける。
 4. ポリエチレンシート工法による防食処理を行う。
 5. 撤去対象部(引込管)を撤去する。
 - ・道路課と調整を行った上で施工すること。

凡例

(細線)	残置
(太線)	撤去・新設
○	埋設標(鉄製)計3個

- 【給排水衛生設備 特記事項(参考)】※本特記事項は新築工事の抜粋である。
- ・樹蓋は鎖(SUS)付とする。
 - ・弁置VC-Pの立管は200φVPとする。(公共建築工事標準図参照)
 - ・ピット内・屋外露出管の配管支持金物は全てSUS製とする。
 - ・配管および機器の支持金物について、あと施工アンカーは躯体種別毎かつアンカーの種類毎に引張試験を1箇所実施すること。なお、試験加重については監督員に確認すること。
 - ・浄化槽は設置後、山砂で埋め戻すこと。
 - ・埋設するフレキシブルジョイントはポリスリーブで覆うなどの防食処理を施すこと。

汚水樹リスト(参考) ※本特記事項は新築工事の抜粋である。

記号	樹仕様	樹寸法×最大管径	管底(H)	樹仕様、蓋仕様	地盤高	管底高	備考
①	プラスチック樹	φ200×100	260	90L 塩ビふた			
②	プラスチック樹	φ200×100	280	90Y 塩ビふた			
③	プラスチック樹	φ200×100	310	90Y 塩ビふた			
④	プラスチック樹	φ200×100	380	ST 塩ビふた			
⑤	プラスチック樹	φ200×100	450	90L 塩ビふた			浄化槽流入480、放流280H
⑥	プラスチック樹	φ200×100	320	ST 防護蓋T-8			かご付き